

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報

第 30 号 (2024 年度)

KPMNH Yearbook

No. 30

2024. 4 – 2025. 3

Web 版



神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Odawara, Kanagawa, JAPAN

Sept. 2025

ごあいさつ

神奈川県立生命の星・地球博物館は、2025年3月に開館30周年を迎えました。当館は、この30年間、館の使命に基づき、「集める」「調べる」「伝える」の博物館活動と、適正な施設の管理・運営を行うことができました。これも皆様方の常日頃からの当館の活動と運営についてのご理解とご協力、ご支援の賜物であり、あらためてお礼申し上げます。

さて、本誌「神奈川県立生命の星・地球博物館年報」は当館の1年間の活動記録で、本号は第30号となります。以下にその概要をお伝えします。

博物館活動の「集める」（資料の収集・整理・保管）では、昨年度の博物館収蔵資料管理システム（ミュージテーク）への資料登録点数は寄贈資料を中心に約4万8千点で、開館以来の累計では125万点に届く状況です。寄贈者の方々の当館の活動に対するご理解に感謝します。これらの資料は、館内だけでなく外部の研究、展示、広報などの諸活動に広く利用されています。

「調べる」（調査・研究）では、各学芸員が日頃の研究成果を国内外の学術誌や学会で発表したほか、館の学術成果出版物として「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）第54号」や「神奈川自然誌資料第46号」を出版（ともに電子出版）することができました。また、日本学術振興会科学研究費をはじめとする外部研究助成金を継続的に獲得し、研究活動の活性化に資しています。

「伝える」（展示・学習支援）では、30周年を記念した特別展「生命の星・地球博物館の30年 ―120万点から厳選した資料で振り返る―」を開催し、これまで収集した資料により、3つの博物館活動を振り返りました。企画展「すな一ふしぎをみつけよう―」は、これまで開催された特別展・企画展の中でも、もっとも多くの体験型の展示コーナーを設けた構成で、画期的な企画展だったと考えます。さらに、観察会や実習、講座などの各種行事やレファレンス対応、中高生の職場体験やインターンシップ、博物館実習、博物館ボランティアや博物館友の会の活動も、ほぼ年度当初の予定通り、事故もなく実施できました。ウェブサイトのコンテンツの充実やSNSによる各種情報発信も、新しい時代のツールの活用として、引き続き力を注ぎました。

30周年を迎えた、生命の星・地球博物館ですが、10年先、30年先、50年先へ、引き続き「集める」「調べる」「伝える」の博物館活動を充実させ、博物館利用者の皆様に満足いただける館運営を行いたいと考えていますので、今後とも当館の活動にご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

2025年9月

神奈川県立 生命の星・地球博物館

館 長 田中 徳久

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命

神奈川県立生命の星・地球博物館は、地球と生命・自然と人間がともに生きることをテーマに活動する自然史博物館として、地球全体の過去から現在にわたって幅広く、また、神奈川県を中心に、自然科学に関する資料を収集・収蔵管理し、次の世代に引き継ぐ。あわせて、これらの資料を基にした調査・研究結果を原動力として、生涯学習や学校教育の支援ならびに社会的貢献を行うことにより、人々の心に地球の自然に対する愛着と感動を呼び起こすことを使命とする。



シンボルマークは、生命の根源（DNA）を表すスパイラル（らせん）をイメージしています。スパイラルとは「時の流れ」を現すものであり、脈々として地球

の営み、生命の進化の足跡をたどるものです。また同時に、私たちの銀河系、地球とそこに生きるものすべてが属している宇宙のかたちをシンボル化しているものです。

神奈川県立 生命の星・地球博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

ロゴタイプは、視覚的、感覚的に訴える力が強く、他との区別をはかるために設定しました。シンボルマークとの調和を保ち、ニュートラルで読みやすいものをめざしました。

目次

ごあいさつ

神奈川県立生命の星・地球博物館の使命
シンボルマーク・ロゴタイプ

I 沿革.....	4	5. 7. 広報	61
1. 沿革	4	5. 8. 来館者アンケート	62
2. 2024 年度の主な出来事	5	6. 刊行物	64
3. 災害等による措置	5	6. 1. 定期刊行物	64
II 機能.....	6	6. 2. 不定期刊行物	65
1. 運営管理機能	6	6. 3. 刊行物販売状況	65
1. 1. 事業体系	6	7. 情報システム	66
1. 2. 組織	7	7. 1. システムの概要	66
1. 3. 職員名簿	8	7. 2. サブシステムの紹介	67
1. 4. 利用者	9	7. 3. インターネットの利用	68
1. 5. 歳入歳出決算	11	7. 4. 情報提供	68
1. 6. 事業評価	11	8. 連携機能	69
2. 情報発信機能	12	8. 1. 友の会	69
2. 1. 常設展示	12	8. 2. サロン・ド・小田原	70
2. 2. 特別展示	14	8. 3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会	70
2. 3. その他の展示	16	8. 4. 館内施設等の状況	72
2. 4. SEISA ミュージアムシアター	16	III 資料.....	web
2. 5. ミューズ・フェスタ 2025.....	17	1. 条例・規則	web
3. シンクタンク機能	19	1. 1. 神奈川県立の博物館条例	web
3. 1. 調査研究事業	19	1. 2. 神奈川県立の博物館組織規則	web
3. 2. 研究助成金による研究	22	1. 3. 神奈川県立の博物館の利用に関する規則	web
3. 3. 著作活動・学会発表等	23	2. 館年表	web
3. 4. レファレンス対応人数	32	2. 1. 再編整備決定から開館まで	web
3. 5. 各種委員・役員・非常勤講師	32	2. 2. 開館から 2024 年度末まで	web
3. 6. 講師依頼等	35	3. 統計資料	web
3. 7. 学術交流	36	3. 1. 年度別利用者数の推移	web
3. 8. 他施設・団体への協力	36	3. 2. 特別展・企画展開催実績	web
3. 9. 外部研究者の受け入れ	37	3. 3. 資料登録実績	web
3. 10. 名誉館員	42	3. 4. ウェブサイトアクセス実績	web
4. データバンク機能	43	3. 5. 収蔵資料データベースのアクセス実績	web
4. 1. 資料概況	43	3. 6. 魚類写真資料データベースのアクセス実績	web
4. 2. 図書資料収集状況	49	3. 7. FishPix のアクセス実績	web
4. 3. 資料利用状況	50	3. 8. WESKAMS ミュージアム・リレー開催記録	web
4. 4. 資料燻蒸	51	4. 施設概要	web
5. 学習支援機能	52	4. 1. 土地・建物	web
5. 1. 生涯学習への対応	52	4. 2. 設備	web
5. 2. 学校教育への対応	55	4. 3. 面積表	web
5. 3. 博物館実習	56	4. 4. 平面図	web
5. 4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動	57		
5. 5. 学習指導員による学習支援活動	58		
5. 6. 博物館のボランティア活動	60		

I 沿革

1. 沿革

1986 年	12 月	第二次新神奈川計画において、博物館の再編整備が決定
1988 年	7 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）を小田原市入生田に建設することが決定
	12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会（座長：渡邊 格（慶應義塾大学名教授））から提言
1989 年	3 月	神奈川県立自然系博物館（仮称）整備計画策定
	4 月	教育庁社会教育部社会教育課に博物館建設準備班を設置
1990 年	3 月	自然系博物館の建設事業が、小田原市との協調事業となる
	10 月	建築基本設計着手
1991 年	3 月	自然系博物館（仮称）建設用地（小田原市入生田）取得
	4 月	組織改正により教育庁社会教育部社会教育課が、生涯学習部生涯学習課となる
	10 月	第一期造成工事着手
1992 年	4 月	組織改正により生涯学習部博物館開設準備室となり、企画調整班、自然系整備班、人文系整備班、展示・資料整備班の 4 班体制となる
	10 月	自然系博物館（仮称）建築工事着工 自然系博物館（仮称）展示工事着工
1994 年	12 月	自然系博物館（仮称）建築工事竣工
1995 年	1 月 1 日	神奈川県立生命の星・地球博物館が機関設置され、濱田隆士館長就任。管理部に管理課、経理課、企画情報部に企画普及課、情報資料課及び学芸部の 3 部 4 課を置く
	3 月	博物館法第 11 条の規定に基づく登録博物館となる
		生命の星・地球博物館展示工事竣工
	3 月 8 日	平成 6 年度第 1 回神奈川県博物館協議会（神奈川県立歴史博物館）
	3 月 20 日	開館記念式典実施
	3 月 21 日	一般公開開始
	5 月 7 日	入館者 10 万人到達（41 日目）
	9 月 24 日	入館者 30 万人到達（158 日目）
1996 年	4 月	シンボルマーク製作
	4 月 17 日	入館者 50 万人到達（321 日目）
1997 年	7 月 23 日	入館者 100 万人到達（705 日目）
1998 年	3 月 30 日	天皇皇后両陛下下行幸啓
	11 月 3 日	入館者 150 万人到達（1,090 日目）
2000 年	3 月 31 日	濱田隆士館長退任
	4 月 1 日	青木淳一館長就任
	8 月 6 日	入館者 200 万人到達（1,613 日目）
	10 月 7 日	天皇陛下下行幸
2001 年	3 月 27 日	神奈川県博物館協議会を廃止
2002 年	7 月 19 日	入館者 250 万人到達（2,206 日目）
2004 年	5 月 25 日	入館者 300 万人到達（2,770 日目）
2006 年	3 月 31 日	青木淳一館長退任
	4 月 1 日	管理課と経理課が統合され、管理課、企画情報部の企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
		斎藤靖二館長就任
	7 月 8 日	入館者 350 万人到達（3,409 日目）
2008 年	8 月 12 日	入館者 400 万人到達（4,062 日目）
2010 年	10 月 21 日	入館者 450 万人到達（4,863 日目）
2012 年	8 月 3 日	入館者 500 万人到達（5,183 日目）
2013 年	10 月 8 日	天皇陛下下行幸
2014 年	1 月 13 日	入館者 550 万人到達（5,716 日目）
	3 月 31 日	斎藤靖二館長退任
	4 月 1 日	平田大二館長就任 斎藤靖二名誉館長就任
2015 年	8 月 29 日	入館者 600 万人到達（6,190 日目）
2017 年	5 月 3 日	入館者 650 万人到達（6,667 日目）
2018 年	10 月 26 日	入館者 700 万人到達（7,104 日目）
2020 年	3 月 4 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

2020 年	7 月	1 日	再開館
2020 年	11 月	5 日	入館者 750 万人到達 (7,594 日目)
2021 年	1 月	12 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館
2021 年	3 月	22 日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館を継続 (ただし事前に予約をされた方に限り入館可能)
2022 年	3 月	22 日	通常開館
2022 年	3 月	31 日	斎藤靖二名誉館長退任
	5 月	31 日	平田大二館長退任
	6 月	1 日	田中徳久館長就任
	7 月	26 日	入館者 800 万人到達 (8,220 日目)
2024 年	3 月	14 日	改正博物館法に基づく博物館登録

2. 2024 年度の主な出来事

2024 年 2 月 23 日～2024 年 5 月 12 日	企画展「動物のくらしとかたち―薮内正幸が描いた生態画の世界―」
2024 年 4 月 1 日	定期人事異動
2024 年 6 月 11 日～2024 年 6 月 14 日	館内燻蒸
2024 年 7 月 13 日～2024 年 11 月 4 日	30 周年記念特別展「生命の星・地球博物館の 30 年 ―120 万点から厳選した資料で振り返る―」
2024 年 12 月 21 日～2025 年 1 月 13 日	子ども自然科学作品展 (2024 年度)
2025 年 2 月 22 日～2025 年 5 月 11 日	企画展「すな―ふしぎをみつけよう―」
2025 年 3 月 15 日～2025 年 3 月 16 日	ミューズ・フェスタ 2025 開催

2024 年度 開館日数：287 日 業務日数：306 日

3. 災害等による措置

【日時】

2024 年 8 月 30 日 (金) から 8 月 31 日 (土)

【災害について】

台風 10 号の通過と記録的な大雨により小田原市を含む神奈川県内に特別警報が発令された。速度が非常に遅く、台風から離れた場所でも大雨をもたらした。

【公共交通機関への影響】

小田急線 (伊勢原駅～小田原駅) 上記期間は終日運休

東海道線 (小田原駅～熱海駅) 上記期間は終日運休

箱根登山線 (小田原駅～箱根湯本駅) 8 月 30 日 (金) は 16 時以降運休、8 月 31 日 (土) は始発から運休 (正午までに運転再開)。

【避難所開設】

小田原市と入生田自治会及び当館との「土砂災害発生時等における一時避難場所としての使用に関する協定書」に基づき、当館東側講義室を一時避難所として開設した。入生田自治会関係者が設営し、8 月 30 日 (金) 9 時から 9 月 1 日 (日) 21 時までの間に 5 世帯 7 名が利用。

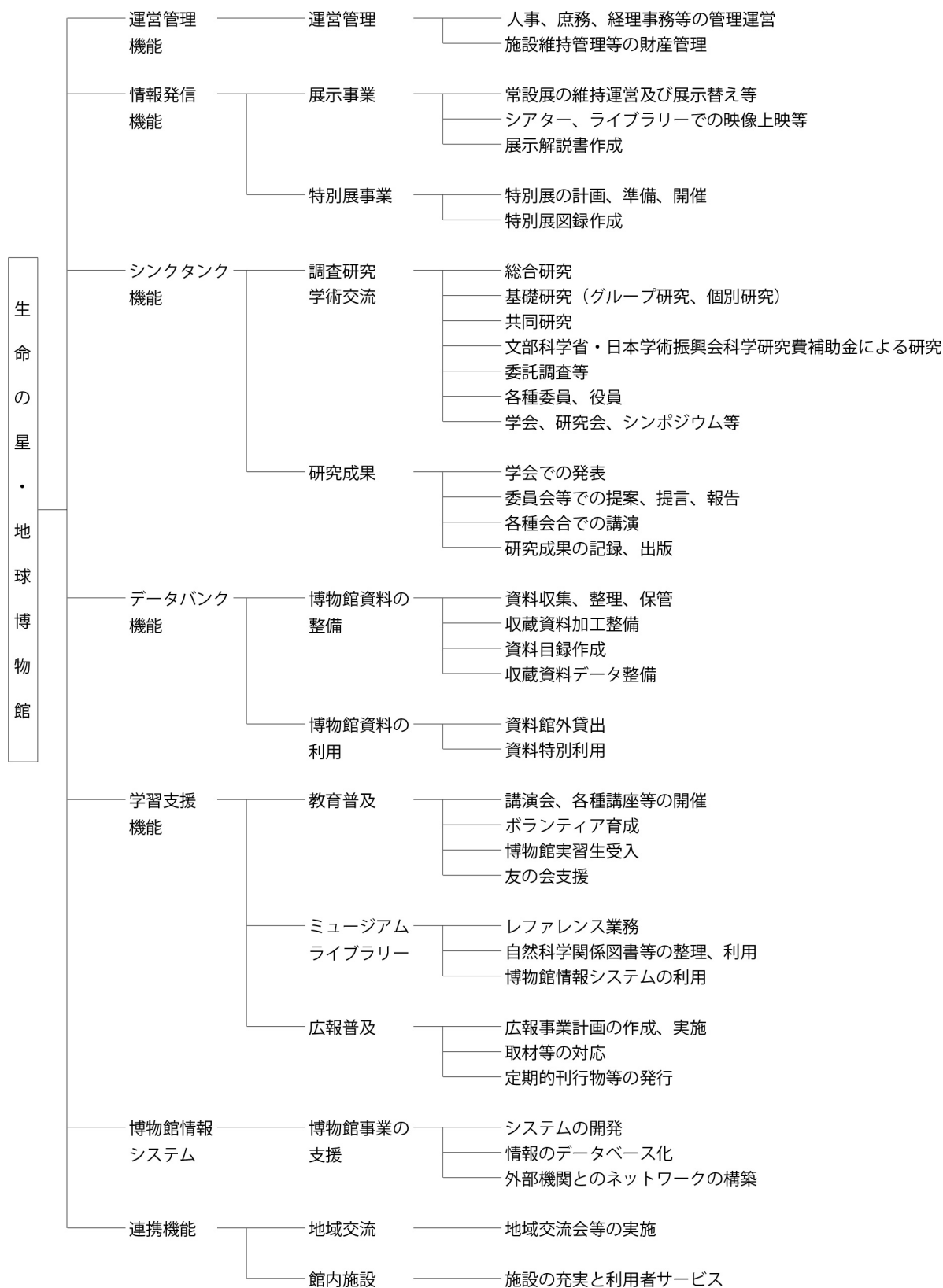
【臨時休館等】

8 月 30 日 (金) は入館を 15 時 30 分までとし、16 時で閉館した。8 月 31 日 (土) は終日臨時休館とした。8 月 31 日 (土) の休館については県政記者クラブ・小田原記者クラブに記者発表資料を参考送付。

II 機能

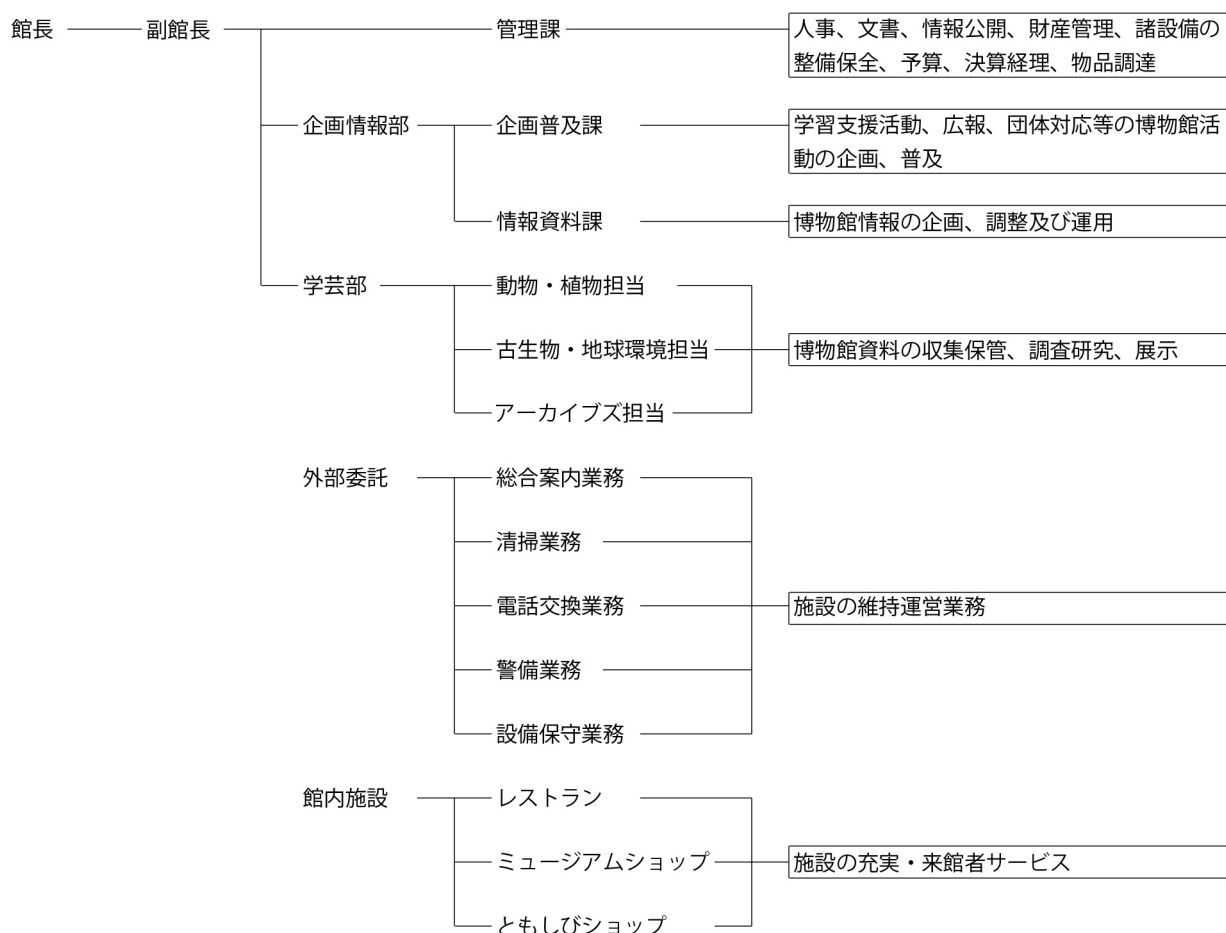
1. 運営管理機能

1.1. 事業体系



1.2. 組織

1.2.1. 組織および分掌



1.2.2. 職員構成

令和7年5月1日現在											
区分	常勤		再任用			会計年度任用職員					合計
	事務職	学芸員	事務職	学芸員	指導員	事務職	技術職	学芸員	司書	指導員	
館長		1									1
副館長	1										1
管理課	課長	1									1
		6				7	1				14
	小計	7				7	1				15
企画情報部	部長	1									1
	企画普及課	課長		1							1
			1	3	1	3				4	12
	情報資料課	課長		1							1
			1	1		2		1	3		8
	小計	3	6		1	5		1	3	4	23
学芸部	部長		1								1
	動物・植物担当		6								6
	古生物・地球環境担当		6								6
	小計		13								13
合計	11	20	0	0	1	12	1	1	3	4	53

1.3. 職員名簿

[令和6年4月1日～令和7年3月31日]

職名		氏 名	担当分野/備考	
館長		田中 徳久	植物（植物生態）	
副館長		大河原 邦治		
企画情報部	管理課	課長	佐伯 有紀	
		副主幹	小林 優宏	
		主事	相馬 夏実	
		〃	齋木 杏里紗	
		〃	土田 凌生	～R6. 9. 30
		〃	鈴木 若菜	
		臨時的任用職員	遠藤 啓一	R6. 11. 1～
		会計年度任用職員（技術嘱託）	清水 光久	
		〃（事務補助員）	和田 千晶	
		〃（ 〃 ）	春口 清隆	～R6. 6. 6
		〃（ 〃 ）	池嶋 美代子	
		〃（ 〃 ）	田村 哲	R6. 7. 1～
		〃（ 〃 ）	高橋 律子	R6. 7. 1～
		〃（ 〃 ）	内田 茂	R6. 10. 1～
	〃（ 〃 ）	仲手川 則子	～R6. 7. 31	
	部長	芳賀 洋一		
	企画普及課	課長＊	山下 浩之	地学（岩石）
		主任学芸員＊	折原 貴道	植物（菌類）
		〃	渡辺 恭平	動物（昆虫類）
		学芸員＊	西澤 文勝	地学（火山地質）
主事		中村 友美子	R6. 5. 1～	
〃（暫定再任用）		坂巻 功		
臨時的任用職員		三橋 秀子	～R6. 4. 30	
会計年度任用職員（事務補助員）		本杉 弥生		
〃（ 〃 ）		石持 みずき		
博物館学習指導員（暫定再任用）		水嶋 淳		
会計年度任用職員（学習指導員）		森泉 誠司		
〃（ 〃 ）		柚原 章		
〃（ 〃 ）		吉成 美香子		
〃（ 〃 ）		川島 祐輔		
情報資料課	課長＊	加藤 ゆき	動物（鳥類）	
	学芸員＊	石田 祐子	植物（維管束植物）	
	主事	平澤 恭子		
	会計年度任用職員（学芸員）＊	大坪 奏	アーカイブズ	
	〃（事務補助員）	佐藤 恵		
	〃（ 〃 ）	平尾 葉子		
	〃（司書）	土屋 定夫		
	〃（ 〃 ）	小林 瑞徳		
	〃（ 〃 ）	望月 千奈		
学芸部	部長	佐藤 武宏	動物（無脊椎動物）	
	動物・植物担当	主任学芸員	苅部 治紀	動物（昆虫類）
		〃	大西 亘	植物（維管束植物）
		〃	松本 涼子	動物（両生爬虫類）
		〃	鈴木 聡	動物（哺乳類）
		学芸員	西村 双葉	動物（哺乳類）
		〃	和田 英敏	動物（魚類）
	古生物・地球環境担当	次席・主任学芸員	新井田 秀一	環境科学（海洋光学）
		〃	大島 光春	古生物（哺乳類）
		〃	石浜 佐栄子	地学（地球化学）
		主任学芸員	樽 創	古生物（哺乳類）
		〃	田口 公則	古生物（貝類）
		学芸員	夏目 樹	地学（鉱物）

* 学芸部を兼務

1.4. 利用者

2024 年度の博物館利用者数について、利用内容ごとに延べ人数を集計した。学芸員によるレファレンス対応人数の詳細は 32 ページ、それ以外の利用者状況詳細は 10 ページを参照のこと。

博物館利用者 284,143 人

2024 年度の博物館総利用者数。「入館者」＋「講座・観察会・講演会・研修等参加者」＋「ボランティア活動実施者」＋「学芸員への質問・相談者」＋「資料利用者」の合計。

入館者 271,143 人（945 人／開館日）

エントランスに設置したカウンターにより集計。

常設展入場者 229,049 人（798 人／開館日）

券売機による発券数に基づき集計。招待券については無料券と引き替えて算入。

特別展・企画展等入場者 98,307 人

「特別展」と「企画展」を主とした特別展示室入場者数。特別展示室の出入口に設置したカウンターにより集計。

ライブラリー利用者 88,846 人

ライブラリー出入口に設置したカウンターにより集計。書籍閲覧、学習指導員による学習支援、レファレンスなど。

講座・観察会・講演会・研修等参加者 6,453 人

講座・観察会、講演会、研修（館内で実施のもの）、サロン・ド・小田原、よろずスタジオ・共催よろずスタジオ、大学生の博物館館園実習、インターンシップ、職場体験の参加者数。

ボランティア活動実施者 2,528 人

学芸ボランティア、ライブラリーボランティア、展示・普及ボランティアの活動実施者。

学芸員への質問・相談者 3,643 人

学芸員によるレファレンス対応人数。来館、電話、ファックス、手紙、電子メール、現地確認などを通じた延べ対応人数で、マスコミ取材、企業や自治体からの質問、相談等を含む。

資料利用者 376 人

研究目的の利用、他館での展示利用やテレビ番組・新聞報道での利用など研究以外の利用の依頼者。

1.4.1. 常設展示室の入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開館日数		25	26	20	27	30	24	26	25	19	20	21	24	287	
有料入場者数	個人	成年	6,765	7,350	6,228	10,052	17,634	10,049	6,979	6,638	4,130	5,355	7,776	7,992	96,948
		未成年・学生	226	279	243	279	665	542	223	271	159	166	377	620	4,050
		高校生	150	158	75	211	643	114	158	126	77	111	126	275	2,224
		65歳以上	1,434	1,181	935	1,735	3,090	1,541	1,488	1,293	754	774	949	1,331	16,505
	団体	成年	0	91	22	332	394	399	382	361	47	37	211	80	2,356
		未成年・学生	0	0	0	9	27	27	75	1	0	0	27	0	166
		高校生	0	0	0	4	19	47	46	0	0	0	20	25	161
		65歳以上	0	165	54	44	67	80	337	508	20	119	134	74	1,602
	小 計		8,575	9,224	7,557	12,666	22,539	12,799	9,688	9,198	5,187	6,562	9,620	10,397	124,012
	無料入場者数	園児	1,541	1,531	1,783	2,865	4,293	2,722	2,143	1,852	1,067	1,738	3,173	3,523	28,231
小学生		2,683	4,395	3,326	3,860	7,109	5,234	4,552	5,836	1,930	1,849	2,562	3,635	46,971	
中学生		975	676	617	655	1,623	595	496	424	499	249	220	477	7,506	
障がい者		587	538	530	1,037	1,476	1,121	891	855	465	415	638	652	9,205	
その他		988	727	766	1,317	1,154	1,004	1,447	1,374	596	349	649	2,753	13,124	
小 計		6,774	7,867	7,022	9,734	15,655	10,676	9,529	10,341	4,557	4,600	7,242	11,040	105,037	
合 計		15,349	17,091	14,579	22,400	38,194	23,475	19,217	19,539	9,744	11,162	16,862	21,437	229,049	
1日平均(人)		614	657	729	830	1,273	978	739	782	513	558	803	893	798	
前年比(%)		97.9	95.9	124.8	103.4	95.0	127.3	102.1	114.7	109.3	98.5	97.8	104.3	104.4	

			2024 年度			一般公開開始からの累計（※）		
			1 日平均	構成比(%)	前年比(%)	入場者	1 日平均	構成比(%)
有料入場者	個人	成年	337. 8	42. 3	102. 8	2, 652, 023	304. 8	35. 1
		未成年・学生	14. 1	1. 8	113. 2	103, 440	11. 9	1. 4
		高校生	7. 7	1. 0	114. 9	25, 965	3. 0	0. 3
		65 歳以上	57. 5	7. 2	105. 6	223, 183	25. 7	3. 0
	団体	成年	8. 2	1. 0	133. 5	226, 271	26. 0	3. 0
		未成年・学生	0. 6	0. 1	149. 5	9, 318	1. 1	0. 1
		高校生	0. 6	0. 1	236. 8	2, 046	0. 2	0. 0
		65 歳以上	5. 6	0. 7	123. 4	44, 447	5. 1	0. 6
	小 計		432. 1	54. 1	104. 5	3, 286, 693	377. 7	43. 5
無料入場者	園児	98. 4	12. 3	96. 5	730, 201	83. 9	9. 7	
	小学生	163. 7	20. 5	104. 0	1, 912, 714	219. 8	25. 5	
	中学生	26. 2	3. 3	109. 2	318, 505	36. 6	4. 2	
	障がい者	32. 1	4. 0	109. 5	227, 891	26. 2	3. 0	
	その他	45. 7	5. 7	119. 5	1, 083, 659	124. 5	14. 3	
	小 計	366. 0	45. 9	104. 4	4, 272, 970	491. 1	56. 5	
	合 計	798. 1	100. 0	104. 4	7, 559, 663	868. 8	100. 0	

2024年度記録

最高：2025年3月15日 3,060人

最低：2024年4月17日 152人

* 1995年3月21日から 8,701日開館

1.4.2. 特別展示室入場者状況

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開場日数		25	11	0	18	30	24	26	4	5	8	6	24	181
有料	成年				4,372	10,350	5,801	4,115	1,397					26,035
	未成年・学生				124	456	387	149	51					1,167
	高校生				102	445	71	167	18					803
	65歳以上				861	2,078	1,072	1,127	234					5,372
	小計				5,459	13,329	7,331	5,558	1,700					33,377
	無料	10,880	6,329		4,592	8,926	6,375	510	-179	788	1,310	5,066	20,333	64,930
合計		10,880	6,329	0	10,051	22,255	13,706	6,068	1,521	788	1,310	5,066	20,333	98,307

1.4.3. 講座・観覧会・研修会等参加者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
講座・講演会	168	397	130	848	1,050	275	289	503	441	239	649	203	5,192
サロン・ド・小田原	0	14	0	0	0	27	0	0	0	19	0	0	60
研修・実習・学校	0	22	143	156	57	29	127	27	208	12	62	86	929
博物館館園実習	0	0	0	0	225	42	0	5	0	0	0	0	272
合計	168	433	273	1,004	1,332	373	416	535	649	270	711	289	6,453

1.5. 歳入歳出決算

[令和6年度歳入]

科目	金額（千円）	内訳		
教育財産使用料	1,760	レストランほか建物使用料		
博物館使用料	59,514	観覧料収入	常設展	53,573
			特別展	5,941
立替収入	1,752	レストランほか電気・ガス・水道料		
図録等売払収入	1,604	展示解説書等販売収入		
雑入	20	ライブラリー複写代		
合計	64,650			

[令和6年度歳出（社会教育費のみ）]

科目	金額（千円）	内訳		
維持運営費	175,223	館の維持管理及び事業運営		
博物館事業費	13,167	総合案内業務・特別展の開催・総合研究・基礎研究・調査研究報告書の作成・博物館資料収集・収蔵展示資料修繕および加工・各種講座・講演会等の開催・図書等資料整備・広報資料作成		
情報システム整備費	2,325	データ入力等		
合計	190,715			

1.6. 事業評価

「博物館法」、「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」及び「かながわ教育ビジョン」に基づき、よりよい社会教育施設づくりを目指して、当館の事業概要を作成し公開するとともに、事業評価を行った。

概要の公開

令和6年9月15日版「神奈川県立生命の星・地球博物館の概要」を作成し、当館ウェブサイトで公開した。

社会教育施設評価書

神奈川県立の社会教育施設6館（県立図書館・県立川崎図書館・金沢文庫・近代美術館・歴史博物館・当館）では、共通評価項目を設定し、年度ごとの施設評価を実施している。

令和6年度には「令和5年度社会教育施設評価書」を作成し、過去のものを含めて当館ウェブサイトで公開している。

2. 情報発信機能

当博物館は「生命の星・地球」を基本テーマとして、46億年にわたる地球の壮大な歴史と生命の多様性、そして神奈川の自然について、実物資料を中心にストーリー性をもってわかりやすく展示している。

具体的には、4つのサブテーマおよびジャンボブックで構成する常設展示と、特定テーマにより開催する特別展示、ハイビジョンやクイズ映像を上映する SEISA ミュージアムシアターなどで、来館者に情報を発信している。

2.1. 常設展示

常設展示は、基本テーマ「生命の星・地球」を解説する「常設展示室」と、実物百科展示「ジャンボブック展示室」のほか、ミュージアムライブラリー前に設置されている「情報コーナー」とエントランスホール「記念撮影コーナー」から構成される。

2.1.1. エントランスホール

エントランスホールには、過去の地球環境に生息していた生物の代表として、白亜紀の陸・海・空から、陸：竜（チンタオサウルス）、海：魚類（クシファクチヌス）、空：翼竜（アンハングエラ、トゥプクスアラ）をシンボルとして展示している。また、これらを展示しているステージでは、ガイダンス映像（上映時間：3分20秒）を繰り返し上映している。

この映像では、開館当時から出演者による手話によって、聴覚障がい者への対応を行っているが、2006年7月より日本語字幕を追加した。また、「記念撮影コーナー」として、ミュージアムシアター入り口付近にアラスカヒグマの剥製を2005年11月3日より展示している。

2.1.2. 常設展示室

基本テーマ「生命の星・地球」に沿ったストーリー展開を見せるため、常設展示を次の4つのサブテーマに分けて展示を行っている。

地球を考える展示室

「地球を考える」では、地球の形成過程や地球の仕組み、生命の誕生と生命の営みによって地球環境が変わってきた様子などを、岩石、鉱物、化石などの標本類と、画像、映像資料を活用して展示している。

神奈川の自然を考える展示室

「神奈川の自然を考える」では、神奈川の大地の生い立ちと、神奈川の生物相や自然の現状について、岩石や化石、動物剥製や骨格、植物模型などで展示している。

生命を考える展示室

「生命を考える」では、約4億年前から現在まで、地球上のあらゆる環境に出現した多様な生物種と生命の進化の過程について、動植物化石、動物剥製、昆虫標本、植物標本などの実物資料を中心に展示している。

自然との共生を考える展示室

「自然との共生を考える」では、生命を誕生させ育みつづけてきた地球環境が、人類の活動により様々な影響をうけ変化していることを、映像、画像資料を中心に展示している。

2.1.3. ジャンボブック展示室

博物館が所蔵する動物、植物、化石、岩石、鉱物など膨大な標本類の一部を、系統分類、コレクション、個別テーマなどに項目分けをして、巨大な本にみたてた展示ケースに収納し、「実物百科事典」として展示している。

2.1.4. ミュージアムライブラリー情報コーナー

博物館2階「ミュージアムライブラリー」入口にある情報コーナーは、最新の科学や研究情報、博物館に関連するタイムリーな話題などを、いち早く来館者に提供することを目的として設置されている。

このコーナーには主に紙面による情報を提供する情報展示パネルと、標本や関連資料による情報をウォールケースにて展示するミニ企画展示コーナーがある。

情報展示パネル

友の会紹介コーナー

[展示内容] 生命の星・地球博物館友の会の活動紹介

[展示更新] 随時、特に活動報告など

[担当] 生命の星・地球博物館友の会広報部

ミニ企画展示コーナー

最大2ヶ月を目安に展示替えをしながら、最新の情報を提供することを目的として次の8タイトルの「ミニ企画展示」を開催した(2023年度計画で、開催期間が2024年度に及んだものを含む)。

友の会の皆さまと共に

[展示内容] 友の会では分野別に数々のグループが活動している。今回は、「植物グループ」「地学グループ」「友の会講座「地図を楽しもう」」「友の会よろずスタジオグループ」の4つの活動の様子をポスターで紹介した他、友の会通信等のバックナンバーの展示を行った。

[展示期間] 2024年3月24日～2024年5月19日

[担当] 博物館友の会

相模川流域図

[展示内容] 地球観測衛星画像利用鳥瞰図(宙瞰図)として作製した「相模川流域図」を紹介した。昭和初期までは相模川になかった、相模ダム(ダム湖名:相模湖)や城山ダム(ダム湖名:津久井湖)、中津川に宮ヶ瀬ダム(ダム湖名:宮ヶ瀬湖)などができた頃の時代についても当館所蔵の地図や鳥瞰図で紹介した。展示には、JSPS科研費19K01149、19K13451、23K00965の助成を受けた研究成果の一部を使用した。

[展示期間] 2024年5月30日～2024年6月26日

[担当] 新井田秀一

現生動物から読み解く恐竜の姿

[展示内容] 当館の標本を活用し、恐竜の首の姿勢を研究する北海道大学大学院生の宇津城遥平氏が描いた、恐竜(コエルロサウルス類)の復元画を紹介した。また、復元画を描くにあたり、同氏の研究成果と共に、現生の爬虫類や鳥類の標本からどのように情報を集めて描画したのかを解説した。

[展示期間] 2024年7月2日～2024年8月11日

[担当] 松本涼子

[後援] 宇津城遥平

地球博の30周年 はみだし展—特別展で展示できなかった標本たち—

[展示内容] 『【特別展】生命の星・地球博物館の30年 -120万点から厳選した資料で振り返る-』の実施にあたり、惜しくも展示できなかった資料の一部を展示した。展示にあたっては、学芸員監修のもと博物館実習生が解説、デザイン、列品作業を行った。

[展示期間] 2024年8月13日～2024年10月6日

[担当] 大島光春

博物館周辺の身近な自然

[展示内容] 『自然を楽しむみち』のコース及び解説1～9の紹介

断層岩—断層運動によって変形した岩石—

[展示内容] 地震は地下深くの岩石でずれ(断層)が生じることで発生する。このずれを引き起こす断層運動によって生まれる断層岩について紹介した。断層岩の特徴と形成場所を示したポスターと実際の露頭写真のほか、岩石標本を展示した。

[展示期間] 2024年10月9日～2024年11月10日

[担当] 夏目 樹

初三郎が描いた大雄山最乗寺を比べる

[展示内容] 当館で所蔵する吉田初三郎が描いた鳥瞰図のうち、南足柄市にある大雄山最乗寺周辺を描いたものを紹介した。大正11年と昭和5年に作成されたものを用いて、描かれた名所旧跡や地形表現、描いているアングルなどの図中の表現を比較して紹介した。展示には、JSPS科研費19K01149、19K13451、23K00965の助成を受けた研究成果の一部を使用した。

[展示期間] 2024年11月13日～2024年12月8日

[担当] 新井田秀一

地球博のへび

[展示内容] 2025年の干支の巳にちなんで、当館所蔵の爬虫類のへび標本とともに、へびの形や模様由来して名付けられた生きものたちを紹介した。へびの生態に関する解説などと共に、オオヘビガイ、蛇紋岩、ジャノメハゼ、ムラサキマムシグサなど名前が巳(へび)に由来する生物と岩石、合計29種を、標本、写真、解説パネルなどを用いて展示した。

[展示期間] 2024年12月14日～2025年2月24日

[担当] 石田祐子・松本涼子・和田英敏・加藤ゆき・大坪 奏・折原貴道・荻部治紀・佐藤武宏・田口公則・夏目 樹

友の会の皆さまと共に—学芸員や私たちといっしょに自然を楽しみませんか—

[展示内容] 友の会では分野別に数々のグループが活動している。今回は、「植物グループ」「地学グループ」「菌学事始め自主勉強会」「友の会講座「地図を楽しもう」」「友の会よろずスタジオグループ」の5つの活動の様子をポスターで紹介した他、友の会役員の活動を写真パネルにした展示等を行った。

[展示期間] 2025年3月15日～2025年5月6日

[担当] 博物館友の会

2.2. 特別展示

当館の持つシンクタンク機能としての調査研究や、データバンク機能としての資料収集などの成果を、広く県民に還元するため、当館特別展示室を使用して特別展・企画展を企画・開催している。2024年度は特別展を1回、企画展を1回開催した。

2.2.1. 特別展

「生命の星・地球博物館の30年 ―120万点から厳選した資料で振り返る―」

[開催期間] 2024年7月13日(土)～11月4日(月・振休)

[開催日数] 102日間

[入場者数] 53,601人

[会場] 1階 特別展示室(一部の展示はエントランスホールに展示)

[後援] 神奈川新聞社・tvk(テレビ神奈川)

[協力] 神奈川県立歴史博物館

[展示協力] 石持みずき・井上 昭・加賀玲子・神奈川県立歴史博物館・川崎市立日本民家園・木村洋子・佐野瑞穂・重永明生・下出朋美・瀬能宏・武田周一郎・丹治雄一・富田道恵・長山高子・長山武夫・平田大二・広谷浩子・横浜市立金沢動物園

[ポスター・チラシデザイン] 本杉弥生

[特別展実行委員会] 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子・佐伯有紀・仲手川則子・三橋秀子・中村友美子・荻部治紀・松本涼子

[展示担当] 石田祐子(副担当)・石浜佐栄子・大島光春(副担当)・大坪 奏・大西 亘・折原貴道・加藤ゆき・荻部治紀・佐藤武宏(主担当)・鈴木聡・田口公則(副担当)・田中徳久・樽 創・夏目 樹・新井田秀一・西澤文勝・西村双葉・松本涼子・山下浩之・和田英敏・渡辺恭平

[資料点数] 標本・模型等222点、書籍14点、動画35タイトル、細密画17点、画像4点、ブロックモデル1点、パネル15葉。一部の展示資料は会期中に展示替えを行った。

[展示内容] 平成7(1995)年3月に、(旧)神奈川県立博物館の再編整備事業によって自然系部門が分離独立して小田原市入生田に開館した、神奈川県立生命の星・地球博物館は令和6(2024)年度(令和7(2025)年3月)に開館30周年を迎える。開館時は(旧)県立博物館から引き継いだ約20万点の資料と、準備室時代に採用された学芸員を加えた職員でスタートした当館は、博物館法に則り「集める(資料収集・保管)、調べる(調査研究)、伝える(展示・教育普及)」の活動を重ね、30年間で資料は6倍近くの約120万点、資料利用数も約100万点以上、学術著作は約3,000編近く、入館者数は約800万を超える数を数えるに至った。一方で、箱根火山の噴火やコロナ禍といった自助だけでは抗いきれない課題や、デジタル化やインクルーシブといった新しい課題、収蔵庫の狭隘化や施設設備の老朽化など時間の経過に伴う課題などに直面しているのも事実である。さらに、改正博物館法の施行や、ICOMの新しい博物館の定義の採択など、博物館を取り巻く環境の変化に伴う課題もこれから取り組んでいかなければならない。そこで、本展示では、30周年という区切りの年に、これ

まで収集した資料や過去の特別展で紹介した資料、様々な未公開資料などを用いて、今までの博物館活動を「集める・調べる・伝える」に分けて紹介した。また、併せて、当館の直面する課題や、学芸員の考える生命の星・地球博物館の将来像を「思いを」というコーナーで紹介した。展示の最後には来館者が期待する生命の星・地球博物館の未来像をメッセージボードに展示し、館長からのメッセージを利用者に投げかける「未来へ」というコーナーを設けた。

[展示構成]

- I. 県立博物館時代
 - ・県立博物館の概要
- II. 博物館再編事業と博物館準備室時代
 - ・再編事業の年表
- III. 30年間の仕事の紹介
 - ・生命の星・地球博物館30年の年表
 - 「集める」資料収集事業
 - 「調べる」調査研究事業
 - 「伝える」展示・教育普及活動
- IV. 転機を迎える博物館
 - 「思いを」博物館の直面する課題
 - ・収蔵庫狭隘化
 - ・施設設備の老朽化
 - ・社会情勢と博物館・災禍と博物館
 - ・インバウンド対応
 - ・新しい技術と博物館
 - ・インクルーシブな博物館
- V. これからの博物館
 - 「未来へ」
 - ・博物館法の改正・ICOM新しい博物館定義
- VI. 学芸員が考える将来の地球博・来館者が期待する未来の地球博
 - 「未来へ」
 - ・学芸員が考える博物館の将来
 - ・あなたの考える未来の生命の星・地球博物館とは？(来館者に期待する未来の生命の星・地球博物館を付箋に書いてもらい、メッセージボードに掲示するコーナー)
- VII. 館長からのメッセージ

[関連展示・行事]

- (1) ミニ企画展「地球博の30周年はみだし展-特別展で展示できなかった標本たち-」
2024年8月13日(火)～10月6日(日)に、2階ミュージアムライブラリー情報コーナーで開催した。展示内容等は13ページを参照されたい。
- (2) ギャラリートーク
2024年7月14日(日)、28日(日)、8月25日(日)、9月8日(日)、10月6日(日)、20日(日)、11月3日(日・祝)の計8回、14:00～14:30。学芸員が特別展の展示資料や、資料にまつわるエピソードを解説した。
- (3) イベント「博物館のバックヤードを見てみよ

う！」

2024年8月11日（日・祝）、9月22日（日・祝）
の計2回、14:00～15:00。

学芸員の案内で120万点の資料が収蔵されている
収蔵庫をはじめとするバックヤードを見学し、
博物館の業務や機能について学んだ。

(4) WESKAMS ミュージアム・リレー

2024年8月30日（金）13:15～14:45。

2.2.2. 企画展

すな—ふしぎをみつけよう—

〔開催期間〕2025年2月22日（土）～5月11日（日）

〔開催日数〕65日間

〔入場者数〕52,532人

〔会場〕1階 特別展示室

〔後援〕神奈川新聞社、t v k、（一社）日本地質
学会

〔キャラクターデザイン〕ふくまるデザイン

〔企画展実行委員会〕石浜佐栄子※、田口公則※、
西澤文勝※、夏目 樹※、大島光春※、石田祐
子※、中村友美子、佐伯有紀 ※展示担当

〔ポスター・チラシデザイン〕本杉弥生

〔資料点数〕標本573点、解説パネル28点、写真パ
ネル45点、解説動画10本、実験装置8種、ハ
ンズオン素材13種

〔展示内容〕砂は、子どもの頃には誰もが触れた経
験がある“身近”なもので、自然に親しんだり
興味を持ったりするきっかけとなり得る対象物
である。決して珍しい存在ではないが、周辺の
大地の特徴を内包する歴とした自然史資料であ
り、またその土地土地で色や大きさ、形など多
様な姿を見せるのも魅力の一つである。当館で
は、自然に親しむきっかけとして、市民に砂を
集める活動と呼びかけ、これまでに3,800点を
超える砂の資料を収集してきた。

本企画展では、これまで収集してきた砂の資
料を核として、改めて市民に自然に目を向けて
もらうきっかけとなるよう、砂が持つ地質学的
な意義をはじめ、砂の多様性、博物館で砂資料
を集める意味などについて紹介した。また砂が
持つ様々な性質について、演示実験や体験展示、
動画などを通して分かりやすく紹介した。なお、
幼い子どもや障がいのある方でも科学的な気づ
きにつながるような、文章での解説に依らない
体感展示コーナーを展示室中央に設置した。

I. すなって、なあに？

I-1. 「砂」は動きやすい大きさ

I-2. 砕けて、混じって、集まって

I-3. 砂つぶの正体

II. すなのひみつ

II-1. つぶの集まり「粉流体」

II-2. つぶのすき間でくっつく、固まる

II-3. きれいな砂は摩擦で鳴く

II-4. 流れがつくる小さな地形

II-5. 混じっていても分かれていく

II-6. 砂も噴き出す液状化

II-7. 砂山の角度はいつも「安息角」

番外編 自然景観に見る安息角

III. すなをあつめる

III-1. 大地を語る砂

当館の概要や30年の歴史を紹介し、特別展の展
示解説を実施した。

(5) 友の会共催イベント「サロン・ド・小田原」

2024年9月7日（土）14:00～15:30。

3,000年におよぶ博物館の歴史を俯瞰し、博物館
が自然科学に果たしてきた役割を紹介すると
ともに、当館の30年の歴史の紹介や、特別展の
展示解説を実施した。

III-2. 大切な自然史資料として

III-3. 砂のコレクション

III-4. ふるさとの砂はどんな砂

IV. すなバー

・ちきゅうはく 砂すごろく（巨大床貼り、配
布リーフレット）

・体験コーナー

・関連書籍コーナー

〔関連展示・行事〕

(1) ワークショップ「すなをさわってみよう」

〔開催日〕2025年3月2日（日）午後1時から3
時まで

〔開催場所〕特別展示室内

〔内容〕砂を使った素材や体験を提供した（つぶ
だからころがる、足砂体験、缶に入った砂当て
クイズ、砂の音を聞こう（鳴き砂、カップドラ
ム）、枯山水体験）。

(2) ワークショップ「すなのおもちゃであそぼう」

〔開催日〕2025年3月9日（日）午後1時から3
時まで

〔開催場所〕特別展示室内

〔内容〕砂を使った素材や体験を提供した（砂時
計、鉄砂時計、リップルを作ろう、箱砂舞楼、
あんそくん、しましま砂山、さるえもん、級化
ペットボトル）。

(3) ワークショップ「すなやまのふしぎなまよう」

〔開催日〕2025年4月13日（日）午後1時から
3時まで

〔開催場所〕西側講義室

〔内容〕砂を使った素材や体験を提供した（すな
かけまよう、砂山の稜線を作ろう、玉砂舞楼、
箱砂舞楼、あんそくん）。

(4) 講座「すなとあそぼう」

〔開催日〕2025年4月20日（日）午後1時から
3時まで

〔開催場所〕東側講義室

〔内容〕手や足で砂に直接触れるブースや、砂の
性質をいかした様々な体験ができるブースなど
を設置した。

(5) ミューズ・フェスタ 2025 開催イベント

〔開催日〕2025年3月15日（土）・16日（日）午
後1時から3時まで ※16日は雨天中止

〔開催場所〕1階前庭

〔内容〕砂から宝石をさがそう！パンニング体験

(6) ミュージアム・リレー 企画展『すな—ふしぎ
をみつけよう—』を学芸員が解説します！

2025年2月28日（金）午後1時15分から2時
45分まで、西側講義室および特別展示室で開催
した。23名の参加があった。

2.3. その他の展示

2.3.1. 子ども自然科学作品展

児童・生徒の自然科学への関心を高め、その取り組みを支援・奨励して発展させることを目的に、自然科学分野の研究作品（夏休みの自由研究など）を集め展示を行った。

子ども自然科学作品展（2024 年度）

〔開催期間〕 2024 年 12 月 21 日（土）～ 2025 年 1 月 13 日（月・祝） 開催日数 13 日間

〔会場〕 1 階 特別展示室

〔企画担当〕 渡辺恭平（企画普及課）

〔展示担当〕 渡辺恭平（学芸員）、水嶋 淳、森泉誠司、柚原 章、吉成美香子、川島祐輔（学習指導員）

〔広報・ポスター担当〕 中村友美子、本杉弥生（企画普及課）

〔入場者数〕 2,098 人

〔内容〕 例年通り冬休み期間中に開催した。応募作品点数は、13 校 26 作品。内訳は、小学校 11 校 22 作品、中学校 2 校 4 作品であった。各作品には当館学芸員からのコメントを添えて、支援・奨励を図った。

2.3.2 子ども自然科学作品展ワークショップ

2024 年度は実施しなかった。

2.4. SEISA ミュージアムシアター

展示の理解をより深めるために、200 インチの大型ハイビジョンスクリーンを使い、ハイビジョン映像（番組）3 本と、子どもも大人も楽しめるインタラクティブ・クイズ映像（番組選びとクイズの回答をボタンで選ぶ参加型映像）を上映している。また、学会や講演会開催時においては主会場としても利用されている。なお、シアターの名称はネーミングライツパートナー制度により、2011 年 4 月 1 日から「SEISA ミュージアムシアター」となった。

2.4.1. シアターの概要

座席は 308 席。車椅子用のスペースは 5 席。中央部にある 115 席（車椅子用 5 席を含む）に、インタラクティブ・クイズ回答用の 5 選択押しボタンスイッチを設置している。照明設備は、場内の明るさを簡単にコントロールできるように、あらかじめコントロールパネルに設定してある。また、演者などステージ上を照らし出すためのスポット照明を用意している。

学会・講演会開催時には、パソコンなどデジタル機器の画面をスクリーンに投影できるように、ステージ上と映写室に設置した調整卓に接続できるようにしている。

なお、映像機器については 2013 年にデジタルハイビジョン対応機器に、音響機器については、2016 年に更新した。プロジェクターの液晶と基盤については、2023 年に交換した。

2.4.2. シアターの上映番組

SEISA ミュージアムシアターでは、ハイビジョン番組を 3 本と、インタラクティブ・クイズ映像を 1 本の計 4 種類を上映している。

ハイビジョン番組は、「生命の星・地球」という博物館の基本テーマと同じタイトルで常設展示の理解をより深めるストーリーを映像で紹介している。2 本の番組タイトルは、「生命の星・地球 奇跡の旅立ち」と「生命の星・地球 生命の輪舞」で、いずれも上映時間は 15 分である。

「奇跡の旅立ち」では、地球の誕生から、初期の生命の発生、そしてその生命との相互作用によって生命の星としての条件を整えてきた過程を説明している。「生命の輪舞」では、生物の上陸以降をフォローし、進化とともに動物と植物の間の密接な関係を説明することによって、私たち人類のあり方を問うている。

これらに加え、新たにハイビジョン映像「躍動する大地 花あふるる火の山 箱根」を製作し、2013

年 8 月 3 日から上映を行っている。温泉地として有名なこの地は、火山でもある。また、その地形の陰しさから、古くから東西を結ぶ交通の難所としても知られている。さらに、日本を代表する自然として、江戸時代に訪れた外国人によって世界に紹介されてきた。火山活動の激しさは、関東平野にも影響を及ぼすほど大規模なものだったとされている。このような箱根火山の生い立ちだけではなく、火山活動が生み出し、火山活動に強く影響を受けている自然とその環境を紹介した内容となっている。上映時間は 20 分である。

インタラクティブ・クイズ映像は、「怪人ネイチャーランドの挑戦」と題した子どもも大人も楽しめるクイズ番組である。これは、怪人ネイチャーランドが盗み出した水晶玉を、来館者がクイズに正解することにより一つずつ取り返していくストーリーで、来館者の答えがストーリーの展開を変えていくといった、インタラクティブ（相互作用）型の博物

館オリジナル作品となっている。クイズのテーマは、「地球は生きている」、「植物は変身の天才だ!」、「魚のサバイバル」、「動物の足跡捜査隊」、「ヒトの謎を科学する!」の5種類である。最初に、どのテーマ

を行いたいか来館者が選択し、1位になったテーマを上映している。インタラクティブ・クイズは、案内員がクイズの進行を行っている。2024年度の上映は次表のとおりである。

インタラクティブ・クイズのコース別利用状況

		選択者数	選択率	選択により1位になった数＝上映回数													上映割合
				合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	地球は生きている	3,499	15.3%	28	1	5	2	1	3	4	5	0	1	1	1	4	5.6%
2	植物は変身の天才だ!	2,023	8.8%	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0.6%
3	魚のサバイバル	6,360	27.8%	216	14	14	12	27	42	19	13	14	11	13	15	22	42.9%
4	動物の足跡捜査隊	5,859	25.6%	169	21	14	8	20	22	11	13	14	11	7	11	17	33.5%
5	ヒトの謎を科学する!	5,121	22.4%	88	4	5	6	9	18	5	8	6	3	6	7	11	17.5%
	合 計	22,862	100.0%	504	40	38	28	57	86	39	39	34	26	28	34	55	100.0%

※選択率は、小数点以下2位で四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

2.4.3. シアターの上映回数

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ1回ずつ、計8回上映している。学校休業期と重なる多客期（ゴールデンウィーク、学校夏季休業期間等）については、インタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計9回の上映を行った。

通常期は、ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズ映像「怪人ネイチャーランド」を、午前、午後それぞれ1回ずつ、計8回上映している。学校休業期と重なる多客期（ゴールデンウィーク、学校夏季休業期間等）については、インタラクティブ・クイズを午後に1回増やし、計9回の上映を行った。

SEISA ミュージアム・シアター上映プログラム

通常期	時間	タイトル
	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:00～13:20	インタラクティブ・クイズ映像
	14:00～14:15	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	14:30～14:45	生命の星・地球 生命の輪舞
	15:00～15:20	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

多客期	時間	タイトル
	9:30～9:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	10:00～10:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	10:30～10:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根
	11:30～11:50	インタラクティブ・クイズ映像
	12:30～12:50	インタラクティブ・クイズ映像
	13:30～13:50	インタラクティブ・クイズ映像
	14:30～14:45	生命の星・地球 奇跡の旅立ち
	15:00～15:15	生命の星・地球 生命の輪舞
	15:30～15:50	躍動する大地 花あふるる火の山 箱根

2.4.4. その他の利用

ハイビジョン映像およびインタラクティブ・クイズの通常上映のほか、講演会や学会等の会場として提供している。

2.5. ミューズ・フェスタ 2025

「開かれた博物館」としての活動の充実といっそうの発展を図るため、地元自治体や自治会、博物館友の会などとともに、地域との交流を深め、県民の参加型事業として開館記念日事業を2002年度から実施している。

2.5.1. 開催概要

〔日時〕2025年3月15日（土）、16日（日）の2日間
〔場所〕講義室、実習実験室、ジャンボブック編集室、SEISA ミュージアムシアター、エントランスホール、前庭ほか
〔運営体制〕小田原市入生田自治会、小田原市郷土文化館、生命の星・地球博物館友の会、当博物館

〔関連会議〕ミューズ・フェスタ2025実行委員会
2024年10月23日（水）西側講義室
参加団体の確認と各団体の取り組み、開催までのスケジュールなど

2.5.2. 催し物等の概要

1. オープニングセレモニー
[日時] 3月15日(土) 9時30分～10時
[場所] SEISA ミュージアムシアター
[内容] フェスタ2025の開催を祝って、地元の「クレヨンの森保育園」による合唱。
[参加人数] 90人
2. SEISA ミュージアムシアター ミューズ・フェスタ2025 特別プログラム
[日時] 3月15日(土) 13時～16時
3月16日(日) 9時30分～16時
[場所] SEISA ミュージアムシアター
[内容] インタラクティブクイズの回数を増やして上映する2日間の特別プログラム。
[参加人数] 390人(インタラクティブクイズ5回分の集計)
3. 学芸員による昆虫標本整理作業の実演
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日) 10時～12時, 13時～15時
[場所] 実習実験室
[内容] 昆虫標本作製と同定作業を実演。顕微鏡による標本の観察体験のほか、参加者のレファレンスにも対応。
[参加人数] 1,085人
4. ようこそマダニの世界へ
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日) 10時～12時, 13時～15時
[場所] 実習実験室
[内容] 模型や実物のマダニの展示のほか、クイズやボールペン作成のワークショップを実施。
[参加人数] 1,085人
5. 箱根ジオパークの「ミニ成層火山実験」
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日) 10時～12時, 13時～15時
[場所] 東側講義室
[内容] 軽石やスコリアをパラフィンで固めながら成層火山を作成する実験。
[参加人数] 242人
6. 化石ランド
[日時] 3月15日(土) 10時～12時, 13時～15時, 3月16日(土) 10時～12時
[場所] 東側講義室
[内容] 化石に親しむことを目的として、クイズやゲーム、お絵かきの手法を使用した体験コーナーを展開。
[参加人数] 330人
7. 折り紙プレゼント
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日) 10時～12時
[場所] エントランスホール(タイムスケール前)
[内容] 学習指導員が日ごろから折りためた恐竜等を題材とした折り紙を配布。
[参加人数] 1,319人
8. 郷土文化館出張展示「あれもこれも小田原のたからもの」
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日) 10時～12時, 13時～15時
[場所] 西側講義室
[内容] 郷土文化館の資料の展示と、展示にまつわるクイズ。
[参加人数] 514人
9. JA かながわ 西湘大窪支店 足柄茶出張販売
[日時] 3月15日(土) 9時～13時30分
[場所] 講義室前
[内容] 足柄茶のティーパックを詰めた商品を販売。
[参加人数] 30人(完売)
10. 砂から宝石をさがそう! パンニング体験
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日) 10時～12時, 13時～15時
[場所] 前庭
[内容] トロ舟に砂と水を入れ、パンニング皿を使って鉱物を探す企画。
[参加人数] 327人(3月16日は雨天中止)
11. 友の会コーナー
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日) 10時～15時
[場所] 2階 情報コーナー(ライブラリー前)
[内容] 友の会の活動、作品や講座の紹介、「自然科学のとびら」の販売。
[参加人数] 584人
12. 共和のもりの間伐材で「森のものづくり」
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日) 10時～12時, 13時～15時
[場所] ジャンボブック編集室
[内容] 間伐材を用いて木工品の作製体験を実施。
[参加人数] 161人
13. ミュージアムショップ
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日)
[内容] 1,000円以上お買い上げの方(書籍・宙瞰図を除く)に、オリジナルグッズを進呈。
14. レストラン「フォーレ」
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日)
[内容] その場で当たるスピードくじを実施。
15. ともしびショップ「喫茶あーす」
[日時] 3月15日(土)・3月16日(日)
[内容] 2日間の限定のお菓子を販売。
16. 入生田山車保存会太鼓の演奏
[日時] 3月15日(土) 12時～12時30分
[場所] エントランスホール(タイムスケール前)
[内容] 山車保存会太鼓によるお囃子の演奏。6年振りとなる開催。

3. シンクタンク機能

研究機関である博物館は、県内はもとより国内外のシンクタンクとして、学芸員が様々な活動を行っている。ここでは、それらの活動を項目ごとに取りまとめた。基本的に当館での活動を中心に項目分けし、各学芸員の自己申告に基づき掲載している。そのため取り上げていない活動も多い。2024 年度に実施した研究のうち、当該年度に研究が終了したテーマについて成果報告を掲載した。なお、ここに報告書の掲載のない外部研究助成（科学研究費助成事業、環境研究総合推進費、全国博物館活動助成事業等）については、それぞれの研究助成機関から報告書が web 公開されるため、そちらを参照されたい。

3.1. 調査研究事業

調査研究活動に関する要綱に基づき、総合研究 1 テーマ、個別研究 20 テーマに関する研究を行った。以下「研究担当者：研究テーマ」を掲載する。

総合研究

加藤ゆき・鈴木 聡・西村双葉・広谷浩子・秋山幸也・味埜真理：神奈川県の下山環境における哺乳類及び鳥類相解明の試み

個別研究

佐藤武宏：イボキサゴ *Umbonium moniliferum* に対する在来種ツメタガイ *Glossaulax didyma* と導入種サキグロタマツメタ *Euspira fortunei* の捕食の変遷について

加藤ゆき：神奈川県におけるカワウ集団営巣地の現状

荻部治紀：絶滅危惧種キバネツノトンボの生態と分布

渡辺恭平：日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究 (IV)

松本涼子：絶滅四肢動物から解明する現生両生類の首の進化

鈴木 聡：哺乳類骨格標本の作製、収蔵および利用可能性に関する研究

西村双葉：鯨類標本の整理と分類・資料情報の再検討

和田英敏：相模湾産魚類の分類学および生物地理学的研究

大西 亘：現代植物標本室における標準的な管理手法の実践的な構築

石田祐子：神奈川県の花と環境要因

折原貴道：「地下生菌ノアの方舟仮説」の検証による、地下生菌の海洋島への移入パターンの解明

大島光春：古生物標本の 3D データ化とデータの活用に関する研究

樽 創：パレオパラドキシアの古生態（食性）

田口公則：古鎌倉湾周辺における貝化石群集の再評価：松島コレクションを用いて

新井田秀一：デジタル標高モデル (DEM) や地球観測衛星画像を用いた関東・東海地域の地形解析

山下浩之：南部マリアナ海域産斑れい岩類の岩石学的検討

石浜佐栄子：底生・浮遊性有孔殻の安定同位体組成変動に基づく過去数 10 万年の日本海の海洋環境の復元

西澤文勝：箱根火山東麓におけるテフラ層の分布について

夏目 樹：細粒斜長石組織のレオロジー研究

大坪 奏：学術資料（研究者資料）の簡便なデジタル・アーカイブ手法の検討

3.1.1. 博物館基礎研究（グループ研究）

2024 年度に完了したグループ研究はない。

3.1.2. 博物館基礎研究（個別研究）

イボキサゴ *Umbonium moniliferum* に対する在来種ツメタガイ *Glossaulax didyma* と導入種サキグロタマツメタ *Euspira fortunei* の捕食の変遷について

[研究期間] 平成 31 (令和元) 年～令和 6 年

[研究担当者] 佐藤武宏

[研究内容]

砂質干潟に高密度で生息するイボキサゴ *Umbonium moniliferum* は、殻破壊性捕食者である十脚類甲殻類や貝殻穿孔性捕食者であるタマガイ科巻貝類の重要な餌生物としての地位を持つ。イボキサゴは東京湾に広く分布し、食用として利用された大量の殻が貝塚から出土することで知られる。かつてイボキサゴの重要な捕食者はツメタガイ *Glossaulax didyma* であったが、近年、漁業および観光業（潮干狩り）を目的としたアサリ *Ruditapes*

philippinarum の蓄養に伴い、サキグロタマツメタ *Euspira fortunei* が非意図的に導入されている。サキグロタマツメタの捕食圧は著しく、本種が導入された各地で被食者の体サイズ構成の変化、寿命や成長のプロファイルの変化などをもたらしているとされる。

そこで、本研究では、殻に記録された穿孔痕からツメタガイ、サキグロタマツメタのどちらが捕食者であるかを識別可能か、当館所蔵の現生標本、約 6000 年前の化石を観察して検討した。また、化石について寿命や成長を明らかにすることが可能か検討を行った。

被食者の殻体に記録された穿孔痕は極めて正確な円錐台をしており、底角、外面の円と内面の円の大きさの比、溶触面の特徴などに区別できる特徴を認めることができなかった。寿命については、現生の

集団はコホート解析を実施することで成長曲線と寿命を推定することが可能であったが、化石に関してはさまざまな季節に化石化し季節を分離できないか、あるいは、いっぺんに化石化し複数の季節の集団を含まないかの理由により、成長曲線の推定はできなかった。

最大殻サイズに関しては、化石のほうがやや大きく成長することが示された。また、捕食者サイズ(穿孔痕サイズ)と被食者サイズ(殻サイズ)については、化石のほうがやや弱い相関を示す、という結果が得られた。

今後、この結果について考察を加えて論文化することと、別の年代の化石を検討することでより長いレンジでの捕食の影響の変遷を明らかにしていきたい。

鯨類標本の整理と分類・資料情報の再検討

[研究期間] 令和4年～令和6年

[研究担当者] 西村双葉

[研究内容]

当館にはおよそ160点の鯨類標本が収蔵されているが、これらの標本の適切な整理と情報の確認・更新は標本の管理や展示、研究目的での使用に重要である。また、鯨類の分類体系は現時点においても度々改訂が行われているため、情報の再検討が要される。収蔵標本の中には科や種が不明なものが含まれるが、これらの標本の種同定も同様に必要と考えられる。そこで、本研究は本館に収蔵されている標本の科・属・種の同定および標本情報の見直しと更新を行い、鯨類標本の管理と利用促進に貢献することを目的として実施した。

調査は種同定の再確認、登録情報(個体の採集場所、体長等の個体情報)の再確認、収蔵部位のリスト化と標本状態の確認の観点から行った。種同定の確認は、液浸標本については外部形態の特徴をもとに、骨格標本については骨格形態をもとに実施した。調査の結果、3点3種について同定の修正が必要であることが明らかになった。また、2種2点の標本について採集場所等の個体情報の追加登録を行い、1種1点について個体情報の修正を行った。さらに、上記以外の46点の骨格標本に対して、収蔵部位のリスト化と標本状態の確認を行った。そのほか、標本化作業が終了しているものの同定が行われていなかった骨格標本2点について、種同定を行った。

今後は収蔵部位のリスト化を行った46点の標本以外についても詳細なリスト化と標本状態の調査を行い、より適切な管理と資料の利活用につなげていくことが課題とされる。

100年単位の日本の海産魚類相の変遷

[研究期間] 令和5年～令和6年

[研究担当者] 和田英敏

[研究内容]

相模湾は本州太平洋岸の暖温帯区に位置する湾であり、暖流である黒潮と寒流である親潮の両方の影響を受け、そのエリア内に砂浜、藻場、干潟、サンゴ群衆域、河口域、島嶼域、および深海域といったさながら日本の海洋環境をモデル的に切り抜いた様相の多様な環境を有し、多様な生物相を育む。また日本最古の最高学府である東京大学と日本最古の自

然史博物館である国立科学博物館(科博)は相模湾に立地的に近いこともあり、明治時代以降、両機関には基礎生物学的資料として相模湾産魚類標本が分類群網羅的に収集されてきた。それ故、近年的な地球温暖化が急激になる以前であり、日本の高度経済成長にともなう自然環境への影響が及ぶ以前である、1940年以前に得られた標本(古標本)が両機関には多く残されており、とりわけ東京大学総合研究博物館には相模湾産のものに限っても約11,000点が収蔵されている。

本研究では1940年以降の環境変動が魚類相に与えた影響を評価するための基礎資料とするため、上述の2機関および神奈川県立生命の星・地球博物館収蔵(神奈川県博)の古標本および文献資料をベースに1940年以前の相模湾の魚類相を調査した結果、1940年以前には少なくとも673種の魚類が記録されており、この内の7割以上が分布の中心を温帯域にもつ温帯性魚類であり、死滅回遊魚あるいは遇来的に出現したと考えられる亜熱帯―熱帯性魚類はおよそ2割であった。また、現在では確認されていないメバル科ハツメなどの日本海北部を分布の中心とする魚類も記録されており、近年相模湾における記録の乏しいクダヤガラ科クダヤガラなどの主に冷温帯に分布する魚類や、ヨウジウオ科オクヨウなどのアマモ場への依存傾向の強い魚類の標本も数多く確認された。

2006年に発表された神奈川県博と科博の研究チームによる相模湾産魚類のチェックリストでは1,549種が記録されており、この際に確認された魚類の4割以上が亜熱帯―熱帯性魚類であり、その根拠とされている標本・写真資料のおよそ9割は1995年以降に収集されたものであった。2024年までに相模湾において確認された魚類は1,958種であり、新たに記録された種の9割が亜熱帯―熱帯性魚類であり、全体に占める割合はおよそ5割となった。なお、近年相模湾において確認された亜熱帯―熱帯性魚類には、キンチャクダイ科シテンヤッコなどのように相模湾における厳寒期を経験し越冬したと考えられる種や、テンジクダイ科キンセンイシモチなどのように再生産していると考えられる種も認められた。

これらの情報から近年的な相模湾産魚類相は1940年以前と比較して南方化の傾向があるものと推察され、近年な海水温の上昇、黒潮・親潮の勢力バランスの変化、サンゴ類や海藻などの固着生物相の変遷などが複合的に要因となっているものと考えられる。

日本産ヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究(Ⅳ)

[研究期間] 令和4年～令和6年

[研究担当者] 渡辺恭平

[研究内容]

2022年度から2024年度の3年間も引き続きヒメバチ上科寄生蜂の分類学的研究を進めた。成果は15本の論文として出版され(業績は当該年度の年報を参照)、74新種、1新亜種、2新置換名、53日本新産種を報告するとともに、いくつかの異名や生態記録、多数の新分布記録も報告した。ウスマルヒメバチ亜科では*Alloplasta*、*Leptobatopsis*、*Syzeuctus*の3属が整理された。いずれの属も比較

的種数が多い属のため、それぞれ既知種数の倍程度の多様性が認識された。これでこの亜科で分類が未着手の属は残り2属となった。ハエヒメバチ亜科は我が国ではじめて包括的に検討され、研究着手前にリストに5種しか掲載されていなかった日本産種は50種に達した。今回の一連の研究では食用シタケの害虫に寄生する本亜科が分類学的に整理された。この論文で扱われた種は応用上重要である。マルヒメバチ亜科は1930年代以降まとまった報告がほとんどなかったが、23種が記載され、既知種の多くも再記載されて検索表が提供されたことで、ある程度は調べられるようになった。特に、クロハバチマルヒメバチ *Priopoda macrophyae* Watanabe, 2023 は木製バットなどの材料に用いられるトネリコの害虫であるトネリコクロハバチの天敵として重要である。特にハエヒメバチ亜科とマルヒメバチ亜科については、まだ膨大な数の不明種があるので、今後も研究が必要である。トガリヒメバチ亜科については、特に Aptesini に属するグループの分類学的研究が大幅に進展し、30種程度の新種が記載されたことで日本産種はほぼ2倍に増加し、既知種の多くが再記載され、検索表が提供されたことで、研究基盤が大幅に整った。

これらの他、20編程度の報文を発表し、多数の分布記録を報告するとともに、同定資料の提供も継続して行った。2022年度に出版された属への検索表を合わせて、種まで和文で同定できるようになったグループが増加した。

現代植物標本室における標準的な管理手法の実践的な構築

〔研究期間〕 令和2年～令和6年

〔研究担当者〕 大西 亘

〔研究内容〕

現代植物標本室における管理手法を体系的に整理するとともに、実際の課題に適用することで標準的となる植物標本室管理手法の実践的な構築を行った。まず各国を代表する規模の大型植物標本室とともに、地方博物館のように比較的小規模な植物標本室を含む、様々な規模の植物標本室において、それぞれの植物標本室がもつ優れた技術や管理手法を調査・集約し、現場の課題に適用する形で標準的な植物標本室管理手法を体系化して提示することを試みた。具体的には、標本もしくは標本室管理手法について、これまでに報告されている文献を参照、整理するとともに、標本室管理者への聞き取り、ならびに各地の標本室を直接見学することによって実施した。その結果、植物標本室における標準的な管理手法は、近刊を含む複数の文献によって示されているものの、国内の既報においては、近年急速に変化している標本画像流通や標本ゲノム解析などの最新の研究事情を踏まえた標本室管理の手法や、植物標本室の伝統的方法論が十分にカバーされていないなどの課題があった。一方、海外の事例においては、国内事例に見られる課題はカバーされているものの、日本国内の保管環境や管理に必要な資機材の入手性を反映しておらず、記述通りに適用できないなどの課題が見られた。また、国内外ともに既報で示された管理手法の多くは、主に大型標本室を対象としたものであり、比較的小規模な植物標本室や標本保管

施設においては、施設設備や人員、標本管理費用等の事情により、同様の手法においては導入が難しい現状にあることが確認された。一方、小規模の標本室や愛好家向けの文献等においては、現代的な学術情報としての標本の取扱いについて触れられていないものばかりであった。これらを踏まえ、(1) コレクションの構築を見据えた収集、(2) 収集資料の整理と配架、(3) 標本情報の発信の3つを主題として構築し、研究を通じて、標本と研究成果の相互参照性や、地理的スケールや学術分野を限定しない多面的な研究資料としての意義を踏まえた植物標本室ネットワークの構築を目指すためには、海外の植物標本室の伝統的方法論に則った上で、標本画像の収集や標本ゲノム解析など、現代的な標本情報の学術情報流通を意図した世界標準の標本室管理手法を、日本国内の保管環境や資機材の入手性を踏まえて国内向けに提示することが必要である。同時に、世界標準の標本管理に通ずる標本の取扱いや学術情報流通を意図しつつも、施設設備や人員、標本管理費用等に制限のある比較的小規模な植物標本室や標本保管施設でも導入可能な標本管理手法を提示することも必要である。本研究の成果として、前者については、共同研究者とともに国内向けの文献を執筆中であり、後者については、その成果の一部として国内入手可能な資材の検討、IPMを踏まえた管理手法、標本撮影方法などについての論文発表ならびに学会発表を行った。

「地下生菌ノアの方舟仮説」の検証による、地下生菌の海洋島への移入パターンの解明

〔研究期間〕 令和4年～令和6年

〔研究担当者〕 折原貴道

〔研究内容〕

トリュフ類、ショウロなどの「地下生菌」は、動物の摂食により胞子を散布するため、風による広域分散には不向きだと考えられている。しかし、実際には海洋島へ分布を広げている地下生菌も複数種存在しており、筆者は伊豆諸島を主なフィールドとして、海洋島に分布する地下生菌がいつ、どこから、どのようにやってきたかを分子的手法により解明することを目標に研究を進めている。

本研究では、担子菌門および子囊菌門のさまざまな系統の地下生菌を対象に、核 rDNA その他複数領域、および MIG-seq によるゲノムワイドの SSR (塩基配列の短い繰り返し部位) をターゲットとした分子系統解析をおこない、伊豆諸島産の地下生菌の地理的由来について調べた。その結果、伊豆諸島産の地下生菌の多くは海峡形成などの地理的分断の影響が小さい広域分散種であり、地理的に近い関東地方や伊豆半島に由来することが示された。地下生菌のうち、広域散布可能な無性胞子等が実際に確認されたものはごく僅かだが、この結果はこれらの地下生菌の多くが風分散により伊豆諸島に飛来し定着したことを示唆している。しかし、例外的に神津島では、筆者が以前に実施した大陸島(琉球列島)での系統地理学的研究により示された、分散能力が低く、海峡形成による分断の影響を大きく受ける地下生菌が複数種確認された。核 rDNA ITS 領域や MIG-seq による解析をおこなった結果、これら神津島産の一部の菌は、地理的に遠く離れた九州南部や北琉球・中

琉球、中国南東部（浙江省）に由来することが示された。これらの結果から、伊豆諸島の少数の地下生菌は西からの強い季節風や黒潮による偶発的な海流分散により分布を広げたと考えられる。海流分散の直接的な検証は難しいが、過去の大規模な地殻変動による大洪水等により、中国大陸沿岸部から流出し

た大量の土木が黒潮により運ばれて伊豆諸島の一部の島嶼へ到達し、子実体を摂食する昆虫類によって二次的に分散され・定着したという、本研究課題での仮説を支持する結果が得られたといえる。今後、本研究で得られた結果の論文化（対象種の分類学的記載を含む）を優先的に進めていく予定である。

3.2. 研究助成金による研究

日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）をはじめとする外部助成金による研究と、共同研究や共同施設利用研究などについて、種類別に「研究代表者（研究代表者を除く当館の分担者＊、研究協力者＊＊）：研究テーマ、研究課題番号等」の順に掲載した。

3.2.1. 日本学術振興会科学研究費補助金による研究

基盤研究（A）

吉田圭一郎（石田祐子＊）：高精細な地表面・植生情報を用いた山地植生の境界移動プロセスの解明（24H00126）

基盤研究（B）

岸田拓士（樽 創＊）：日本の動物相の原風景—集団ゲノミクスと古代 DNA による在来動物の集団史の解明（22H02693）

佐久間大輔（大西 亘＊・大坪 奏＊）：市民科学者参加型きのこ「デジタル拡張標本」整備は新たなニーズを掘り起こすか？（24K00475）

末吉昌宏（渡辺恭平＊）：土着天敵寄生蜂を用いたシイタケ害虫キノコバエ類の総合的生物防除技術の開発（23H02261）

基盤研究（C）

石浜佐栄子（加藤ゆき＊・大坪 奏＊）：幼児と親に豊かな博物館体験をいかに提供するか—会話を誘発する新たな展示デザイン（20K01132）

佐藤武宏（田口公則＊）：小学校・幼稚園に身近な自然を持ち込むためのプッシュ型支援に関する研究（20K02753）

大西 亘：学術データ流通を意図した次世代型標本画像デジタル化手法の実践的構築（21K01012）

加藤ゆき（大島光春＊・田口公則＊・石浜佐栄子＊・大坪 奏＊）：発話採集によるハンズオン展示の再評価の試み—展示の再構築を目指して（22K01024）

大島光春（田口公則＊・加藤ゆき＊・松本涼子＊・鈴木 聡＊）：自然史標本の 3D データ化とそのオープンデータ化に関する研究（22K01025）

松本涼子：四肢動物における頭骨構造と捕食様式の進化—縫合様式の機能について—（22K03802）

折原貴道：「地下生菌ノアの方舟仮説」の検証—海洋島への菌類移入メカニズムの解明—（22K06381）

田中徳久（石田祐子＊）：博物館所蔵植物標本の新規活用手法開発—標本価値の再認識とボランティアの持続的発展（23K00966）

山下浩之（田口公則＊・西澤文勝＊）：地域地質資源の発掘と調査、普及を通じたプログラムの開発と試行（23K02805）

新井田秀一：歴史的鳥瞰図と衛星画像による宙瞰図の比較研究による博物館アーカイブズの構築（23K00965）

渡辺恭平：ハバチ類に寄生するヒメバチ科寄生蜂の種多様性と寄生生態の解明（23K05915）

大坪 奏（田口公則＊）：「研究者資料」は魅力的な博物館資料となるか—死蔵と散逸を防ぐ整理手法の検討と公開（24K04395）

吉川ひとみ（大西 亘＊）：DNA 解析と無機成分分析による植物標本の生育地及び集団を解明する手法の開発（21K01008）

藤原慎一（松本涼子＊）：四肢動物の骨格形態のジレンマ：動く機能と、食う・産む機能をどう両立させるか（22K03796）

若手研究

西澤文勝：南九州カルデラ地域の前—中期更新世火砕流堆積物の層序と爆発的火山噴火史の解明（19K13438）

西澤文勝：記載岩石的データセットの構築による箱根火山の中・後期更新世テフラ層序の高精度化（24K16213）

和田英敏：“古標本”から読み解く 100 年単位の日本の海産魚類相の変遷（24K16204）

学術変革領域研究（A）

荒谷邦雄（苅部治紀＊）：流域圏生態系におけるヒトと自然の共生（21H051812）

研究成果公開費（ひらめき☆ときめきサイエンス）

田口公則：自分の博物館体験を可視化してみよう（24HT0082）

3.2.2. 各種助成金による研究

環境研究総合推進費

矢原徹一（大西 亘＊）：ゲノム情報と正確な同定にもとづく維管束植物の統合データベース構築と多様性指標・保全優先度の地図化技術の開発

全国博物館活動等助成事業

石浜佐栄子（田口公則＊・石田祐子＊・広谷浩子＊）：見えなくても読めなくても科学的な“気づき”につながる「砂」の体感展示の開発と実践（24005）

3.2.3. 共同研究・共同施設利用研究等

なし

3.3. 著作活動・学会発表等

田中徳久（たなか のりひさ）植物学（植物生態）
[論文]

Nakagawa, H., K. Sato, N. Tanaka and K. Shutoh, 2024. New Record of *Festuca probatovae* (Poaceae), a Previously Neglected Species in the Japanese Flora. J. Jap. Bot. 99(3): 171-179.

田中徳久・村上雄秀・鈴木伸一・中村幸人. 2025. キハギクラスに所属する植物社会学的な植生単位のタイプ指定. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）, (54): 1-7.

Tanaka, N., A. Grabovskaya-Borodina, T. Katsuyama, T. Fukuda & W. Ohnishi, 2024. Plant Type Materials from Kanagawa Prefecture (Japan) in the Herbarium of the Komarov Botanical Institute (LE; Russia): Angiosperms (Dicots). Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), (54): 9-69.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

田中徳久, 2024. 釧路市立博物館で見出した守矢淳一氏が採集したシダ植物標本. 横浜植物会年報, (53): 35-37.

田中徳久, 2024. ナチュラリス生物多様性センターで見出したマキシモヴィッチ採集の神奈川の植物相において重要な記録となる植物標本(1). 横浜植物会年報, (53): 38-40.

田中徳久. 2024. 神奈川県植物相調査. IGES-JISE Newsletter, 96: 4-5.

青木清勝・田中徳久, 2024. 横須賀市久留和のハマザミの記録. Flora Kanagawa, (95): 1135-1137.

田中徳久, 2024. タシロランを箱根で記録する. Flora Kanagawa, (95): 1137.

田中徳久, 2024. 横浜市戸塚区舞岡町のキキョウ. Flora Kanagawa, (95): 1138.

[普及的著作等]

田中徳久, 2024. 「集める、調べる、伝える」博物館. Best Partner, 36(6): 3.

田中徳久. 2024. ご挨拶. 友の会通信, (124): 2.

田中徳久, 2025. 博物館は10年、50年、100年先へ. 自然科学のとびら, 31(1): 1.

田中徳久, 2024. 世界最古?のカラー彩色画の定期刊行物. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp.68-69. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[学会発表等]

富塚柚貴菜・支倉千賀子・横川昌史・山本 薫・田中徳久・高中健一郎・三井裕樹・池田 博, 2025 (March 7-10). タケ亜科植物の腊葉標本の採集年と葉色がDNA抽出可否の判断に有効か?. 日本植物分類学会第24回大会. 高知大学, 高知市.

佐藤武宏（さとう たけひろ）動物学（無脊椎動物）
[論文]

Chow, S., P. A. J. Bakker, T. Sato, H.

Matsunaga, H. Takeyama & T. Yanagimoto, 2024. Cryptic diversity of the slipper lobster genus *Scyllarides* (Crustacea: Decapoda: Scyllaridae) in the Pacific. Aquatic Animals, 2024: AA2024-23.

張 成年・佐藤武宏・柳本 卓, 2024. コブセミアビ (*Scyllarides haanii*) で検出された核内ミトコンドリア偽遺伝子 (NUMTs). 水生動物, 2024: AA2024-24.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大島光春・佐藤武宏・田口公則・佐竹和歌子・松本麻里・天野晴香・関口郁恵・井部玲子・宮坂清佳, 2025 (2025/2/13-14). 対話を重ね、ともに作る「インクルーシブプロジェクト」始動～共生社会における新しい博物館を目指して～. 全国科学博物館協議会研究発表大会資料集, pp.227-233.

[普及的著作等]

佐藤武宏, 2024. 生命の星・地球博物館の30年間を振り返る. 自然科学のとびら, 30(2): 10-11.

佐藤武宏, 2024. 博物館の沿革. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, p.3. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; アカサングとシロサング. ibid, pp.14-15; “Bird hole”と書かれた珪化木. ibid, pp.32-33; 酒井コレクション甲殻類細密画. ibid, pp.42-43; 世界一のカニたち. ibid, pp.74-75; 思いを未来へ. ibid, pp.92-94.

[学会発表等]

大島光春・佐藤武宏・田口公則・佐竹和歌子・松本麻里・天野晴香・関口郁恵・井部玲子・宮坂清佳, 2025 (February 13-14). 対話を重ね、ともに作る「インクルーシブプロジェクト」始動～共生社会における新しい博物館を目指して～. 全国科学博物館協議会研究発表大会, 兵庫県立人と自然の博物館.

加藤ゆき（かとう ゆき）動物学（鳥類）

[論文]

石浜佐栄子・加藤ゆき・大坪 奏・広谷浩子, 2024. 自然史博物館におけるぬりえを用いた教育普及プログラムの実践と評価～幼い子どもを対象としたハト3種のぬりえを例に～. 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要, (28): 113-122.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

小林さやか・岩見恭子・加藤ゆき, 2024. 日本鳥学会 2023 年度大会自由集会報告 W08 第 5 回標本集会 江戸時代の鳥を知ろう, 日本鳥学会誌 73(1): 131-133.

加藤ゆき・石浜佐栄子・大坪 奏・広谷浩子, 2025. 生態画と剥製を核とした企画展「動物のくらしとかたち」の評価と実践. 第 32 回全国科学博物館協議会研究発表大会資料, pp.171-176. 全国科学博物館協議会.

[普及的著作等]

加藤ゆき, 2024. 神奈川県産の標本が伝える生息情報. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, p. 24-25. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 施設連携で集める鳥類標本. *ibid*, pp. 34-35; ライチョウの仲間大集合!. *ibid*, pp. 76-77.

加藤ゆき, 2024. 鷹渡る. 自然科学のとびら, 30(3): 22-23.

[学会発表等]

加藤ゆき, 2024 (September 14-15). 神奈川県におけるカワウ集団繁殖地の変遷と現状. 日本鳥学会 2024 年度大会, 東京大学弥生キャンパス.

小林さやか・岩見恭子・加藤ゆき, 2024 (September 14). 第6回標本集会「博物館施設の標本製作の現状と課題」. 日本鳥学会 2024 年度大会, 東京大学弥生キャンパス.

加藤ゆき・葉山久世・篠田授樹・菊池 博, 2024 (December 21-22). 神奈川県及び山梨県で標識をしたコブハクチョウ *Cygnus olor* の動向と今後の個体管理. バードリサーチ鳥類学大会 2024, オンライン開催.

加藤ゆき・石浜佐栄子・大坪 奏・広谷浩子, 2025 (February 14). 生態画と剥製を核とした企画展「動物のくらしとかたち」の評価と実践. 第32回全国科学博物館協議会研究発表大会, 兵庫県立人と自然の博物館.

苅部治紀 (かるべ はるき) 動物学 (昆虫類)

[論文]

苅部治紀, 2024. エゾカオジロトンボ生息地分布の特徴と個体数減少要因の推定—氾濫原依存種としての視点—. *TOMBO*, 67: 157-165.

Haruki KARUBE, Naoji KATATANI and Quoc Toan PHAN, A new species of 'Chlorogomphus gracilis group' from the Central Highlands of Vietnam with a description of new subgenus *Spinorogomphus* (Odonata: Chlorogomphidae). *TOMBO*, 67: 31-36.

Haruki KARUBE and Quoc Toan PHAN, 2024. True systematic position on *Chlorogomphus vani* Phan & Karube, 2022 (Odonata: Chlorogomphidae). *TOMBO*, 67: 37-39.

苅部治紀・加賀玲子・渡部哲史, 2024. 衰退する対馬のトンボ類の現況: 2023 年秋の調査から—温暖化に伴うアキアカネの衰退要因の推定—. *TOMBO*, 67: 40-50.

苅部治紀・加賀玲子・谷尾 崇, 2024. 対馬のタイワンウチワヤンマとコフキトンボの初記録について—相浦正信氏による 2007 年初確認時の展示標本解説から—. *TOMBO*, 67: 51-53.

苅部治紀・佐野真吾・加賀玲子・尾園 暁, 2024. 対馬から採集されたリュウキュウベニイトトンボ. *TOMBO*, 67: 54-57.

秋田勝己・苅部治紀・津田正太郎・柳 丈陽・北野忠・小田切頭一・荒谷邦雄, 2024. 三重県および和歌山県で採集されたチビマルケシゲンゴロウ. *SAYABANE*, N. S. 53: 20-22.

加賀玲子・苅部治紀, 2024. 対馬からヒメトンボを記録. *TOMBO*, 67: 58-59.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

苅部治紀・木村洋子, 2025. 神奈川県秦野市にて

ビャクシンカミキリを確認. 神奈川県虫報, 215: 76-77.

苅部治紀, 2024. 小笠原の昆虫. 昆虫と自然, 59(11): 15-18.

[普及的著作等]

苅部治紀, 2024. 神奈川県立博物館の昆虫展示標本. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」. pp. 8-9. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 奥村定一コレクション. *ibid*, pp. 10-11.

[学会発表等]

苅部治紀・渡部哲史・加賀玲子, 2024 (November 10). 気候変動がトンボ類に及ぼす影響について (予報). 日本トンボ学会滋賀大会, 滋賀県立琵琶湖博物館.

苅部治紀・渡部哲史・加賀玲子, 2025 (January 19). 顕在化してきたトンボ類への気候変動の影響. トンボ研究会大会, 滋賀県立琵琶湖博物館.

苅部治紀・富永 篤・富坂峰人・石原宏二・金城嵐太・加賀玲子・荒谷邦雄, 2025 (March 17). 山椒は外来魚にもピリリと辛い—水生昆虫に優しい新たな侵略的外来魚駆除法—. 日本生態学会大会, 札幌コンベンションセンター.

渡辺恭平 (わたなべ きょうへい) 動物学 (昆虫類)

[論文]

廣瀬勇輝・渡辺恭平, 2024. ヒメウマノオバチ (ハチ目, コマユバチ科) の宿主初記録. 昆虫ニューシ리즈, 27(2): 80-84.

Watanabe, K. & M. Riedel, 2024. Revision of the genus *Syzeuctus* Förster, 1869 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Banchinae) from Japan. *Zootaxa*, 5496(1): 35-71. <https://doi.org/10.11646/zootaxa.5496.1.2>

廣瀬勇輝・渡辺恭平, 2024. アリヤドリバチ亜科 2 属 (ハチ目、ヒメバチ科) のライトトラップによる採集例. 昆虫ニューシ리즈, 27(3): 112-116.

Watanabe, K., 2024. Taxonomic revision of the extant species of the Japanese Stephanidae (Hymenoptera), with discussion on distribution pattern and conservation importance. *Entomological Science*, 27, e12588, 1-20. doi: 10.1111/ens.12588

Yamauchi, T., K. Watanabe & K. Koyama, 2024. Identification of *Halictidae* sp. (Hymenoptera) visited *Cardiocrinum cordatum* flower (Liliaceae) recorded in Komamura et al. (2021). *Biogeography*, 26: 88-89.

Watanabe, K., H. Mukai & M. Sueyoshi, 2024. Review of the ichneumonid parasitoids of the fungus gnats infesting edible fungi in Japan, with a new species of *Orthocentrus* Gravenhorst, 1829. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 30(2): 182-195.

渡辺恭平・土屋慶丞, 2024. 稀種ツヤクサレダマバチの北海道釧路湿原における初記録. 昆虫ニューシ리즈, 27(4): 162-163.

Morishita, S. & K. Watanabe, 2025. Review of the genera *Homotropus* Förster and *Syrphoctonus* Förster (Hymenoptera, Ichneumonidae, Diplazontinae) from Japan.

- Zootaxa, 5588(1): 49-76. DOI: 10.11646/zootaxa.5588.1.2.
- 渡辺恭平, 2025. 神奈川県から発見されたシロアシクサレダマバチ *Macropis (Macropis) tibialis* Yasumatsu & Hirashima, 1956 (膜翅目ケアシハナバチ科). 神奈川自然誌資料, (46): 1-8.
- Watanabe, K., 2025. Taxonomic study of Japanese Cryptinae (Hymenoptera, Ichneumonidae), with descriptions of 32 new species. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), (54): 71-204.
- [著作・著書・調査報告書・資料等]
- 高橋颯汰郎・渡辺恭平, 2024. 神奈川県横須賀市でスナアカネの未成熟個体を採集. 神奈川虫報, (213): 56-57.
- 渡辺恭平, 2024. 日本産 Cryptini (ヒメバチ科トガリヒメバチ亜科) の同定資料: 4. *Cryptus* group (I). すがれおい, (5): 22-33.
- 渡辺恭平, 2024. 日本産アシプトコバチ科の同定資料と神奈川県立生命の星・地球博物館の収蔵標本目録. すがれおい, (5): 34-79.
- 渡辺恭平・幾留秀一, 2024. コムカシハナバチ *Colletes perforator* Smith, 1869 (ハチ目、ムカシハナバチ科) の営巣環境と労働寄生物. すがれおい, (5): 161-166.
- 田邊結太・小林 駿・渡辺恭平, 2024. 神奈川県におけるヤマトハキリバチとホソバトガリハナバチの新産地. 神奈川虫報, (213): 40-42.
- 渡辺恭平, 2024. 南足柄市でナミカバドロボバチを採集. 神奈川虫報, (213): 42.
- 渡辺恭平, 2024. 山北町でカバオビドロバチの生息地を確認. 神奈川虫報, (213): 53-54.
- 渡辺恭平・江釣子真幸, 2024. 酒匂川河口の河川敷でキバラハキリバチを採集. 神奈川虫報, (213): 55-56.
- 江釣子真幸・田邊結太・渡辺恭平, 2024. 秦野市でソボツチスガリを採集. 神奈川虫報, (213): 56.
- 渡辺恭平・「神奈川虫報」編集委員会, 2024. 神奈川県のレッドデータブック (1995 年と 2006 年刊) とそれらの内容の引用と表記について. 神奈川虫報, (214): 1-5.
- 渡辺恭平, 2024. 箱根町仙石原でシシウド *Angelica pubescens* に訪花したハチ類. 神奈川虫報, (214): 51-53.
- 渡辺恭平, 2024. ハチの多様性を高めるにはどうすれば良いか? 神奈川虫報, (214): 54-71.
- 渡辺恭平, 2024. 絶食に強いクズクビボソハムシ. 神奈川虫報, (214): 93-94.
- 渡辺恭平・久末 遊, 2024. 小笠原諸島固有種ヤマモトアシプトコバチ *Proconura yamamotoi* (Habu, 1976) (膜翅目、アシプトコバチ科) の追加記録と若干の生態観察. すがれおい, (6): 4-9.
- 渡辺恭平・幾留秀一, 2024. 鹿児島県で採集されたヒメバチ科、コマユバチ科およびシリアゲコバチ科の記録. すがれおい, (6): 12-21.
- 小溝克己・渡辺恭平・藏満司夢, 2024. オトシブミコマユバチ *Uncobracon apoderi* (Watanabe, 1933) (ハチ目、コマユバチ科) の寄主新記録: ヒメゴマダラオトシブミ *Paroplapoderus vanvolxemi* (Roelofs, 1875) への寄生. すがれおい, (6): 22-24.
- 渡辺恭平・土屋慶丞, 2024. ホッカイヒメハナバチ *Andrena (Oreomelissa) coitana pilosodorsata* Alfken, 1929 (膜翅目、ヒメハナバチ科) の訪花記録. すがれおい, (6): 41-43.
- 長瀬博彦・渡辺恭平, 2024. 日本産ハキリバチ科の同定資料. すがれおい, (6): 49-103.
- 土屋慶丞・渡辺恭平, 2025. 飯島一雄氏寄贈 北海道東部産ハチ類標本目録: 膜翅目有剣類. 釧路市立博物館紀要, 43: 1-8.
- 渡辺恭平・堀田佳之介, 2025. 神奈川県で採集された県初記録種を含む 5 種の寄生蜂. 神奈川虫報, (215): 81-83.
- 渡辺恭平, 2025. 日本産 *Coelichneumon* (ヒメバチ科ヒメバチ亜科) の同定資料. すがれおい, (7): 17-51.
- 山内健生・渡辺恭平, 2025. 帯広畜産大学収蔵広島県産ヒメバチ科寄生蜂とハナバチ類の記録. すがれおい, (7): 121-128.
- 渡辺恭平, 2025. BioBlitz2024 において青森県西目屋村で採集したハチ類. すがれおい, (7): 129-145.
- [普及的著作等]
- 渡辺恭平, 2024. ハラグロオオテントウ. 広報おい (大井町広報誌), 703: 20.
- 渡辺恭平, 2024. ラミーカミキリ. 広報おい (大井町広報誌), 705: 16.
- 渡辺恭平, 2024. 名前調べが難しい昆虫をどうやって調べるか. 自然科学のとびら, 30(2): 12-13.
- 渡辺恭平, 2024. 文献紹介若干. すがれおい, (5): 176-178.
- 渡辺恭平, 2024. 伊丹英雄氏のコレクションが神奈川県立生命の星・地球博物館に寄贈されました. すがれおい, (5): 179-180.
- 渡辺恭平, 2024. 「つねきばち」と「あられがこ」のバックナンバーについて. すがれおい, (5): 180.
- 渡辺恭平, 2024. 文献紹介若干. すがれおい, (6): 165-169.
- 渡辺恭平, 2024. 編集担当からのお願い. すがれおい, (6): 169-172.
- 渡辺恭平, 2024. 追悼. すがれおい, (6): 172.
- 渡辺恭平, 2024. ウラナミシジミ. 広報おい (大井町広報誌), 709: 20.
- 田邊結太・渡辺恭平, 2024. 「第二回蜂友サロン」開催のお知らせ. すがれおい, (6): 173.
- 田邊結太・渡辺恭平, 2025. 「第二回蜂友サロン」の開催報告. すがれおい, (7): 146-147.
- 渡辺恭平, 2025. 文献紹介若干. すがれおい, (7): 148-151.
- 渡辺恭平, 2025. 文献収集情報. すがれおい, (7): 151.
- 渡辺恭平, 2024. 伝統的建造物にくらすハチたち. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の 30 年-120 万点から厳選した資料で振り返る-」. pp. 52-53. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 県内の昆虫の戸籍簿『神奈川県昆虫誌』. ibid, pp. 60-61.
- [学会発表等]
- Sueyoshi, M., H. Kitajima, H. Mukai & K. Watanabe, 2024 (August 29) Toward effective control of fungus gnat pests of the shiitake

mushroomcultivations. XXVII International Congress of Entomology (Kyoto, Japan)

松本涼子（まつもと りょうこ）

動物学（両生・爬虫類）

[論文]

松本涼子, 2025. 神奈川県国府津海岸に漂着したアオウミガメ *Chelonia mydas* の消化管内容物とフジツボの付着痕について. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学) 54: 233-241.

[普及的著作等]

真鍋 真監訳, 藤原慎一・松本涼子訳, 2025. 恐竜学入門-かたち・生態・絶滅-. 第4版 452 pp. 東京化学同人, 東京. Dinosaurs (Fourth edition), D. E. Fastovsky and D. B. Weishampel (著).

松本涼子, 2024. ロンドン自然史博物館来館者を出迎えるシロナガスクジラ *Balaenoptera musculus* (Linnaeus, 1958). 自然科学のとびら, 30 (3): 17.

松本涼子, 2024. ロンドン研究日記2. 自然科学のとびら, 30 (4): 30-31.

松本涼子, 2024. 世界最大のカメ〜オサガメ〜. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp. 30-31. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; オオサンショウウオの液浸標本から得られる情報. *ibid*, pp. 48-49.

[学会発表等]

松本涼子. 2025 (June 23). オオサンショウウオ科の特異な捕食様式と顎の形態進化. 日本古生物学会 2024 年年会, 高知大学.

鈴木 聡（すずき さとし）動物学（哺乳類）

[論文]

辻 大和・浅見真生・鈴木 聡・藏元武蔵, 2024. 生物学教育用のニホンザル (*Macaca fuscata*) 交連骨格標本の作製マニュアル. 霊長類研究, 40(2): 63-73.

香川正行・北川博正・田渕千鶴子・鈴木 聡, 2025. 福井県勝山市野向町横倉における自動撮影カメラによる哺乳類相調査: 2021年・2022年の調査結果, *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告), 28: 59-72.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

鈴木 聡, 2024. 食肉目. 姉崎智子総監修, 浅原正和・岩佐真宏・鈴木 聡・高井正成・田島木綿子・樽 創・福井 大・南 正人・横畑泰志監修, 学研の図鑑LIVE 動物. pp. 138-175. Gakken, 東京.

[普及的著作等]

鈴木 聡, 2024. 小さくても大切な骨格の構成員たち. 自然科学のとびら, 30(4): 26-27.

鈴木 聡, 2024. 自然史博物館における研究活動—神奈川県立生命の星・地球博物館の場合—. 日本進化学会ニュース 25(2): 22-24.

鈴木 聡, 2024. 普通種タヌキの頭骨集合. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp. 12-13. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 動物園からやって来た大型哺乳類. *ibid*, pp. 28-29; ニホンオオカミの復元骨格. *ibid*, pp. 46-47.

[学会発表等]

土橋健太郎・遠藤 優・鈴木和男・鈴木 聡・永野 惇・西田義憲・増田隆一, 2024 (September 6-9). ddRad-seq 解析によるシベリアイタチの地理的変異. 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 神戸.

鈴木 聡, 2024 (September 6). 持続可能な保護管理とは? 本州の中小型食肉目の保護管理について. 塚田英晴・關 義和・浅野 玄・村上隆広, 自由集会「日本の中小型食肉目は今」... これからの保護管理に向けて. 日本哺乳類学会 2024 年度大会, 神戸.

西村双葉（にしむら ふたば）動物学（哺乳類）

[論文]

Okamura, T., A. R., Smith, T. Mikami, F. Nishimura, C. Shirakata, K. Yasui, S. Asakawa, & K. Yoda, 2024. Three-dimensional vascular structure of caudal and dorsal fins of a dwarf sperm whale. *Ecology and Evolution*, 14: e70727. DOI: <https://doi.org/10.1002/ece3.70727>

[普及的著作等]

西村双葉・白形知佳, 2024. クジラと海洋プラスチック. 自然科学のとびら, 30 (3): 20-21.

西村双葉, 2024. 海棲哺乳類の標本を集める. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp. 26-27. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; マッコウクジラの歯. *ibid*, pp. 88-89.

[学会発表等]

岡村太路・前田将輝・西村双葉・依田 憲, 2024 (June 22-23). 姿勢安定性からみる鯨類における背ビレの前適応の可能性. 日本古生物学会 2024 年年会, 高知大学朝倉キャンパス.

三岡夏美・岡村太路・西村双葉・菊地デイル万次郎. 2025 (March 16). 鯨類のヒレの3次元形状が生み出す流体力の種間比較. 日本生態学会第72回全国大会, 札幌コンベンションセンター.

スミスアシュレイ梨花・岡村太路・三上智之・西村双葉・白形知佳・安井謙介・浅川修一・依田 憲, 2025 (March 16). 血管構造の可視化から探るオガワコマッコウの尾鰭・背鰭における熱交換機構の意義. 日本生態学会第72回全国大会, 札幌コンベンションセンター.

和田英敏（わだ ひでとし）動物学（魚類）

[論文]

深谷真央・松尾 怜・和田英敏, 2024. トラギス科ホムラトラギスの紀伊半島と石垣島からの分布記録および標徴に関する新知見. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 48: 22-27.

本田康介・和田英敏, 2025. 父島から得られた小笠原諸島初記録のイトウダイ科コガシラエビス. タクサ: 日本動物分類学会誌, 58: 34-40.

加登岡大希・瀬能 宏・和田英敏・藤原義弘, 2025. 稀種イチハラビロウドザメ (ツノザメ目: オンデンザメ科) の相模湾からの記録、および日本における分布と生息状況. 神奈川自然誌資料, (46): 9-16.

如月 迅・成田謙介・和田英敏, 2025. ナンヨウハギの相模湾における分布記録 (スズキ目: ニザダイ科). 神奈川自然誌資料, (46): 49-53.

松山侑樹・和田英敏, 2024. 伊豆諸島御蔵島から得られた分布北限記録のキビレハタンボ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 48: 1-4.

手良村知功・加藤柊也・松下亮介・和田英敏, 2024. 底曳網漁業で得られた北限記録 10 種を含む宮城県初記録 16 種の魚類. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 49: 1-9.

和田英敏・加藤 晃, 2024. 相模湾から得られた北限記録のイズハナダイ属魚類 *Plectranthias randalli* チョウチョウハナダイ (新称) (ハタ科ハナダイ亜科). *魚類学雑誌*, 71(2): 199-206.

Wada, H., T. Suzuki, H. Kobayashi & H. Senou, 2025. Two new jawfishes, *Stalix albonotata* sp. nov. and *S. yanoi* sp. nov., from the Ryukyu Islands, Japan (Perciformes: Opistognathidae). *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, (54): 205-217.

[普及的著作等]

和田英敏, 2024. クロサギ科・キス科の解説. 樋之口蓉子・田島奏一朗・是枝伶旺・本村浩之編, 改訂版: 錦江湾奥 干潟の生き物図鑑, pp. 40, 42. 特定非営利活動法人くすの木自然館, 始良.

和田英敏, 2024. フデエソ科, オニアオメエソ科, クロアンコウ科, シロカサゴ科, ヒメキジチ科, キチジ科, イモリザメ, オキナワヤジリザメ, ハゲイワシ, フデエソ, オニアオメエソ, パラオイトヒキダラ, クロダラ, ペリカンアンコウモドキ, ホムラカサゴ, クロカサゴ, ヤセアカカサゴ, アズキカサゴ, シロカサゴ, アラスカキチジ, キチジ, ヒゲキホウボウダマシ, イソキホウボウ, チュラシマハナダイ, リュウグウノヒメ, トウヨウカマス の解説. 岡本 誠・本村浩之編, 日本の深海魚図鑑, pp. 15, 21, 41, 49, 53, 70, 86, 101, 102, 106, 107, 124, 129, 160. 山と溪谷社, 東京.

和田英敏, 2025. “古標本”で遡る 100 年前の相模湾産魚類相. *自然科学のとりら*, 31(1): 2-3.

[学会発表等]

饗場空瑠・和田英敏・遠藤広光, 2024 (September 6-9). ポスター発表演題 104: 高知県と神奈川県から得られたイズハナダイ属の 1 未記載種 (ハタ科ハナダイ亜科). 2024 年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学.

野村玲偉・上地健琉・宮本 圭・和田英敏・小林靖尚・宮崎佑介, 2024 (September 6-9). ポスター発表演題 105: 日本産スミツキハナダイ属 2 種の性的二型および産卵期と性転換に関する新知見. 2024 年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学.

和田英敏・瀬能 宏・藍澤正宏・鈴木寿之, 2024 (September 6-9). ポスター発表演題 126: 日本産アゴアマダイ科魚類の標徴および分布記録の再検討. 2024 年度日本魚類学会年会, 福岡工業大学.

望月健太郎・藍澤正宏・小林健二・和田英敏, 2024 (December 14-15). 口頭発表演題 5: 標本および文献記録に基づく関東地方におけるシナイモツゴの記録の再整理. 第 79 回魚類自然史研究会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

和田英敏・有年由貴子・瀬能 宏・本田康介・藍澤正宏, 2024 (December 14-15). 口頭発表演題 6: 古標本から辿る 1940 年までの相模湾産魚類相と

現在までの変遷. 第 79 回魚類自然史研究会, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

和田英敏, 2025 (February 1). 研究発表 1: “古標本”でみる 100 年前の日本沿岸の魚たち. 第 63 回熊本野生生物研究会 会員研究発表, 熊本市大江公民館.

和田英敏, 2025 (February 2). 研究発表 4: “古標本”で遡る 100 年前の相模湾産魚類相. 第 48 回相模湾海洋生物研究会・研究発表会, 横須賀市自然・人文博物館.

大西 亘 (おおにし わたる) 植物学 (維管束植物) [論文]

Tanaka, N., A. Grabovskaya-Borodina, T. Katsuyama, T. Fukuda & W. Ohnishi, 2024. Plant Type Materials from Kanagawa Prefecture (Japan) in the Herbarium of the Komarov Botanical Institute (LE; Russia): Angiosperms (Dicots). *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, (54): 9-69.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大西 亘, 2025. オープンサイエンス. 阿児雄之・北岡タマ子・田良島 哲・福島幸宏・本間 友・山内利秋 編, ミュージアムの未来をつくる 博物館情報・メディア論, pp. 317-324. 美学出版, 東京.

大西 亘, 2024. ミュゼオミクス時代の博物館とその役割. 中濱直之・中臺亮介・岩崎貴也・大西 亘 責任編集, タイムカプセルの開き方 博物館標本が“細ぐ”生物多様性の過去・現在・未来, pp. 209-217. 文一総合出版, 東京.

岩崎貴也・大西 亘, 2024. 標本のミュゼオミクスの利用について. 中濱直之・中臺亮介・岩崎貴也・大西 亘 責任編集, タイムカプセルの開き方 博物館標本が“細ぐ”生物多様性の過去・現在・未来, pp. 219-237. 文一総合出版, 東京.

山口正志・早川宗志・大西 亘, 2024. 陣場山に県新産のムヨウラン属を見出す. *FLORA KANAGAWA*, (95): 1132-1133.

大西 亘, 2024. 植物標本の保管方法～虫害対策編～. *FLORA KANAGAWA*, (95): 1138-1144.

[普及的著作等]

大西 亘, 2024. ナガエアワゴケ. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の 30 年-120 万点から厳選した資料で振り返る-」, pp. 64-65. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

大西 亘, 2024. 祝・指定 100 年! 早川のビランジュ. *自然科学のとりら*. 30(4): 25.

[学会発表等]

夫婦石千尋・大西 亘・佐竹暁子・矢原徹一, 2025 (March 9). 神奈川県で行われた 3 回の市民調査に基づく在来維管束植物 1,865 種のトレンド評価. 日本植物分類学会第 24 回大会. 高知大学朝倉キャンパス.

矢原徹一・廣田 峻・佐藤広行・布施健吾・田 秀一郎・南谷忠志・水永優紀・堀江健二・上野雄規・黒沢高秀・鈴木まほろ・尾関雅章・黒江美紗子・渡邊幹男・竹下 (村山) 香織・高橋 弘・金光浩伸・藤井聖子・鴻上 泰・狩山俊悟・三原菜美・矢田貝繁明・内藤麻子・中村 進・藤井良造・高野温子・長谷川匡弘・大西 亘・志賀 隆・永濱 藍・社川武徳・夫婦石千尋・ジャヴァディ フィ

ルーゼ・平田萌根・横田昌嗣・内貴章世・グエンバンゴック・高橋大樹・陶山佳久, 2025 (March 10). MIG-seq 解析により日本の被子植物 36 属において 134 種の未記載種が明らかにされた. 日本植物分類学会第 24 回大会. 高知大学朝倉キャンパス.

大西 亘, 2025 (March 10). 結局どうやって撮ればいいの? ~植物標本撮影法の特長比較~. 日本植物分類学会第 24 回大会. 高知大学朝倉キャンパス.

大西 亘, 2025 (February 23). 学術情報流通における博物館の役割. 第 44 回自然史標本データ研究会. 大阪市立自然史博物館.

大西 亘, 2024 (December 7). 博物館の標本を利用してみよう! 2024 年版植物標本編. 第 56 回種生物学シンポジウム. サントピア岡山総社.

吉川ひとみ・大西 亘・柘 浩一郎, 2024 (November 29). MIG-seq 法による異なる生育地由来のコセンダングサの法科学的識別. DNA 多型学会第 33 回学術集会. 横浜市立大学金沢八景キャンパス.

Chihiro Myotoishi・Wataru Ohnishi・Tetsukazu Yahara・Akiko Satake, 2024 (July 22-27). Development of new extinction threat assessment based on locality counts: A case study of 3,180 vascular plants in Kanagawa, Japan. XX International Botanical Congress. Madrid, Spain.

折原貴道 (おりはら たかみち) 菌類学
[論文]

Ohmae, M., M. Nakajima M. & T. Orihara, 2024. First report of a unique resupinate ascomycete, *Karstenella vernalis* (Karstenellaceae, Pezizales) from Japan. Ascomycete.org, 16(3): 167-173.

Yamato, M., M. Ohmae, T. Orihara, R. Kusakabe, B. T. Goto, J. Błaszowski, 2024. Molecular phylogeny, morphology, mycorrhizal symbiosis, and putative distribution of the arbuscular mycorrhizal fungus *Epigeocarpum japonicum* (Glomeraceae). Mycoscience, 65(6): 270-277.

He, M.-Q., B. Cao B., F. Liu, T. Boekhout, T. T. Denchev, N. Schoutteten, C. M. Denche, M. Kemler, ..., T. Orihara, ..., K. D. Hyde, P. M. Kirk & R. L. Zhao, 2024. Phylogenomics, divergence times and notes of orders in Basidiomycota. Fungal Diversity, 126: 127-406.

Hyde, K. D., M. T. Noorabadi, V. Thiyagaraja, M.-Q. He, P. R. Johnston, S. N. Wijesinghe, A. Armand, A. Y. Biketova, K. W. T. Chethana, M. Erdoğan, ..., T. Orihara, ..., L. Zucconi & E. Zvyagina, 2024. The 2024 Outline of Fungi and fungus-like taxa. Mycosphere, 15(1): 5146-6239.

Nagao, H., T. Orihara & T. Kasuya, 2024. Isolation of *Exobasidium vexans* from the Lesions of Blister Blight of Tea and the Prevalence of Anamorphic Structures in Culture. 茶業研究報告 (Tea Research Journal), 138: 23-31.

折原貴道・久高 充, 2024. キチャセイヨウショウ

ロ *Tuber iryudaense* のタイプ産地に続く新産地. Truffology, 7: 9-11.

Nagao, H., T. Orihara & T. Kasuya, 2025. *Exobasidium setsutaiense* sp. nov. (Exobasidiaceae) causing leaf blister on *Rhododendron semibarbatum* in Japan. Phytotaxa, 684(1): 78-92.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

折原貴道・佐々木廣海, 2024. 日本地下生菌研究会第 5 回および第 6 回地下生菌観察会で採集された地下生菌. Truffology, 7: 17-19.

折原貴道, 2025. 表紙写真・表紙解説・編集後記. 神奈川県博物館協会会報, (96).

[普及的著作等]

大坪 奏・折原貴道, 2024. 県立自然史博物館設立を夢見た大菌学者の細密画コレクション. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の 30 年- 120 万点から厳選した資料で振り返る-」, pp.90-91. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[学会発表等]

折原貴道・松尾 歩・山本航平・大前宗之・陶山佳久, 2024 (May 17-19). 地下生菌の海洋島への分散パターン—伊豆諸島における事例—. 一般社団法人日本菌学会第 68 回大会, 八戸 (ハイブリッド開催).

畠山颯太・折原貴道・山本航平・大前宗之・松倉君予, 2024 (May 19). 日本新産種の地下生子囊菌 *Elaphomyces porcatosporus* (新称トラメツチダング). 一般社団法人日本菌学会第 67 回大会, 八戸 (ハイブリッド開催).

Sugimoto, I., M. Suyama & T. Orihara, 2024 (August 12-15). "The Mycota of Iryuda" project by the volunteer group of mycology, Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, Japan. International Mycological Congress (IMC12), MECC Maastricht, Maastricht, Netherlands.

折原貴道, 2024 (August 25). 市民が支える菌類研究—『新・入生田菌類誌』完成までの道のり. 第 139 回企画展「とちぎのキノコ」記念講演会, 栃木県立博物館, 宇都宮, 栃木 (招待講演).

石原 峻・折原貴道・山本好和, 2024 (November 16). 卓上 SEM による天然地衣体と継代組織培養物の微細構造の比較. 日本地衣学会第 23 回大会, 基礎生物学研究所 明大寺地区, 岡崎.

折原貴道, 2025 (January 11). 多様なきのこ類の採集法と標本作製・保管の実際. 第 24 回日本分類学会連合公開シンポジウム「自然の記録を未来へ、生物標本の採集・作製・保管の多様性」, オンライン開催.

折原貴道, 2025 (February 22). 伊豆諸島の地下生菌の種多様性と生物地理—島嶼間の比較分析. 日本地下生菌研究会 2025 年度講演会, 川崎市教育文化会館, 川崎.

石田祐子 (いしだ ゆうこ)
植物学 (植物生態学・植生学)
[論文]

石田祐子, 2024. 神奈川県内 (真鶴町) で約 40 年ぶりにハマアザミを確認. Flora Kanagawa, (94):1123.

石田祐子, 2024. 小田原市でオオバナチョウセン

アサガオの逸出個体を確認. Flora Kanagawa, (94):1125.

藤田淳一・星山耕一・松田貴子・中村千賀・大塚孝一・川上美保子・石田祐子, 2024. 長野県植物誌パイロット版Ⅳ. 長野県植物研究会誌, (57):135-144.

[普及的著作等]

石田祐子, 2024. 後立山連峰のお花畑 (広葉草原) —地形と地質と植生と—. 自然科学のとびら, 30(2):14-15.

石田祐子, 2024. 絶滅が危惧されていたハマアザミ. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」. pp.22-23. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 博物館の歴史を知るハマオモト!?. ibid, pp.72-73.

[学会発表等]

石田祐子・深町篤子・若松伸彦・瀬戸美文・比嘉基紀・吉田圭一郎, 2025 (November 20) 鈎取山モミ希少個体群保護林の歩道整備前後の林床植生の比較. 第27回 自然系調査研究機関連絡会議 調査研究・活動事例発表会. 神奈川県立生命の星・地球博物館.

石田祐子・石田知子, 2025 (March 12-20). 茶道における生態系サービス —茶花に着目して—. 日本生態学会第72回全国大会. 札幌コンベンションセンター. ハイブリッド開催.

大島光春 (おおしま みつはる) 古生物学 (哺乳類)
[論文]

Tomida, Y., C-Z. Zin, A. J. Winkler and M. Oshima, 2024. *Aztlagus rivisited and the dinamic evolurtion of Priopentalagus* (Leporidae, Lagomorpha) in the Holarctic region. Fossil Inprint, 80 (2):229-238.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

大島光春・佐藤武宏・田口公則・佐竹和歌子・松本麻里・天野晴香・関口郁恵・井部玲子・宮坂清佳, 2025. 対話を重ね、ともに作る「インクルーシブプロジェクト」始動～共生社会における新しい博物館を目指して～. 第32回全国科学博物館協議会研究発表大会資料, 17-21.

[普及的著作等]

大島光春, 2024. 始祖鳥が立体化. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp.6-7. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

大島光春, 2024. 展示のあれこれ —博物館展示における挑戦と未来—. 自然科学のとびら, 30(4):28-29.

[学会発表等]

大島光春・佐藤武宏・田口公則・佐竹和歌子・松本麻里・天野晴香・関口郁恵・井部玲子・宮坂清佳, 2025 (February 13-14). 対話を重ね、ともに作る「インクルーシブプロジェクト」始動～共生社会における新しい博物館を目指して～. 全国科学博物館協議会第32回研究発表大会, 兵庫県立人と自然の博物館及びオンライン.

樽 創 (たる はじめ) 古生物学 (哺乳類)
[論文]

Naoto Handa and Hajime Taru, 2025(February 2). Taxonomic revision of a late Miocene rhinoceros from Japan with an overview of *Brachypotherium* from East Asia. Historical Biology, Published online: 02 Feb 2025. DOI: <https://doi.org/10.1080/08912963.2025.2456950>

[著作・著書・調査報告書・資料等]

樽 創, 2024. 長鼻目. 姉崎智子総監修, 浅原正和・岩佐真宏・鈴木 聡・高井正成・田島木綿子・樽 創・福井 大・南 正人・横畑泰志監修, 学研の図鑑LIVE 動物. pp.40-49. Gakken, 東京.

[普及的著作等]

樽 創, 2024. 神奈川のサル化石. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp.66-67, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[学会発表等]

小林 格・石田吉明・福嶋 徹・尾崎 薫・樽 創, 2024 (June 1-2). 上総層群小宮層からのイトマキヒトデ化石の初記録. 第42回化石研究会総会・学術大会, 早稲田大学・早稲田キャンパス.

尾崎 薫, 森田直樹, 中島保寿, ジェンキンズ ロバート, 樽 創, 木村敏之, 2024 (May 26-31). 肋骨化石の保存状態から推定されるアキシマクジラの化石化過程 (予察). JpGU 日本地球惑星科学連合 2024, 幕張メッセ.

宮田真也・門田真人・西岡裕一郎・樽 創, 2024 (June 21-23). 伊豆半島の中新統湯ヶ島層群桜田層から産出したハリセンボン科化石. 2024年年会日本古生物学会, 高知大学.

青塚圭一・福嶋 徹・樽 創, 2024 (June 21-23). 上総層群連光寺層より産出したスズガモ属化石の再検討. 日本古生物学会, 高知大学.

三井翔太・林 千翔・樽 創・柴田健一郎, 2025 (February 2). 耳石化石からわかること～古東京湾に存在した可能性のある熱帯-亜熱帯性魚類群集～, 第48回 相模湾海洋生物研究会 研究発表会, 横須賀市自然・人文博物館.

田口公則 (たぐち きみのり) 古生物学 (貝類)
[著作・著書・調査報告書・資料等]

田口公則, 2024. どうしたら巻貝の螺旋のイメージをもたせることができるだろうか —ベアリング球を貝殻に派遣する方法—. 日本視覚障害理科教育研究会会報, (43):17-21.

田口公則・柴田健一郎・一寸木 肇, 2024. カバーストーリー 表紙解説 天然記念物「諸磯の隆起海岸」露頭. 神奈川地学, (86):2.

大島光春・佐藤武宏・田口公則・佐竹和歌子・松本麻里・天野晴香・関口郁恵・井部玲子・宮坂清佳, 2025. 対話を重ね、ともに作る「インクルーシブプロジェクト」始動～共生社会における新しい博物館を目指して～. 第32回全国科学博物館協議会研究発表大会資料, 17-21.

[普及的著作等]

田口公則, 2024. 潜望鏡付き三葉虫. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp.16-17. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; ブロックで再現、

日本列島の立体地質図. ibid, pp.82-83.

[学会発表等]

田口公則・山下浩之・丹治雄一・西澤文勝, 2024 (April 20). 神奈川の石材データベース構築に向けて―多様な記録手法の模索―. 神奈川地学会 2024 年度「神奈川の地学広場」, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

田口公則, 2024 (July 29). どうしたら巻貝の螺旋のイメージをもたせることができるだろうか―サザエの殻の内型を寒天で型取りする方法―. 日本視覚障害理科教育研究会第 44 回研究大会, 筑波大学附属視覚特別支援学校及びオンライン.

田口公則, 2024 (September 9). 3D 技術を活用した足柄層群塩沢層の小規模石切場に残る採石痕の観察. 日本地質学会第 131 年学術大会, 山形大学小白川キャンパス.

大島光春・佐藤武宏・田口公則・佐竹和歌子・松本麻里・天野晴香・関口郁恵・井部玲子・宮坂清佳, 2025 (February 13-14). 対話を重ね、ともに作る「インクルーシブプロジェクト」始動～共生社会における新しい博物館を目指して～. 全国科学博物館協議会第 32 回研究発表大会, 兵庫県立人と自然の博物館及びオンライン.

山下浩之(やました ひろゆき) 地学(岩石学)

[著作・著書・調査報告書・資料等]

山下浩之, 2025. 3. (8) 住吉堀で確認された刻印石の理化学分析. 小田原市文化財調査報告書第 217 集「史跡小田原城跡二の丸住吉堀修景整備事業報告 史跡小田原城住吉堀」, 306-311. 小田原市教育委員会.

[普及的著作等]

山下浩之, 2024. 硫黄島の新島の噴火. 自然科学のとびら, 30 (2): 9.

山下浩之, 2024. 箱根火山の地下にはどんな地層があるのか?. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の 30 年-120 万点から厳選した資料で振り返る-」, pp. 50-51. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 神奈川県内で使われた石材. ibid, pp.80-81; 箱根火山の総合研究から展示まで. ibid, pp.84-85; 博物館をつくる石材. ibid, pp.86-87.

[学会発表等]

田口公則・山下浩之・丹治雄一・西澤文勝, 2024 (April 20). 神奈川の石材データベース構築に向けて―多様な記録手法の模索―. 神奈川地学会 2024 年度「神奈川の地学広場」, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

Fujii, M., Y. Ohara, Y. Harigane, H. Yamashita & K. Okino, 2024 (May 27). Preliminary results of rock magnetic properties from oceanic core complexes in the Philippine Sea: Implication for magnetization structure of oceanic lithosphere. Japan Geoscience Union Meeting 2024, MAKUHARI MESSE, Chiba.

Ohara, Y., Y. Harigane, M. Fujii, N. Akizawa, V. Basch, C. Ferrando, I. Katayama, K. Michibayashi, A. Ogawa, A. Takeuchi, M. Takeuchi, C. Tamura, K. Tomikawa, S. Watanabe & H. Yamashita, 2024 (May 29). KH-23-9 Onboard Students Preliminary report of KH-23-9 cruise: new datasets to understand

the Southern Mariana region. Japan Geoscience Union Meeting 2024, MAKUHARI MESSE, Chiba.

西本昌司・乾 睦子・中澤 努・平賀あまな・山下浩之, 2024 (September 10). ハンドヘルド蛍光 X 線分析 (XRF) による国産斑レイ岩石材の非破壊同定の可能性, 日本地質学会第 131 年学術大会, 山形大学小白川キャンパス.

山岡璃音・秋澤紀克・市山祐司・森下知晃・田村明弘・山下浩之・針金由美子・小原泰彦, 2024 (September 12). 伊豆・小笠原・マリアナ前弧域のマントル加水作用とマグマ形成史. 日本鉱物科学会 2024 年年会, 名古屋大学東山キャンパス.

西本昌司・乾 睦子・中澤 努・平賀あまな・山下浩之, 2025 (March 9). 山形県郷土館「文翔館」に使われている花崗岩質石材のハンドヘルド蛍光 X 線分析 (XRF) による非破壊同定. 文化地質研究会第 8 回学術大会, 豊岡市.

小原泰彦・針金由美子・藤井昌和・秋澤紀克・Basch Valentin・Ferrando Carlotta・片山郁夫・道林克禎・小川晟人・竹内 綾・竹内 誠・田村千織・富川 光・渡邊 俊・山下浩之, 2025 (March 13). 南部マリアナ地域の組成・構造とテクトニクス: 白鳳丸 KH-23-9 航海概要報告. 海と地球のシンポジウム. 東京大学弥生キャンパス.

乾 睦子・平賀あまな・西本昌司・中澤 努・山下浩之, 2025 (March 13). ポータブル型蛍光 X 線分光分析装置を用いた石材産地推定に向けて. 変成岩などシンポジウム, 東北大学青葉山キャンパス.

新井田秀一(にいだ しゅういち) 環境科学

[普及的著作等]

新井田秀一, 2025. 吉田初三郎・作、大雄山最乗寺を描いた 2 種類の鳥瞰図. 自然科学のとびら. 31(1): 4-5.

新井田秀一, 2024. 鳥瞰図に描かれた神奈川. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の 30 年-120 万点から厳選した資料で振り返る-」, pp. 62-63. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[学会発表等]

新井田秀一・武田周一郎, 2024 (August 24). 吉田初三郎・作「神奈川県鳥瞰図」の構図を CG で再現する. 2024 年度日本地図学会定期大会, 日本大学経済学部 7 号館.

石浜佐栄子(いしはま さえこ) 地学(堆積学)

[論文]

石浜佐栄子・加藤ゆき・大坪 奏・広谷浩子, 2024. 自然史博物館におけるぬりえを用いた教育普及プログラムの実践と評価～幼い子どもを対象としたハト 3 種のぬりえを例に～. 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要, (28): 113-122.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

加藤ゆき・石浜佐栄子・大坪 奏・広谷浩子, 2025. 生態画と剥製を核とした企画展「動物のくらしとかたち」の評価と実践. 第 32 回全国科学博物館協議会研究発表大会資料, pp.171-176. 全国科学博物館協議会.

[普及的著作等]

石浜佐栄子, 2024. さまざまな扉を開く砂～誰にも開かれた「すな」展示を目指して. 自然科学

のとびら, 29(3): 20-21.
石浜佐栄子, 2024. 斜めに交わるしま模様が見事な地層. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp.18-19. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; みんなで集めた大地のかけら. ibid, pp.40-41.

[学会発表等]

加藤ゆき・石浜佐栄子・大坪 奏・広谷浩子, 2025 (February 14). 生態画と剥製を核とした企画展「動物のくらしとかたち」の評価と実践. 第32回全国科学博物館協議会研究発表大会, 兵庫県立人と自然の博物館.

西澤文勝 (にしざわ ふみかつ) 地学 (火山地質学) [論文]

萬年一剛・小林 淳・西澤文勝・笠間友博・宮下雄次, 2023. 箱根町仙石原春山下に露出した湖成堆積物の年代. 温地研報告, (55):1-13.

Vineberg S. O., P.G. Albert, D. McLean, T. Suzuki, R. A. Staff, K. Yamada, I. Kitaba, J. Kitagawa, C. J. Manning, H. M. Buckland, G. Jones, F. Nishizawa, SG14 Project Members, T. Nakagawa & V. C. Smith, 2025. A detailed record of large explosive eruptions from Japan between ~120 and 50 ka preserved at Lake Suigetsu. Quaternary Science Reviews, 346: 109021.

[普及的著作等]

西澤文勝, 2024. 映像で残すかながわの地形・地質. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」. pp.36-37. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; 隕石コレクション. ibid, pp.38-39.

[学会発表等]

田口公則・山下浩之・丹治雄一・西澤文勝, 2024 (April 20). 神奈川の石材データベース構築に向けてー多様な記録手法の模索ー. 神奈川地学会2024年度「神奈川の地学広場」, 神奈川県立生命の星・地球博物館.

夏目 樹 (なつめ いつき) 地学 (鉱物学)

[論文]

Michibayashi, K., Y. Kakihata, I. Natsume, T. Okuwaki, M. Godard, P. Kelemen & The Oman Drilling Project Science Team, 2025. Legacy of mantle fabrics preserved within heavily serpentinitized peridotites in Hole BA3A cores of the Oman Drilling Project. Lithos, 496-497, 107970. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.lithos.2025.107970>

Ohta, Y., T. Mogi, H. Ichihara, K. Yamaoka, M. Adachi, T. Kubo & I. Natsume, 2025. Subsurface Resistivity and Sulfide Filling Microfractures: A Rock Physical Analysis at Mt. Ontake Volcano's Southeast Flank. Geophysical Journal International, 241(3):1449-1466. DOI: <https://doi.org/10.1093/gji/ggaf111>

[普及的著作等]

夏目 樹, 2025. 断層岩の研究. 自然科学のとび

ら, 31(1): 6-7.

夏目 樹, 2024. 寄贈鉱物コレクション. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp.20-21. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原; カラフルなりチア電気石. ibid, pp.78-79.

[学会発表等]

道林克禎・夏目 樹, 2024 (May 28). オマーン掘削プロジェクトBA3A掘削コアに遺されたマントルファブリック. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ.

奥脇健生・夏目 樹・道林克禎, 2024 (May 28). オマーンオフィオライトマントルセクションの構造要素の鉛直変化. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ.

夏目 樹・額綱佑衣・道林克禎・岡本 敦, 2024 (May 29). シュードセクション法を用いた断層岩の水-岩石反応解析〜オマーンオフィオライト地殻-マントル境界に発達した延性剪断帯の例〜. 日本地球惑星科学連合2024年大会, 幕張メッセ.

夏目 樹・道林克禎・伊神洋平, 2024 (September 12). ハンレイ岩ウルトラマイロナイトの斜長石微細構造と四重点解析. 日本鉱物科学会2024年年会, 名古屋大学東山キャンパス.

奥脇健生・夏目 樹・道林克禎, 2024 (September 12). オマーンオフィオライト最上部マントル連続構造の復元. 日本鉱物科学会2024年年会, 名古屋大学東山キャンパス.

道林克禎, 奥脇健生, 夏目 樹, 2024 (September 13). マントルリソスフェアの形成とカンラン石レオロジーの変遷. 日本鉱物科学会2024年年会, 名古屋大学東山キャンパス.

大坪 奏 (おおつぼ かなで) アーカイブズ

[論文]

石浜佐栄子・加藤ゆき・大坪 奏・広谷浩子, 2024. 自然史博物館におけるぬりえを用いた教育普及プログラムの実践と評価〜幼い子どもを対象としたハト3種のぬりえを例に〜. 日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要, (28): 113-122.

[著作・著書・調査報告書・資料等]

加藤ゆき・石浜佐栄子・大坪 奏・広谷浩子, 2025. 生態画と剥製を核とした企画展「動物のくらしとかたち」の評価と実践. 第32回全国科学博物館協議会研究発表大会資料, pp171-176. 全国科学博物館協議会.

[普及的著作等]

大坪 奏・折原貴道, 2024. 県立自然史博物館設立を夢見た大菌学者の細密画コレクション. 佐藤武宏・大島光春・田口公則・石田祐子編, 特別展図録「生命の星・地球博物館の30年-120万点から厳選した資料で振り返る-」, pp.90-91. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

[学会発表等]

加藤ゆき・石浜佐栄子・大坪 奏・広谷浩子, 2025 (February 14). 生態画と剥製を核とした企画展「動物のくらしとかたち」の評価と実践. 第32回全国科学博物館協議会研究発表大会, 兵庫県立人と自然の博物館.

3.4. レファレンス対応人数

2024年度の学芸員のレファレンス業務について、件数の表記が可能なものを分野別に、問い合わせの手法によって分類し、表に示した。

レファレンス対応人数・マスコミに掲載された件数

	研究者						研究者以外						レファレンス合計	同定標本数	マスコミ掲載数	マスコミ放送・放映
	メール	電話	手紙	来館	出張	小計	メール	電話	手紙	来館	出張	小計				
昆虫類	177	6	10	7	39	239	214	27	13	245	306	805	1,044	6,274	6	0
魚 類	248	13	0	44	68	373	322	28	0	107	6	463	836	4,426	6	14
両生・爬虫類	24	0	0	5	1	30	82	32	0	15	0	129	159	15	1	2
鳥 類	15	2	0	1	0	18	89	65	1	13	0	168	186	419	3	1
哺乳類	4	0	0	17	19	40	33	4	0	31	25	93	133	55	0	1
その他動物	17	0	0	1	0	18	65	73	0	24	16	178	196	136	0	6
植 物	6	0	0	0	0	6	62	25	0	4	0	91	97	33	0	2
菌 類	246	34	44	50	45	419	53	27	9	41	44	174	593	442	1	2
古生物	81	10	1	15	1	108	91	12	0	42	4	149	257	19	0	0
地 学	8	1	0	1	1	11	27	23	0	66	3	119	130	181	0	1
地球環境	3	0	0	1	0	4	6	1	0	1	0	8	12	0	0	0
合 計	829	66	55	142	174	1,266	1,044	317	23	589	404	2,377	3,643	12,000	17	29

マスコミ等の問い合わせ元（掲載未確認のものを含む）

	主な問い合わせ元(放送局・出版社等)	主な番組等
昆虫類	神奈川新聞/TBS テレビ/フジテレビ/読売新聞/タウンニュース/Mediall/東京新聞/神静民報社	
魚 類	時事通信社/聖教新聞/NHK/日本経済新聞/テレビ朝日/日本テレビ/釣りビジョン/TBS テレビ/読売新聞/日本経済新聞社/Miami Herald	「オー！マイゴッド！」/「相葉マナブ」/「カズレーザと学ぶ」/「NTV ヒルナンデス！」/「チャンハウス」/「熱愛！サカナ図鑑」/「ワイルドアジア」/「ワールド極限ミステリー」/「ザ・バックヤード」/「ギョギョッとサカナ★スター」/「マイあさ！」/「ダーウィンが来た！」
両生・爬虫類	日本テレビ/素野タウンニュース/NHK	「カズレーザ」/「ワイルドアジア」
鳥 類	毎日新聞/静岡新聞/NHK/神奈川新聞	「ワイルドアジア」
哺乳類	TBS テレビ/NHK	「ワールド極限ミステリー」/「ワイルドアジア」
その他動物	NHK/NTV/テレビ朝日/TBS テレビ/日本テレビ	「ギョギョッとサカナスター」/「鉄腕ダッシュ」/「相葉マナブ」/「ワールド極限ミステリー」/「アイ・アム・冒険少年」/「ボクを食べないキミへ～人生の食敵」/「ワイルドアジア」/「オー！マイゴッド！」
植 物	tvk 報道/NHK/interFM	「ワイルドアジア」/「にっぽん百名山」/「レコレール」
菌 類	NHK/小学館 女性セブン編集部/FM Yokohama/JCTV（日本ケーブルテレビジョン）	「バックヤード」
古生物		
地 学	NHK E テレ/BS フジ/NHK/TBS テレビ	「おは！よ～いどん」/「もしもで考える・・・森田健作のなるほど！なっとく塾」/「プラタモリ」/「ワールド極限ミステリー」
地球環境	新学社	

3.5. 各種委員・役員・非常勤講師

委員・役員については、「役職名（必要に応じ機関・団体名）」の順に記載した。非常勤講師に関しては、「学校名・科目名」の順に記載した。査読については、和文誌については「雑誌名（依頼元）」を日本語で、欧文誌については「雑誌名（依頼元）」を欧文で記載した。

田中徳久

[委員・役員]

植生学会編集委員（植生学会）

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

神奈川県植物誌調査会運営委員

横浜植物会運営委員

大和市文化財保護審議会委員

茅ヶ崎市環境審議会委員

大磯町環境審議会委員

大磯町文化財専門委員

箱根町文化財保護委員

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「地域の自然史」

桜美林大学非常勤講師（前期・集中）「野外安全管理」

桜美林大学非常勤講師（後期）「自然環境調査法」

佐藤武宏

[委員・役員]

神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）

川崎市社会教育委員会議青少年科学館専門部会委員（川崎市）

第26回日本進化学会神奈川大会 実行委員

[非常勤講師]

神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「科学の世界 地域の自然史」

日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期）「博物館概論」

[査読]
神奈川自然誌資料
地学雑誌

加藤ゆき

[委員・役員]
神奈川県鳥類目録編集委員会委員（日本野鳥の会神奈川支部）
周南市ツル保護協議会委員（山口県周南市）
[査読]
神奈川自然誌資料

苅部治紀

[委員・役員]
日本トンボ学会会長
日本トンボ学会編集委員会委員長
日本トンボ学会自然保護委員長
日本甲虫学会自然保護委員
小笠原諸島世界自然遺産地域 科学委員会委員
環境省令和6年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会昆虫分科会検討委員
環境省希少野生生物推進員
環境省小笠原希少昆虫保護増殖事業連絡会議委員
環境省グリーンアノール対策ワーキンググループ委員
林野庁小笠原諸島森林生態系保護地域修復計画業務検討委員会委員
東京都鴛島列島植生回復調査検討委員会委員
東京都父島列島外来樹木対策検討委員会委員
東京都北進線改修事業に関わる専門家委員会・行文線未整備区間の整備に係る専門家会議委員

渡辺恭平

[委員・役員]
一般社団法人日本昆虫学会 代議員
一般社団法人日本昆虫学会 英文誌編集専門委員
一般社団法人日本昆虫学会 将来問題検討委員
一般社団法人日本昆虫学会 日本昆虫目録編集委員
神奈川昆虫談話会 幹事
膜翅目研究会 幹事
地球規模生物多様性情報機構日本ノード運営委員会 作業部会委員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
[査読]
Entomological Science（編集担当として4編）
昆虫ニューシリーズ
神奈川自然誌資料

松本涼子

[委員・役員]
アメリカ古生物動物学会（Society of Vertebrate Paleontology）・学会要旨選考委員
日本古生物学会「化石」編集委員
白山市恐竜パーク運営委員会委員（石川県白山市）
相模原市環境影響評価審査会委員（神奈川県相模原市）
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
[査読]
神奈川自然誌資料

鈴木 聡

[委員・役員]
日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会委員長
日本哺乳類学会大会企画・将来構想委員会委員
日本哺乳類学会哺乳類保護管理専門委員会小型食肉目保護管理検討作業部会員
神奈川県レッドリスト評価・選定委員会委員（神奈川県）
第26回日本進化学会神奈川大会 実行委員
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「地域の自然史」
[査読]
人と自然
Royal Society Open Science

西村双葉

[委員・役員]
神奈川県博物館協会 総合防災計画推進委員会委員長
神奈川県博物館協会 機能研究部会幹事
[査読]
非公表（1編）
神奈川県立博物館研究報告（自然科学）

和田英敏

[委員・役員]
Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 編集委員
Ichthyological Research・魚類学雑誌 編集委員
日本魚類学会若手の会 副会長
タクサ：日本動物分類学会誌 編集委員
日本魚類学会幹事会 庶務幹事
[査読]
Acta Ichthyologica et Piscatoria
Biogeography
Cambodian Journal of Natural History
Ichthy, Natural History of Fishes of Japan（4編）
Journal of Fish Biology
Natural History Bulletin of the Siam Society
Vibha Nim Journal of Fish Biology
ZooKeys
神奈川県立博物館研究報告（自然科学）
日本生物地理学会会報

大西 亘

[委員・役員]
日本植物分類学会植物データベース専門委員会委員長
種生物学会幹事（関東地区）
デジタルアーカイブ学会評議員
デジタルアーカイブ学会誌編集委員
莎草研究編集委員
ニッチェ・ライフ編集委員
神奈川県植物誌調査会運営委員
小田原市郷土文化館協議会委員
相模原市デジタルアーカイブ推進協議会委員

折原貴道

[委員・役員]

日本地下生菌研究会 会長
日本地下生菌研究会 事務局
日本地下生菌研究会 Truffology 編集委員
日本地下生菌研究会 総会・講演会・シンポジウム
担当
一般社団法人日本菌学会 理事（庶務）
一般社団法人日本菌学会 Mycoscience 編集委員
一般社団法人日本菌学会 2025 年度菌類観察会（静岡フォーレ）実行委員会委員
神奈川県博物館協会 自然科学部会幹事
神奈川県博物館協会 協会報編集委員長
生命の星・地球博物館 入生菌類誌調査グループ
代表
第 26 回日本進化学会神奈川大会 実行委員
東京都「東京都の保護上重要な野生生物種（伊豆諸島）」改定に向けた専門部会 非維管束植物分科
会専門委員
[査読]
Mycoscience（一般社団法人日本菌学会）（編集委員
として 3 編・レビューアとして 1 編）

石田祐子

[委員・役員]

神奈川県植物誌調査会運営委員
長野県植物誌改訂委員
[査読]
神奈川県立博物館研究報告（自然科学）
植生学会誌

大島光春

[委員・役員]

茅ヶ崎市博物館協議会委員
日本展示学会理事
[非常勤講師]
帝京科学大学（後期分担）「博物館経営論」
[査読]
地学雑誌

樽 創

[委員・役員]

日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会（日本哺乳類学会）（6 月まで）
神奈川地学会幹事
あきる野市文化財保護審議会委員（あきる野市教育委員会）
[非常勤講師]
東京農業大学非常勤講師（前期）「地学」

田口公則

[委員・役員]

日本地質学会生涯教育委員
日本共生科学会理事
日本共生科学会編集委員
愛川町資料館運営協議会構成員
神奈川地学会幹事
[非常勤講師]
日本女子大学非常勤講師（通年）「博物館実習（3 年）
B」

山下浩之

[委員・役員]

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
史跡江戸城石垣石丁場跡調査整備委員会専門委員
（熱海市教育委員会）
小田原市郷土文化館協議会委員（小田原市教育委員会）
（一社）日本地質学会 関東支部地区代議員
（一社）日本地質学会 ジオパーク支援委員
[非常勤講師]
学校法人玉川大学農学部非常勤講師（後期）「地学」
学校法人玉川大学農学部非常勤講師（後期）「地学
実験」

新井田秀一

[委員・役員]

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
[非常勤講師]
神奈川大学理学部非常勤講師（前期・後期）「地域の自然史」
日本大学生物資源科学部非常勤講師（後期集中）「博物館展示論」

石浜佐栄子

[委員・役員]

東京地学協会専門家紹介委員会委員
東京地学協会アドバイザー委員
全科協ニュース編集委員会委員

西澤文勝

[委員・役員]

日本第四紀学会行事委員会委員
箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員
神奈川地学会幹事
[非常勤講師]
公立大学法人東京都立大学大学院都市環境科学研究科地理環境学域非常勤講師（後期）「都市環境科学特別講義 4」
東京都立大学都市環境科学研究科地形・地質学研究
室客員研究員

夏目 樹

[委員・役員]

箱根ジオパーク推進協議会幹事会委員

大坪 奏

[委員・役員]

一般社団法人日本菌学会日本分類学会連合連絡委員

3.6. 講師依頼等

当博物館学芸員等への講師依頼件数を、依頼元と実施場所（館内・館外）の区分で一覧表に示した。
行政機関・各種団体からの依頼については、実施日順にその内容を示した。（延べ件数集計のため、複数日にわたるものはそれぞれの実施日を計上している。独立行政法人は行政機関に含め集計した。）なお、学校（小・中・高・大・養護等および教員研修）からの依頼については、「5.2. 学校教育への対応」（55 ページ）「5.3. 博物館実習」（56 ～ 57 ページ）に記載した。

講師依頼元の内訳

		小学校	中学校	高校	大学(短・院含む)	教員研修	行政機関	各種団体	その他	合計
館内	件数	7	1	2	14	1	1	4	1	31
	人数	165	186	93	261	36	32	81	75	929
館外	件数	2	3	0	3	6	20	20	0	54
件数合計		9	4	2	17	7	21	24	1	85

行政機関・各種団体の依頼（館内実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数
5/1(水)	小田原ガイド協会ガイド養成講座ジオパークⅠ	特定非営利活動法人小田原ガイド協会	山下浩之	11
9/21(土)	展示見学	神奈川理科サークル	田口公則	10
10/9(水)	生命の星・地球博物館の概要と資料について	神奈川県立図書館	加藤ゆき・土屋定夫	32
2/21(金)	「箱根パークボランティア研修会」	一般社団法人自然公園財団 箱根支部	渡辺恭平	24
3/4(火)	博物館見学	あきる野市青少年顕彰ふるさと委員会	樽 創	36
合計				113

行政機関・各種団体の依頼（館外実施）

実施日	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
5/8(水)	小田原ガイド協会ガイド養成講座ジオパークⅡ	特定非営利活動法人小田原ガイド協会	山下浩之	石垣山一夜城
5/11(土)	100 万年前の狛江は海の底～狛江の古脊椎動物～	狛江市教育委員会	樽 創	中央公民館（狛江市民センター）
5/12(日)	「すわのはら昆虫きょうしつ きれいな虫さがし」	神奈川県立おだわら諏訪の原公園（指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ）	渡辺恭平	神奈川県立おだわら諏訪の原公園
5/13(月)	神奈川県の植物相～研究史とその特徴～	社会福祉法人鎌倉市社会福祉協議会	田中徳久	教養センター
5/28(火)	「植物の分け方、調べ方」	公益財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター	石田祐子	オンライン
5/28(火)	「地域の植物相調査と標本データの活用」	公益財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター	田中徳久	横浜市緑公会堂
6/5(水)	「相模原の台地の成り立ちについて」ほか	相模原市立大野台公民館	西澤文勝	相模原市立大野台公民館
6/9(日)	箱根西麓森林塾	NPO 法人三島フォレストクラブ	折原貴道	三島市箱根の里とその周辺の森
6/15(土)	Web 市民シンポジウム サカナ×？？？「魚類学」の多彩なアプローチ	日本魚類学会 若手の会	和田英敏	オンライン
6/18(火)	気候変動の基礎知識等	独立行政法人国立印刷局研究所	新井田秀一	国立印刷局研究所
6/22(土)	「初夏のキノコ観察」	神奈川県立 21 世紀の森	折原貴道	神奈川県立 21 世紀の森
7/7(日)	「姫の沢公園 昆虫観察会」	姫の沢公園（指定管理者 姫の沢公園パートナーズ）	渡辺恭平	熱海市 姫の沢公園
7/10(水)	地理・地形に関する講義	一般社団法人環境パートナーシップ会議	田口公則	神奈川県立山北高等学校
7/25(木)	「夏休み自然科学講座 アンモナイト観察入門」	小田原市立小田原駅東口図書館	田口公則	小田原駅東口図書館
7/27(土)	「縄文期栗船湾の様相について」	玉縄城址まちづくり会議	田口公則	龍寶寺 玉縄歴史館
8/4(日)	箱根虫塾	一般社団法人自然公園財団 箱根支部	渡辺恭平	箱根町立森のふれあい館、畑引山
8/11(日祝)	箱根虫塾	一般社団法人自然公園財団 箱根支部	渡辺恭平	箱根ビジターセンター、周辺園地
8/12(月振)	おおい自然園『夜の虫さがし』	大井町教育委員会	渡辺恭平	金手駐車場周辺
8/13(火)	「夜の昆虫かんさつ会」	神奈川県立おだわら諏訪の原公園（指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ）	渡辺恭平	神奈川県立おだわら諏訪の原公園
8/17(土)	アンモナイトの石（一部）レプリカ標本等展示・講話	株式会社カルサイト	大島光春	小田原ダイナシティ
8/25(日)	記念講演会「市民が支える菌類研究—『新・入生田菌類誌』完成までの道のり」	栃木県立博物館	折原貴道	栃木県立博物館
8/28(水)	『熱愛！サカナ図鑑 カサゴ編』	株式会社釣りビジョン	和田英敏	釣りビジョン新宿スタジオ
9/16(月祝)	「すわのはらバッタ観察会」	神奈川県立おだわら諏訪の原公園（指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ）	渡辺恭平	神奈川県立おだわら諏訪の原公園
9/21(土)	「身近な野生動物のひみつ」	秦野市立堀川公民館	鈴木 聡	秦野市立堀川公民館
9/28(土)	「おおい自然園『酒匂川の岩石観察会』	大井町教育委員会	山下浩之	生涯学習センター
10/5(土)	「秋のキノコ観察」	神奈川県立 21 世紀の森	折原貴道	神奈川県立 21 世紀の森
10/12(土)	平塚新港「海のお魚調べ（岸壁探集）」	NPO 法人暮らし・つながる森里川海	和田英敏	ひらつかタマ三郎漁港（平塚新港）内
11/3(日祝)	第 21 回夢見遊山いたばし見聞楽	板橋秋の交流会実行委員会事務局（小田原市郷土文化館）	大西 亘	松永記念館
11/4(月振)	「森の生きもの講演会」	横浜自然観察の森（指定管理者 公益財団法人日本野鳥の会）	大西 亘	横浜自然観察の森 自然観察センター
11/9(土)	令和 6 年度自然保護講座「神奈川の野鳥の生息状況と課題」	神奈川県自然保護公園部自然保護課	加藤ゆき	神奈川県自然環境保全センター
11/16(土)	カムズ！海淡フォーラム	観音崎自然博物館	西村双葉 和田英敏	観音崎自然博物館
12/13(金)	神奈川県立生命の星・地球博物館での周年事業について	神奈川県博物館協会	佐藤武宏	よこはま動物園ズーラシア
12/14(土)	おだわらグリーンマルシェ×環境フェス@HaRuNe 小田原	小田原市環境部環境政策課	新井田秀一	HaRuNe 小田原
12/15(日)	2024 年の植物界の話題	横浜植物会	田中徳久	横浜市こども植物園
12/21(土)	「丹沢の生い立ち」	秦野市立堀川公民館	山下浩之	秦野市立堀川公民館
1/23(木)	「博物館での私の仕事」	小田原ロータリークラブ	田中徳久	報徳会館
2/2(日)	「冬のいきものがさし〜冬に虫はどこにいるのかな〜」	神奈川県立おだわら諏訪の原公園（指定管理者 おだわら諏訪の原公園パートナーズ）	渡辺恭平	神奈川県立おだわら諏訪の原公園
2/24(月振)	境川遊水地「貝化石掘り体験」	神奈川県立境川遊水地公園（指定管理者 神奈川県公園協会・サカタのタネグリーンサービスグループ）	田口公則	神奈川県立境川遊水地公園情報センター及び下飯田遊水地内
3/8(土)	市民公開シンポジウム「みんなで調べる地域の植物 植物誌編纂を目指して」県民の県民による県民のための『神奈川県植物誌』	日本植物分類学会第 24 回大会	田中徳久	高知大学朝倉キャンパス
3/24(月)	「クジラー海に棲む哺乳類と神奈川の鯨類調査ー」	真鶴町立遠藤貝類博物館サポーターズ	西村双葉	真鶴町立遠藤貝類博物館

3.7. 学術交流

当館で開催された様々な学会や研究会などの総会・例会・講演会等について記載した。なお、「他団体・機関との連携行事」に記載がある一般に公開した講演会は52ページに詳細を記載のため省略した。

実施団体	実施日	開催内容	講師等	実施場所等
自然史イメージング研究会	4/5(金)	研究会	地方独立行政法人大阪市博物館機構大阪 市立自然史博物館 佐久間大輔	県立生命の星・地球博物館（5名）
神奈川県植物誌調査会	4/14(日)	役員会・総会・講演会	田中徳久・大西 亘・石田祐子・昭和大学 富士山麓自然・生物研究所 柿嶋 聡	県立生命の星・地球博物館（50名）
神奈川地学会	4/20(土)	総会・地学広場	谷 圭司・中村俊文ほか	県立生命の星・地球博物館 （総会31名、地学広場29名）
魚の会	5/19(日)	総会	—	県立生命の星・地球博物館（21名）
箱根ジオパーク	5/31(金)	総会	—	県立生命の星・地球博物館（45名）
菌類懇話会	7/6(土)	例会	種山裕一	県立生命の星・地球博物館（約10名）
菌類懇話会	7/7(日)	例会	折原貴道	県立生命の星・地球博物館（約20名）
神奈川昆虫談話会	8/25(日)	例会	—	県立生命の星・地球博物館（43名）
神奈川昆虫談話会	12/1(日)	総会・例会	荻部治紀・渡辺恭平	県立生命の星・地球博物館（54名）
魚類自然史研究会	12/14(土)・15(日)	研究会	瀬能 宏・勝呂尚之	県立生命の星・地球博物館（183名）
神奈川昆虫談話会	3/23(日)	例会	—	県立生命の星・地球博物館（40名）

3.8. 他施設・団体への協力

他博物館、学会などへの協力関係について、協力先、期間、内容、担当者等を記載した。（開催日初日順）

協力先団体名	実施日	協力内容等	担当者	実施場所等
箱根ジオパーク推進協議会幹事会	5月9日(木)	幹事会への出席	山下浩之 新井田秀一 西澤文勝 夏目 樹	小田原合同庁舎
	7月19日(金) 2025年2月6日(木)		山下浩之 西澤文勝 夏目 樹	オンライン
	5月31日(金)	総会への出席	田中徳久 芳賀洋一 山下浩之 新井田秀一 西澤文勝 夏目 樹	神奈川県立生命の 星・地球博物館
	7月19日(金) 12月19日(木) 2025年3月27日(木)	サイト保全会議への出席	西澤文勝 夏目 樹	箱根町役場
				オンライン
	11月26日(火)	日本ジオパーク委員会による再認定審査（現地調査）	佐伯有紀 山下浩之 西澤文勝	神奈川県立生命の 星・地球博物館
日本魚類学会・若手の会	6月15日(土)	Web シンポジウム「サカナ×???? 魚類学の多様なアプローチ」の運営	和田英敏	オンライン
	8月24日(土)	Web シンポジウム「サカナ×???? 魚類学の多様なアプローチ」Part2の運営		
	11月24日(日)	Web シンポジウム「サカナ×???? 魚類学の多様なアプローチ」Part3の運営		
東京大学総合研究博物館	7月5日(金)～10月6(日)	特別展示『海の人類史 - バイオニアたちの100万年』の展示構成協力	和田英敏	INTERMEDIATE
静岡科学館 る・く・る	7月13日(土)～8月18(日)	三内丸山遺跡センター5周年記念特別展1「恵みの海と縄文―陸奥湾と三内丸山―」での展示構成の相談および画像協力	和田英敏	神奈川県立生命の 星・地球博物館
特定非営利活動法人日本地学オリンピック日本委員会	9月1日(日)～11月15(金) 12月15(日) 2025年1月26(日) 3月9日(日)～3月11(火)	後援名義使用	企画普及課	ポスター・チラシの 配架
日本魚類学会	9月6日(金)	代議員総会・幹事会への出席	和田英敏	福岡工業大学
	9月7日(土)	2024年度日本魚類学会年会・優秀発表賞審査		
神奈川キノコの会	10月20日(日)	小田原子どもの森公園わんぱくらんど	折原貴道	小田原市いこいの森
湘南漁業協同組合藤沢支所・藤沢市農水産課	11月14日(木)	チョウセンハマグリ生息調査	佐藤武宏	藤沢市
日本魚類学会幹事会	2025年1月15(水)	幹事会への出席	和田英敏	オンライン
平塚市漁業協同組合・平塚市農水産課	2025年1月24(金) 1月31日(金) 3月21(金) 3月24(月)	浅海生物生息調査	佐藤武宏	平塚市

3.9. 外部研究者の受け入れ

調査研究活動に関する要項に基づき、外部研究者の受け入れを行っている。2024 年度は外来研究員 19 名を受け入れた。2024 年度の研究成果を以下に掲載する。なお、受入決定者のうち 1 名は、本人の事情により受入期間途中で研究を中止した。

大陸アジアに生息する霊長類の行動生態

[研究担当者] 吉川 翠

[研究内容]

本年度は主にアカゲザル (*Macaca mulatta*) の匂い嗅ぎ行動について分析をおこなった。嗅覚は様々な動物で探索等に重要だが、マカク属サルでは研究報告が限られている。そこでネパールで収集した野生アカゲザルのビデオデータ等をもちいて、匂い嗅ぎ行動がどういう場面で生じるか、またその頻度について分析した。その結果、匂い嗅ぎの対象物は 80% 以上が食物であった。1 時間当たりの匂い嗅ぎ行動の平均回数はオトナメスは 3.7 回、オトナオスは 2.4 回で、メスはオスに比べて頻度が高かった。他の霊長類においてもメスの方が匂い嗅ぎの頻度が高いという報告があり、その考察を踏まえて考えると本種でもメスの方が食物の腐敗等への警戒心が高く匂いをよく嗅いでいた可能性がある。さらに、他個体の匂いを嗅ぐといった社会行動は主にオスからメスに対しておこなわれていたが、1 時間当たり 0.1 回と頻度が低かった。これは調査時期が繁殖期終盤だったことが影響している可能性がある。これらについては第 40 回日本霊長類学会大会 (吉川翠, 小川秀司, Shailendra Sharma, Pavan Kumar Paudel, Laxman Khanal: ネパールのスワヤンブナート寺院における春季のアカゲザルの匂い嗅ぎ行動) で発表し、同調査地に関連する報告については第 43 回日本動物行動学会大会 (小川秀司, Pavan K. Paudel, Shailendra Sharma, Smriti Shrestha, 吉川翠, Laxman Khanal: ネパールのスワヤンブナート寺院でイヌがアカゲザルを噛み殺した事例報告) で発表した。また、11 月にはタイでアッサムモンキーの行動調査をおこない、ビデオデータ等を収集した。マカク属の匂い嗅ぎ行動をより明らかにするには、更に各個体の追跡時間を増やして調査をおこない、性別や年齢の比較や、種間の比較分析も今後おこなう必要がある。

その他、過去に遺伝分析をし、日本のスズメ目の鳥類を対象に性判定をしたので、本年度はそのデータの整理もおこなった。どの鳥の種類がどの遺伝分析法で性判定が可能かを調べる目的でおこなった研究であり、日本鳥学会 2024 年度大会 (吉川翠, 西海功: 日本産スズメ目鳥類の DNA による性判定) で発表し、その結果を紹介した。

野外で採集されたアカハライモリの死体の記録

[研究担当者] 丸野内淳介

[研究内容]

広島県東広島市の広島大学構内の菖蒲園におけるアカハライモリ死体の確認事例の中で、1999 年 4 月 1 日の事例では、アカハライモリの死体 4 個体は水路の底に散在しており、付近に確認された無脊椎動物については、アカハライモリと同一の捕食者にほぼ同時に捕食され、吐き出されたものと考えられた。

無脊椎動物の内訳は、シオヤトンボ幼虫 1 個体、コウチュウ目幼虫の欠損のある 1 個体、サワガニの欠損のある 1 個体、ヒル類 3 個体であった。

ヒルについては消化のためか、眼点が退色し、体節、体環数が不明であり、種の同定に至らなかった。

コウチュウ目幼虫は頭部と肢 2 本が欠損し、腹側が破れた状態であった。内部に内臓は確認されなかったが、糸状の気管も確認されず、脱皮殻の可能性は低いと考えられた。胸部と尾突起の形状からオサムシ科幼虫の可能性が考えられ、全形の標本と比較したい。確認された動物群の中では陸生である点でも特異的であった。

南足柄市黒白地域の足柄狩川 flow1 の K-Ar 年代 - 軽石中の斜長石による K-Ar 年代測定及び屈折率測定 -

[研究担当者] 中村俊文

[研究内容]

南足柄市黒白地域には国道 731 号線からほぼ南方向に伸びる最大 170 m の沢がある。沢の標高約 480 ~ 530 m 付近に安山岩質の火砕岩下部層が、標高約 530 ~ 590 m 付近には玄武岩質の火砕岩上部層が見られる (中村, 2023)。本沢の標高 525 付近の火砕岩中には火砕流堆積物 (足柄狩川 flow1、記号: Askr-1) が挟在する (中村, 2024)。Askr-1 は、最大層厚 150 cm、固結度が高く、多量の角張った軽石、少量・小型の火山岩片を含み、淘汰が悪く、不均質である。基質の色は、下部~中部は黄白色、中部~上部は赤紫色である。

Askr-1 中の軽石の特徴を述べる。軽石中の火山ガラスはバブルウオール型 (多孔質型: Ta92.5 %, Tb6.5 %)、火山ガラスの屈折率 (n) は 1.5159-1.5218 である。軽石中には直方輝石 (多量、黄褐色~緑色透明、多色性、長柱状、屈折率 $\gamma = 1.708-1.712$)、単斜輝石 (暗灰色~黒色、短柱状)、斜長石 (無色透明~白色、卓状~長柱状) である。

今回、足柄狩川 flow1 (記号: Askr-1) 中の軽石中の斜長石による K-Ar 年代測定、及び Askr-1 中の軽石中の斜長石の屈折率測定を行った。Askr-1 中の軽石中の斜長石による K-Ar 年代測定結果は 1.36 ± 0.27 Ma となった。この時代は、足柄層群 (畑層中部層) 堆積の時代に相当する。誤差が大きい、野外での地質調査結果と比較しても受け入れられる数値である。また、Askr-1 中の軽石中の斜長石の屈折率 (最頻値) は $n_1 = 1.567-1.568$ で、亜灰長石 (Bytownite) が多かった。

今後の取組は、次のようなことである。

①調査地域を北方に広げ、他の地域の岩石・鉱物と比較し、足柄狩川 flow1 火砕流の給源火口発見につなげたい。

②①のために採取した岩石の薄片を作成すると共に、全岩化学組成分析を行い、比較・検討する。

本研究にあたり、神奈川県立生命の星・地球博物館で岩石薄片作成や全岩化学組成分析を行うと共に、また、(株) 蒜山地質年代学研究所に斜長石による K-Ar 年代測定・屈折率測定をお願いした。博物館で、指導・助言をしていただいた山下浩之学芸員に感謝申し上げる。

近畿地方における花崗岩および岩脈類の U-Pb 年代測定と白亜紀西南日本フレアアップの素過程

[研究担当者] 中島 隆

[研究内容]

近年大規模火成活動、特に島弧 / 陸弧型のものを「フレアアップ」という用語で表現する例がしばしば見られる。これは造山運動（広域変成作用＋変形運動＋火成作用）の中の火成作用の部分の指していると理解すれば良いが、この言葉を使うことで地質学的な理解が深まることは全くない。世界的にも「フレアアップ」の概念が使われている地質体は、その空間的・時間的な規模に比べて得られている地質学的年代学的ファクトデータの密度がおしなべてかなり低く、火成活動プロセスの詳細を解明するよりもそれを大づかみなプレート造山論のヒストリーに組み込むために使われる例が多くて、その具体的な地質過程すなわちフレアアップの素過程については十分な議論がなされていない。

領家帯 / 山陽帯の花崗岩類は日本を代表する大規模火成活動である白亜紀西南日本のいわゆる「フレアアップ」の主要部をなすものであるが、近年 U-Pb 年代が多く地域で発表され、これまでに報告されていた地質学的・岩石学的情報と合わせて、世界のフレアアップの中でも比較的ファクトデータの密度が高いものになってきており、それらをもとにしたフレアアップの素過程やその時間空間的なシナリオについて具体的に議論できるようになる有力候補である。

今回、名古屋大学の研究グループと共同研究で、近畿地方高見山地域の花崗岩類とそれに伴う岩脈類のジルコンについて U-Pb 年代測定を行なった。その結果、花崗岩類は 6 岩体について 73-93Ma、岩脈類は 3 地点の 6 件について 75-82Ma の年代が得られた (Zushida et al., 2024, Island Arc; 竹内ほか 2024, 5 万分の 1 地質図幅「高見山地域の地質」説明書)。どちらについても年代値は表記範囲の中でほぼ連続的に分布しており、その中に年代的な空白域はなかった。これらの年代分布は、近畿地方領家帯の苦鉄質岩について報告された Nakajima et al. (2004, TRS, Edinburgh) や近年の東野ほか (2023, JpGU 講演要旨) による同地域および周辺の花崗岩類のジルコンの U-Pb 年代とも調和的である。これは中部地方の領家花崗岩類について報告されている 70-90Ma の年代範囲はほぼ共通ながら、中部地方で見られる 70Ma と 90Ma をそれぞれ中心とするバイモダルな年代分布 (Takatsuka et al., 2018 Lithos など) は近畿地方の領家花崗岩類には見られないことを示すものであり、火成活動の時間的・空間的移行を具体的に示す証拠である。今回の領家花崗岩類と岩脈類の年代データは、白亜紀西南日本フレアアップの具体的なシナリオを描くための重要な一歩になる。

小笠原諸島におけるヒメカタゾウムシ類の生態について

[研究担当者] 加賀玲子

[研究内容]

本研究の目的：近年、全国的に記録的な干ばつと大雨を繰り返すような過激な気候変動が生き物に与える影響が顕著になってきた。小笠原では、さらにグリーンアノール、そしてリクヒモムシなど、外来種の影響により、ヒメカタゾウムシ類は、生態も、その存在も明らかにされぬまま、絶滅する個体群が

出てきている。現在の生息状況の把握と、生態を調査・記録することにより、保全に向けての基礎的なデータとすることを目指す。

本年度の結果：本年度は 6 月上中旬に父島・兄島・母島の調査の機会を得た。調査期間の前半は干ばつで、気象庁のデータによると 5 月の父島の降雨量はわずか 14mm であり、本来乾燥には強いはずの、兄島乾性低木林のシマリスノキの葉が広範囲で黄色く変色するほどの状況であった。後半は、同じく気象庁のデータによると、6 月の降雨量は 156mm であり、滞在中も母島の長浜の沢が音を立てて流れ落ちるほどの豪雨であった。まさに過激となった気候を目の当たりにすることとなったが、このような気候変動が特に島嶼部の昆虫類へ与える影響は非常に大きい。恐らくは干ばつとグリーンアノールの生息域拡大の両方の影響から、兄島南部では、ヒメカタゾウムシの生息状況を示す葉上の食痕は昨年よりも更に激減していた。兄島北部では、ヒメツバキ林で確認できたが、個体数は少なく、干ばつにより芽吹き時期がヒメカタゾウムシの発生時期とずれてしまったことが、来年以降の発生個体数にどのように影響するか、また、兄島南部では今後個体群を維持できるのかが懸念される。母島では、個体数は少ないながら各地で確認できた。これは父島列島と母島列島の湿度の差によるところが大きいと思われる。

今後の課題：継続した個体群の動向調査が必要であり、また、かつての生息地で、ツチヒメカタゾウムシがほとんど確認できなくなった地点での、外来種（グリーンアノール、リクヒモムシ等）からの影響（特に、リクヒモムシに関してはヒメカタゾウムシ類が幼虫時、蛹時に捕食対象となるのかどうか）を、生態の解明と共に進めて行く必要がある。

日本産ハバチ類の分布および幼虫期に関する研究 (III)

[研究担当者] 加藤優羽

[研究内容]

前年度に引き続き、日本産ハバチ類の分布および幼虫期の解明に取り組んだ。4 月から 9 月にかけては、主に関東地方と北海道を中心に野外調査を行い、以降は主に標本調査と、報文の執筆活動を重点的に行った。その結果、未記載種や、都道府県レベルでの未記録種が多数確認されると共に、幼虫期の明らかとなっていなかったハバチ類約 30 種の飼育に成功し、産卵様式から終齢幼虫の形態までの観察に成功した。得られた知見の一部は既に論文にまとめ、報告済みであるが、未発表の知見もまだあるため、これらは次年度内の報告を目標に準備を進めている。年度内に報告済みの知見の一部は以下の通りである。

1. 本州で得られた標本に基づき、マダラハバチ属 *Mesoneura* の 2 新種、ニッポンマダラハバチ *M. japonica* Kato, 2024 およびトガシマダラハバチ *M. togashii* Kato, 2024 を記載した。前者については、飼育の結果コナラ *Quercus serrata* が寄主であることが分かり、幼虫期の記載も行った。両種共に、タイプ産地は神奈川県秦野市である。

2. 千葉県からは未記録、あるいは採集例の少ないハバチ類を 3 種報告した。3 種のうち、ハバチ類はワレモコウチュウレンジ *Arge suspicax* Konow, 1908 およびシリグロマルハバチ *Halidamia affinis* (Fallén, 1807) の 2 種で、後者は千葉県から初めての記録となる。

【発表論文】

・Kato, Y. 2024. Two New Species of the Genus *Mesoneura* Hartig (Hymenoptera: Tenthredinidae) from Japan. Japanese Journal of Systematic Entomology, 30 (2): 303-309.
・加藤優羽, 2024. ハチ類 3 種の千葉県からの記録. すがれおい, (6): 111-113.

タカハシショウジョウバエの関東平野における季節的な移動

[研究担当者] 新井健太

[研究内容]

タカハシショウジョウバエ (*Drosophila takahashii*) は分布が急速に北上しており、その動向に関心が持たれている。東京湾に面する神奈川県東部は、関東の中でも比較的温暖な地域であり、沿岸における本種の季節消長を明らかにする予定であった。

従来の採集方法では飲料用紙容器 (1L) にバナナを入れたトラップを、地上 1 ~ 2m 樹木の枝に紐でつるしてショウジョウバエを誘引していた。野生動物によると思われるバナナトラップへの攻撃 (鳥獣被害) は以前からあったが、研究に支障をきたす規模ではなかった。しかし、私のフィールドでは 2024 年春頃から甚大な被害が生じるようになった。本研究は特に春のデータに関心を持っていたが、出鼻をくじかれることとなった。そこで、研究目標を安定して採集することに切り替えた。試行錯誤の過程をここに記す。

【被害と対策 1】紙容器内のバナナがかき出され、または紙容器自体が引き裂かれ、バナナが無くなった。そこで、容器を破壊できないよう、材質を表面が平滑な硬質プラスチック管に変更した。また、バナナをかき出しにくいよう、トラップの入口に内径 4.5cm の L 字管を取り付けた。結果として、トラップの容器本体を破壊されることはなくなった。

【被害と対策 2】プラスチック製トラップの紐が引きちぎられ、または紐が解かれ、または枝が折られ、トラップ全体がしばしば紛失した。樹皮には爪痕が残っていた。そこで、紐を簡単には解かれないよう、片輪結びをやめ、紐を枝に二周させてから縦結びにした。また、仮想害獣としてアライグマ程度の体格の動物を想定し、これにとって足場が悪く手が届かないと想像される位置にトラップを設置するよう心がけた。結果として、トラップの紛失は減少した。ただし、トラップに汚れが付着していることはあった。

神奈川県横浜市では当初鶴見区と保土ケ谷区でサンプリングを行ったが、途中から鳥獣被害の少ない鶴見区のみになった。鶴見区ではショウジョウバエ類の採集量が 10 月頃にピークとなった。また、前述の試行錯誤により採集条件が一定ではないため判断が難しいが、初夏にもピークがあると思われる。今回のプラスチック製トラップは、正しく設置すれば鳥獣被害を回避できたが、収量が少なかった。次年度は引き続き採集方法を改良しつつ、十分なサンプル量を確保したい。

地衣類の共生系の再形成手法の改良

[研究担当者] 石原 峻

[研究内容]

本研究では、真菌類 (地衣菌) と藻類 (共生藻) からなる共生体である地衣類を用いて、その共生系を培養環境下で人工的に形成させる実験系 (地衣体

再形成手法) の改良や検証を行うことを目的としている。

これまでにゴンゲンゴケ *Hypotrachyna ossealba* の地衣体から地衣組織培養物を作製して地衣菌と共生藻を脱共生化させ、これらを植え替えて継代組織培養物 (以前は“分離培養物”と表記) とし、さらに継代組織培養物を糖無添加の Lilly-Barnett プレート培地に植え替え、明期 18 時間、暗期 6 時間の光条件の下で 3 つの生育基物条件で培養する地衣体再形成実験を行った。一部で培養物の形態の変化や UV 光照射による蛍光が見られたものの、1 年半以上が経過しても明確な地衣体再形成は確認されなかった。

前年度に継代組織培養物や再形成培養物、培養元の地衣体標本の DNA 抽出物から核 rDNA ITS 領域の PCR 増幅をおこなったが、2024 年 9 月に、これらの PCR 産物のシーケンシングを行った。得られた塩基配列はいずれも BLAST 検索でゴンゲンゴケの ITS 領域と 99% 以上の相同性を示し、これらのサンプルの同一性が確かめられた。

また、地衣体再形成実験の成否を確認するためには、再形成培養物の内部や表面の微細構造の詳細な観察が必要と考えられたため、低真空卓上 SEM (卓上顕微鏡 TM4000plus, 日立ハイテク製) を用いて、まずは継代組織培養物と天然地衣体の微細構造を比較観察した。静岡県函南町産のゴンゲンゴケ地衣体では、断面は層分化し、髓層や藻類層の菌糸が地衣成分の結晶に覆われていた。一方で、凍結乾燥した継代組織培養物では、菌塊の培養物の断面は層分化せず、菌糸が緩く錯綜したスポンジ状の構造を形成し、菌糸表面には地衣成分の結晶は見られなかった。以上から、継代組織培養物は脱地衣化したために天然地衣体とは異なる微細構造が発達していると考えられた。この観察結果について、2024 年 11 月開催の日本地衣学会第 23 回大会にて口頭発表をおこなった。

続いて、樹皮を培養基物として用いた地衣体再形成実験をおこなうため、ケヤキとスギ、サクラの樹皮付きの木材の樹皮を切り出して 2-3 cm 四方の大きさに成形し、培養を開始した。来年度は、この培養物の植え替えと観察を継続しつつ、培養性状の変化が生じた際は培養物の微細構造を観察する予定である。

富士山南面における変形菌とトビムシの相互関係

[研究担当者] 矢野倫子

[研究内容]

2024 年は、トビムシの糞や脱皮殻からの変形菌胞子発芽実験の結果を解析し、変形菌とトビムシの相互関係について考察した。

我々の研究により、トビムシは変形菌の胞子を摂食する被食散布 (endozoochory) と体表に付ける付着散布 (epizoochory) によって運搬する、相利共生関係にある可能性が示唆された。トビムシは翅を持たず、消化管を通過する時間が短いため、胞子の長距離散布には不向きであるが、土壌や枯死木に豊富に生息し、その脱皮行動は生涯続くという特徴を持っている。一方、変形菌は基物選択性があり、特に枯死木上に発生する木質変形菌 (lignicolous myxomycetes) はその特異的な発生環境を持つ。トビムシによる胞子散布は、風散布に比べて水分含有量が多い腐朽途中の枯死木の適切な環境に胞子を確実に届けるため、変形菌にとって有益であると考え

られる (Yano & Nakamori, 2025)。

さらに、トビムシは変形体 (栄養取得段階) を摂食する種と子実体 (繁殖段階) を摂食する種が異なる。変形菌の生活環の各段階を摂食、利用することが、トビムシにとって産卵や成長に有利であれば、この共生関係の解明ができる。

今後の研究では、トビムシによる変形菌の孢子散布が両者に与える影響を、さらに進んで解明することが求められる。

本研究の成果については、2024 年、European Journal of soil biology に論文を投稿した (2025 年 3 月出版)。2025 年 4 月現在も引き続き、その関連論文を執筆中である。Yano, M. & T. Nakamori, 2025. Collembola-Myxomycetes relationships: Spore feeding and coexistence on dead trees. European Journal of Soil Biology, 124:103705. <https://doi.org/10.1016/j.ejsobi.2024.103705>

神奈川県立生命の星・地球博物館に保管されている タケ亜科植物の乾燥標本から抽出できる DNA 量について

[研究担当者] 支倉千賀子

[研究内容]

近年、分子系統解析による植物の分類研究では、標本から葉片を採集して試料とすることが盛んに行われるようになったが、標本からの DNA 抽出は標本の保管状態などにも大きく左右される。DNA 量は基本的に古い標本より新しい標本からの方が多く抽出でき、断片化程度が軽減されるが、標本作製時の乾燥が急速でない場合や保存時の湿度が高かったりすると、DNA の分解、断片化が進み必ずしもこの通りではない。

実際のサンプリング試料から抽出した DNA 量 (濃度) と DNA バーコーディングに用いられる葉緑体 DNA 領域の PCR 増幅可否を調べ、本博物館の標本の DNA サンプルとしての利用の有効性について検討した。タケ亜科植物の標本 13 点 (標本作成からの年数: 約 10 ~ 20 年) の葉片サンプルから抽出した DNA について、サンプル間で DNA 濃度にばらつきが大きく、標本作成からの年数と濃度には関連は見られなかった。matK (約 800 塩基対)、rbcL (約 240 塩基対) の 2 領域が PCR 増幅されたのは 5 サンプル、rbcL のみが増幅されたのは 6 サンプルであり、2 サンプルからはいずれの領域も検出できなかった。他標本庫の結果とも比較すると、高品質の DNA が抽出できる標本の保管条件として、燻蒸処理を行っていないこと、湿度管理を行っていることが重要であると考えられた。

本年度の結果は、2024 年度の日本植物分類学会大会で富塚 (東京農業大学) ほか 8 名の共同研究として口頭発表を行った (富塚柚貴菜、支倉千賀子、横川昌史、山本 薫、田中徳久、高中健一郎、三井裕樹、池田 博「タケ亜科植物の腊葉標本の採集年と葉色が DNA 抽出可否の判断に有効か?」日本植物分類学会第 24 回大会 (高知)、2025 年 3 月 9 日)

日本産ジョウカイボン科昆虫の分類学的研究

[研究担当者] 高橋和弘

[研究内容]

現地調査を以下の通り実施した。論文については、本年度の調査結果に加えて過去の調査によって得られた資料を中心に作成し、以下のとおり投稿し、受理された。

現地調査 (いずれも令和 6 年)

5 月 7 ~ 10 日 隠岐方面

2023 年に新種として発表されたゴトバクビボソジョウカイの発生状況調査を中心に、未知の部分がある隠岐のジョウカイボン相を解明すべく調査を行った。その結果、ゴトバクビボソジョウカイを採集できたことに加えて、過去に記録が少ないいくつかの種について追加記録を得ることができた。

5 月 29 ~ 30 日 岐阜県

昨年度に実施した岐阜県のビボソジョウカイについて追加調査を行った。新たな発見は無かったが、ファウナの特徴について理解することができた。

7 月 4 日 山梨県笹山

南アルプス東部に位置する笹山で亜高山帯の調査を行った。その結果、ミズカキクビボソジョウカイの新分布を発見し報告した。

これ以外に、レッドデータ調査に協力して、丹沢山地で 4 回の調査を行い、1 新種を発見し報告した。発表論文

Takahashi, K., 2024. A New Species of the Genus *Malthodes* Kiesenwetter, 1852 (Coleoptera: Cantharidae) from the Tanzawa Mountains, Eastern Honshu, Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 30(2): 278-279.

高橋和弘, 2024. 四国におけるモリモトクロチビジョウカイの記録. さやばねニューシリーズ, (53): 5.

高橋和弘, 2024. トビラジョウカイの新産地と色彩変異について. さやばねニューシリーズ, (53): 18-19.

高橋和弘, 2024. ミズガキクビボソジョウカイの新産地. さやばねニューシリーズ, (56): 58.

未記載植物寄生菌 *Exobasidium* の同定

[研究担当者] 長尾英幸

[研究内容]

本年度は 7 種の *Exobasidium* 属菌 (もち病菌) と 1 種の *Kodyana* 属菌の採集と同定を行った。1. ヤマツツジもち病を 4 月 26 日に福岡県福岡市中央区街路植え込みで採集した (園芸品種と推定)。本菌は展開葉に寄生し肥大を起こした。培養株の遺伝子同定の結果は *E. japonicum*。2. ヒラドツツジもち病を 4 月 27 日に福岡県福岡市中央区大濠公園植え込みで採集した。本菌は展開葉に寄生し肥大を起こした。培養株の遺伝子同定の結果は *E. cylindrosporium*。3. ゲンカイツツジ (*Rhododendron mucronulatum* var. *ciliatum*) 平もち病 (新病害) を 4 月 27 日に福岡県福岡市中央区舞鶴公園で採集した。本菌は展開葉に寄生し、肥大しない円形病斑を起こした。徒手切片による病態解剖を行い、病斑部分の観察を行った。培養株の遺伝子同定の結果は *E. miyabei* で、大韓民国から記載された基準種 *R. mucronulatum* カラムラサキツツジの平もち病の報告と一致した (Sung et al. 2024)。4. ネジキに発生したネジキもち病及び平もち病を 5 月 18 日に岐阜県中津川市で採集した。両種の担子孢子等の形態観察を行ったが、培養はネジキ平もち病菌のみ成功した。5. シブカワツツジ *R. sanctum* var. *lasiogynum* 平もち病 (新病害) を 5 月 19 日に静岡県浜松市浜川親水公園で採集した。培養株の遺伝子同定の結果は *E. dubium*。6. ヒカゲツツジ *R. keiskei* もち病 (新病害) を 5 月 25 日に山梨県上

野原市坪山で採集した。培養株の遺伝子同定の結果は *Exobasidium* sp. で、同じヒカゲツツジ亜属ゲンカイツツジ平もち病菌とは異なった。7. ヤマツツジ *R. kaemferi* 平もち病(新病害)を6月8日に栃木県日光市東大植物園で採集した。培養株の遺伝子同定の結果は *Kodyana* sp. であったが、担子孢子等の形態観察等から種の同定を検討中である。

菌株保存機関への寄託及び本博物館への標本寄贈を併せて行う予定である。これらの情報を含めた論文などを投稿準備中である。採集許可を頂いた関係機関に感謝申し上げる。

神奈川県産および北関東産糸状菌類の分類学的研究

[研究担当者] 杉本 泉

[研究内容]

本研究では、神奈川県内および北関東において無性世代の糸状菌類の調査を続けることで、菌類相の一部を調べることを目的としている。

本年度は小田原市入生田で9回、横浜市内で2回、他県で9回の菌類調査をおこなった。採集標本のほとんどは観察記録のみであった。

菌類の採集・観察点数は152点、形態観察により66点が属あるいは種まで同定でき、重複を除くと46点であった。

このうち生命の星・地球博物館に収蔵した標本は、*Blistum tomentosum*, *Calcarisporium* sp., *Chloridium* sp., *Codinaea gonytrichoides*, *Didymobotryum rigidum*, *Graphilbum pleomorphum*, *Monotosporella* sp., *Spirosphaera* sp., *Sympodioclathra* sp., *Trichobotrys* sp. の10標本にとどまった。

また、本課題担当者が無性世代の糸状菌類に興味をもつきっかけとなった2015年に黒川悦子氏により富山市有峰折立で採集された *Hymenostilbe mycetophila* について、以下の共著論文が出版され、本菌に対し新属・新組合せ *Kobayasiomyces mycetophilus* が提案された。

Gen Okada, Etsuko Kurokawa, Izumi Sugimoto, Masayuki Nishida, Masahiko Miyai, Yoshiaki Kondo, Akira Hashimoto, Toshiya Iida, Moriya Ohkuma, Yousuke Degawa. (2025). A taxonomic re-evaluation of *Hymenostilbe mycetophila*, a hyperparasitic synnematosous hyphomycete on *Favolaschia nipponica*, with *Kobayasiomyces mycetophilus* gen. et comb. nov. (Leotiales). *Mycoscience* 66: 72-87. <https://doi.org/10.47371/mycosci.2024.10.007>

神奈川県 RD 種の蝶類に関する調査研究

[研究担当者] 中村進一

[研究内容]

筆者は、神奈川県内における蝶類のうち、神奈川県 RD 種(レッドデータ種)に選定されている種について、神奈川県内における寄主植物の確認など生態調査を行うとともに、生息状態の現状把握に努め、その衰亡の要因について調査してきた。これまでの研究で横浜市内における状況はほぼ把握できた(中村、2001、神奈川県虫報、(133): 1-53; 2003、神奈川県虫報、(144): 1-14)ので、現在は横浜市以外の地域を中心に調査を進めている。

なお、神奈川県内の RD 種の選定については、「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」において、中村・高桑により公表後、20年近く改訂され

てこなかったが、現在県 RD 種のリストの見直し作業(2020~2025年まで)が進捗しており、筆者がチョウ類の取りまとめ担当として活動を進めている。

本調査では、絶滅危惧度の高い I A ~ I B 類および情報不足種(ホシチャバネセセリ、スジグロチャバネセセリ、ヘリグロチャバネセセリ、ヒメシロチョウ、ムモンアカシジミ、キマダラツバメシジミ、シルビアシジミ、ホシミスジ、オオミスジ、キマダラモドキ)などの近年、生息情報がない種の記録地で現認調査を進めた。

現状での(2023-24年の)調査では、ホシチャバネセセリ、ホシミスジ(本州亜種)、オオミスジは全く発見出来なかった。スジグロチャバネセセリは県境の草地、ヘリグロチャバネセセリは県北の草地に生息していたが、2024年は未確認、ヒメシロチョウは県境の草地に僅かに残るツルフジバカマ(食草)で発生か? キマダラモドキは県境の灌木地帯の樹林内に生えるススキに依存か? など辛うじて少数や単数の確認が出来た。ムモンアカシジミは2021年に藤野町で確認をされたのみで、その後の観察報告は無い。シルビアシジミも確実に米軍基地内で発生をしていたが、2023年を最後に生息が確認できなくなった(米軍関係者の話)。その逆に毎年、調査を継続していて、確実に確認できるのが、少数ではあるがキマダラルリシジミである。

また、今回(2020年)からの RD 種調査で新たに加わった種についても報告書内で、その内容を精査する。

減少要因として明らかになったこととしては、ヒメシロチョウの生息が近年シカによる食害で食草となるツルフジバカマが激減しているとのことで、ツルフジバカマの繁茂地である県境の三国峠に出向き現状把握をした結果、目視での調査であったが三国峠南側斜面に多数自生していたツルフジバカマは、ほぼ壊滅状態で株を形成する自生は全く確認出来なかった。当然、ヒメシロチョウも何回かの調査をしたが未確認のままであったが、調査継続をした結果、2023年と2024年にヒメシロチョウを確認出来た。これは、僅かであるが、食草のツルフジバカマの僅かではあるが復活の兆候の兆しを期待する。

そして、もう1種シルビアシジミは2018年に三浦半島で確認された報告があり、今年(2019年)は報告され当地を訪れて食草のミヤコグサの状況等を調査していて、2022年までは少数ながらも生息している姿を確認出来ていたが、2023年に発生地で環境の変化があったようで、それ以降、シルビアシジミの姿が確認されていない。と聞く。

つぎに RD 種の1種クロツバメシジミの生息地が環境悪化との情報を得たので、環境改善を施したことは報告した。

そして、RD 種ではないが、本県の天然記念物であるギフチョウの生息調査を継続していて、2024年にも実施をした。個体数の減少は否めないが、確実に発生し生息を継続している。

調査時に感じたことは、食草であるカンアオイの著しい衰退で今後のギフチョウの生息に大きな影響があることは否めないなので、県文化遺産課にその懸念を訴え、当館植物担当学芸員の方のお知恵とお力添いのお願いした。

そして、前述したが、新たな RD 種候補については、調査員と討議をして対策を講じていきたいとおもっている。

日本におけるコケ植物生チャワントケ目菌の多様性調査

[研究担当者] 細野天智

[研究内容]

菌類は生態系において様々な生物と相互作用をしていることが知られている。その一つにコケ植物と関わって生きるコケ植物生菌がある。これは菌界のほとんどの門に存在するが、特に子囊菌門から多く知られ、チャワントケ目からは100種以上が報告されている。ただし、これらの種の報告は欧米が中心であり、アジアからは限られている。特に日本においては3種のみしか報告がなく、その多様性は未知である。本研究では、日本のコケ植物生チャワントケ目菌の多様性を明らかにすることを目的に調査を実施した。

今年度までに採集された日本産標本は80標本(推定 約30種、一部株分け含む)。また、本年度は神奈川県、茨城県、栃木県、長野県、京都府、奈良県、山口県、福岡県にて、25標本(推定14種)のコケ植物生チャワントケ目菌を採集および協力者から標本提供頂いた。神奈川県からはアラゲタチゴケチャワントケ *Neottiella albocincta* が初めて採集された。また、形態学的に *Lamprospora rehmi* と考えられるアジア未報告種が採集された。これらの他に日本各地から、形態学的に以下と考えられる種が採集された：*Lamprospora esterlechnerae*、*L. tuberculatella*、*L. spinulosa*、*Octospora humosa* 近縁種、*Octosporaella brevibarbata*。これらはいずれも日本未報告種となる。採集された標本については、引き続き形態同定および分子同定、宿主コケ植物の同定を実施する。

また、これまで採集されたコケ植物生チャワントケ目菌のうち、現在、*Lamprospora dicranellae* および *Neottiella ricciae* の2種について、日本新産報告論文を執筆中である。

【出版物】

升本 宙・細野天智 (2024) コケ植物生チャワントケ目菌アラゲタチゴケチャワントケの紹介。くさびら (神奈川キノコの会 会報) (46): 42-46.

細野天智 (2024) コラム：コケ植物に特化した生態を持つチャワントケの魅力。山本航平・大前宗之 (編) 栃木のきのこ新図鑑 pp. 296-297, 下野新聞社, 宇都宮市。

神奈川県における希少哺乳類の生息状況

[研究担当者] 山口喜盛

[研究内容]

丹沢山地の世附地域及び大磯丘陵の森林においてハートラップ(捕獲器)とバットディテクター(音声探知機)によるコウモリ類の確認調査を行った。世附地域において記録はなかった。大磯丘陵においては、捕獲記録はなかったが、ため池や川などでアブラコウモリとヒナコウモリ類の飛翔を確認した。箱根、小田原地域においては洞窟内調査を行い、ユビナガコウモリ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリを確認した。

予定していたスミスネズミとハタネズミの調査は実施しなかった。来年度に予定している。

神奈川県内におけるムササビの分布

[研究担当者] 青木雄司

[研究内容]

神奈川県のムササビ分布については、2006年発行の神奈川自然誌資料に「神奈川県におけるムササビの分布」として青木らによって報告された。それから15年以上経過したが、分布に変化がおきているのかを明らかにすることを本調査の目的としている。

今年度の調査については、以下の通り実施した。

- ・県西地域を中心として調査を行った(落ちていた糞の確認)。このことにより県内全域の調査が一通り終了した。
- ・分布の最前線と考えられる場所は、個体密度が低いため糞を確認することが難しいため、林内の樹木に逆さにした傘をくくりつけ落ちてくる糞を受け止めるようにした。
- ・採集した糞を乾燥させ、標本として整理した。

3.10. 名誉館員

神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館員称号授与要綱に基づき、館長として勤務した職員、学芸員として20年以上勤務し、かつ研究上特に業績のあった職員等を名誉館員に認定している。これまでに認定された「名誉館員氏名(認定年月日)」を以下に掲載する。

館長

濱田隆士 (2000年4月1日) (2011年逝去)
青木淳一 (2006年4月1日) (2022年逝去)

斎藤靖二 (2023年4月1日)
平田大二 (2023年6月1日)

学芸員

高橋秀男 (2000年4月1日) (2019年逝去)
村岡健作 (2000年4月1日)
生出智哉 (2000年4月1日) (2021年逝去)
松島義章 (2002年4月1日) (2021年逝去)
中村一恵 (2004年4月1日) (2015年逝去)
今永 勇 (2005年4月1日)
奥野花代子 (2009年4月1日)

山口佳秀 (2012年4月1日)
高桑正敏 (2012年4月1日) (2016年逝去)
新井一政 (2013年4月1日)
笠間友博 (2019年4月1日)
勝山輝男 (2019年4月1日)
広谷浩子 (2022年4月1日)
瀬能 宏 (2024年4月1日)

4. データバンク機能

博物館には、貴重な自然遺産を集積し、将来へ継承していく使命がある。ここでは、そのデータバンクとしての博物館の機能として、博物館資料の整備および利用状況をまとめた。

4.1. 資料概況

4.1.1. 収蔵資料登録実績

2025年3月31日現在の収蔵資料の登録実績は下表のとおりである。なお、開館以来年度ごとの資料実績に関しては、当館ウェブサイト年報第30号資料Ⅲ3. 統計資料に掲載した。この登録件数は、資

料番号を付したものを計数したもので、同一の資料番号に枝番を付したものは、加えて計数していない。また、登録点数は、枝番を付したのもも個別に計数した数である。

収蔵資料の登録実績

分野	2024年度の登録件数	登録件数の合計	2024年度の登録点数	登録点数の合計
【資料】〈標本〉				
維管束植物	5,847	359,999	7,910	366,160
植物群落	0	264	0	264
コケ	0	9,519	0	9,519
菌類・変形菌類	738	33,548	738	33,548
藻類	0	4,575	0	4,575
植物その他	0	1,728	0	1,730
魚類	7,270	84,922	15,539	155,804
哺乳類	9	6,536	9	6,682
鳥類	94	3,407	99	3,421
両生類	99	1,636	99	1,636
爬虫類	150	1,117	150	1,117
軟体動物	482	38,892	482	38,892
甲殻類	429	22,489	429	22,489
動物その他	4	216	4	216
昆虫	1,744	92,881	1,744	92,881
クモ	0	1,358	0	1,358
化石	447	24,068	2,453	30,436
岩石・火山灰・隕石・砂	2,175	19,227	2,197	19,661
鉱物	1	40,483	1	40,518
地質・ボーリング	1	12	1	12
はぎ取り	0	75	0	111
地学その他	11	38	11	38
衛星画像	0	1,110	0	1,110
地図類画像	441	519	449	527
小計	19,942	748,619	32,315	832,705
【資料】〈アーカイブズ〉				
維管束植物画像	53	1,402	53	1,410
魚類写真	7,190	246,056	11,493	327,536
哺乳類写真	1	400	24	1,109
鳥類写真	0	1,165	0	1,649
両生類写真	9	636	16	1,126
爬虫類写真	9	180	24	546
昆虫写真	35	2,257	35	2,260
クモ写真	0	1	0	1
衛星処理画像	0	173	0	173
景観画像	2,301	18,161	2,301	18,161
博物館活動	2,072	61,617	2,072	61,619
菌類細密画	0	498	0	679
甲殻類細密画	0	575	0	575
小計	11,670	333,121	16,018	416,844
収蔵資料合計	31,612	1,081,740	48,333	1,249,549

4.1.2. 購入資料

購入、収集委託、模型・複製品の製作、資料の修復・修理など、資料収集委員会の審議を経て執行したものを記載した。

[昆虫] 合計 155 点

世界の昆虫 105 点
世界の昆虫コレクションの展脚 50 点

[魚類] 合計 5 点

相模湾の海水魚類 5 点

[爬虫類] 合計 2 点

ウスタレカメレオン (交連骨格) 1 点
エボシカメレオン (交連骨格) 1 点

[哺乳類] 合計 2 点

キタオボッサム (本剥製) 1 点
スジイルカ (交連骨格) 1 点

[古生物] 合計 1 点

アリオラムス頭骨産状レプリカ 1 点

[衛星画像] 合計 3 点

海底地形デジタルデータ M7000 シリーズ
M7011 佐渡 (D7011S-2) 1 点
M7012 若狭湾 (D7012S-2) 1 点
M7029 大和堆 (D7029S-1) 1 点

4.1.3. 寄贈資料

寄贈を受け、2024 年度に博物館情報システムへの登録が完了した資料に関して、「資料名 件数 [寄贈者 (敬称略)]」の順に記した。寄贈者が同一の場合には、当該年度の寄贈資料をまとめ、代表する

資料名、合計件数を記した。なお、寄贈を受けたが、博物館情報システムに未登録の資料に関しては、本項には記載していない。登録件数は、標本 18,995 件、アーカイブズ 5,663 件である。

[維管束植物] 合計 5,800 件

[菌類・変形菌類] 合計 591 件

ムレオオイチョウタケ 1 件
スギ黒点枝枯病菌ほか 12 件
ハダイロガサ 1 件
チビハリタケ (新称) ほか 22 件
キワタゲテングタケ 1 件
スグリタケ類似種 1 件
チチタケ属の一種ほか 6 件
ヤナギマツタケ 1 件
ツリバリサルノコシカケほか 3 件
キヒダカラカサタケほか 2 件
スミゾメヤマイグチほか 4 件
ムラサキチャツムタケ 1 件
ツヤウチワタケ 1 件
ヤミイロクヌギタケほか 8 件
モリノカレバタケ属の一種 1 件
ヒカゲウラベニタケ属の一種 1 件
レモンチチタケ (城川仮称) 1 件
カワリハツ 1 件
ヒビワレテングタケ 1 件
ハツタケほか 3 件
ツノマタタケ属の一種ほか 3 件
シュイロヤンマタケほか 5 件
ツルボくろぼ病菌ほか 5 件
ツチダンゴ属 *Malacodermei* 節の一種ほか 5 件
ツチダンゴ属の一種ほか 7 件
セイヨウショウロ属の一種ほか 4 件
アカショウロ 1 件
セイヨウショウロ属の一種 1 件
ウスベニタマタケ 1 件
トゲシロホウライタケ 1 件
ヒステランギウム属の一種ほか 2 件
アカショウロ 1 件
ニカワアナタケほか 4 件
アカダマタケ 1 件
エンジュさび病菌 1 件
ツヅレシロツチダンゴ複合種群の一種ほか 10 件
コナカブリテングタケ 1 件
アラゲタチゴケチャワンタケ 1 件
ユキラッパタケ 1 件

キイロウラベニガサ 1 件
ヒジリタケ 1 件
ホウキタケ属の一種ほか 7 件
ツバキキンカクチャワンタケ 1 件
アンズタケ 1 件
ベニアワツブタケ属の一種ほか 3 件
ツエタケ属の一種 1 件
ツチダンゴ属 *Malacodermei* 節の一種ほか 21 件
トラメツチダンゴ 1 件
ツチダンゴ属 *Malacodermei* 節の一種ほか 2 件
セミノハリセンボンほか 2 件
ニセアセタケ 1 件
シロツブタケ (広義) ほか 2 件
ウロイボセイヨウショウロ 1 件
エゾハナヤスリタケ 1 件
ウスベニタマタケ 1 件
ミヤマベニイグチほか 3 件
ツルボくろぼ病菌 1 件
モリノフジイロタケ類似種ほか 2 件
オサムシタケ 1 件
ツチダンゴ属の一種 1 件
ツチダンゴ属の一種 1 件
ベニタケ属の一種 1 件
マツオウジほか 3 件
ヤマドリタケ属の一種 1 件
ハルノベニチャタケ (青木仮称) 1 件
ニカワオシロイタケ属の一種 1 件
チャツムタケ属の一種ほか 17 件
キヒダタケ 1 件
レモンチチタケ (城川仮称) 1 件
アオキオチバタケ 1 件
クロハナビラニカワタケ 1 件
ノウタケほか 4 件
アルボヴァ属の一種 1 件
アイバクロハツ 1 件
クチキノサカズキタケほか 3 件
テッポウムシタケほか 2 件
タマバリタケほか 2 件
ハクマクシスチジアタケほか 3 件
キイロショウロ 1 件
コゲイロハツタケ類似種 1 件
ダイダイサラゴケ 1 件

キシメジ類似種 1件
 ススキ類さび病菌ほか 57件
 スルメタケほか 5件
 ススケアシボソチチタケ（青木仮称）ほか 2件
 カワムラフウセンタケ 1件
 キリントケ類似種 1件
 マダラホウライタケ 1件
 シラタマタケ 1件
 チャセイヨウショウロ 1件
 ヒヒロベニヒダタケ 1件
 ハチノスタケほか 2件
 ベニチャワソタケモドキ 1件
 ロイコガステル属の一種ほか 3件
 アザミ類のさび病菌 1件
 アオゾメクロツブタケ 1件
 フウセンタケ属の一種ほか 3件
 コイシタケ類似種 1件
 アシボソホシミノタマタケほか 21件
 ホシミノタマタケ属パールカイ亜属の一種ほか 2件
 マユハキタケほか 3件
 アミヒカリタケ 1件
 ウスベニタマタケ 1件
 チャチヂミタケ（青木仮称）ほか 3件
 ショウロ属の一種 1件
 アカヤマドリほか 15件
 ムササビタケ 1件
 アケビタケほか 2件
 ヒポミケス属の一種ほか 2件
 チビハリタケ類似種 1件
 アシナガイタチタケ 1件
 アカキツネガサ 1件
 ヌメリタンポタケほか 2件
 ヌメリタンポタケ 1件
 キッコウアワタケ 1件
 ツブレシロツチダンゴ類似種 1件
 マダラホウライタケ 1件
 ハコネイボゴケほか 3件
 ダイダイサラゴケ 1件
 ヒメツチグリ属の一種 1件
 ヒメツチグリ属の一種 1件
 ネズミツチダマタケほか 4件
 ウラムラサキシメジ 1件
 ステファノスポラ属の一種 1件
 ウラムラサキシメジ類似種 1件
 ヌメリホウライタケ（青木仮称）ほか 5件
 ニクアツベニサラタケ 1件
 ヒカゲオチエダタケ 1件
 クヌギタケ属の一種ほか 3件
 ツヤウチワタケモドキほか 12件
 スギカワタケ 1件
 ヒロヒダタケ 1件
 ツヤウチワタケモドキ類似種ほか 2件
 セイヨウショウロ属の一種ほか 4件
 イタコブタケ 1件
 アズキクサウラ（城川仮称） 1件
 ツチグリほか 14件
 シロシバフタケ（青木仮称）ほか 3件
 スギエダタケほか 6件
 ミナミコメバタケ類似種 1件
 クロサイワイタケ属の一種 1件
 レモンチチタケ（城川仮称） 1件
 ツブホコリタケ類似種ほか 4件
 アイコウヤクタケ 1件
 ヤドリツブチャワソタケ 1件
 アオキバニセキンカクビョウタケ 1件
 ヒロハアマタケ 1件
 チャシワウロコタケほか 76件
 ツマミタケほか 5件
 ビョウタケ属の一種 1件
 フデタケ 1件
 エリマキツチグリほか 7件
 ヤミイロクヌギタケ 1件

ツヤウチワタケモドキ 1件
Lanmaoa sp. 1件
Kramabeeja sp. ほか 2件
Hypomyces rosellus (Alb. & Schwein.) Tul. & C. Tul. ほか 2件
Inocybe monticola Kropp ほか 5件
Inocybe xantholeuca Kuyper 1件
Inocybe pelargonium Kuhner 1件
Sphaerocreas pubescens Sacc. & Ellis 1件
Volutella sp. 1件
Hymenostilbe mycetophila Kobayasi ほか 5件
Loweomyces fractipes (Berk. & M.A. Curtis) Julich 1件
Inocybe pelargonium Kuhner 1件
Blistum tomentosum (Schrad.) B. Sutton 1件
Inocybe fibrosa (Sowerby) Gillet ほか 2件
Cladobotryum arthrobotryoides Poldmaa ほか 6件
Hypomyces pseudocorticicola Tokiwa & Okuda 1件
Monotosporella sp. ほか 7件
Diversispora epigaea (B.A. Daniels & Trappe) C. Walker & A. Schussler ほか 3件
Eosphaeria uliginosa (Fr.) Hoehn. 1件
Godronia sp. 1件
Pterygomyces actinofilum Ri & Degawa ほか 2件
Hypomyces cervinus Tul. & C. Tul. 1件

〔魚類〕 合計 7,235 件

ハゼ科未同定属未同定種ほか 21件 〔いであ株式会社〕
 ソトイワシ 1件 〔さかなクン（宮澤正之）〕
 フチドリカワハギほか 4件 〔安房田智司〕
 タイワンアイノコイワシほか 1,136件 〔井田 齊〕
 トミヨほか 30件 〔益田 一（益田海洋プロダクション）〕
 ヒモウシノシタ 1件 〔園山貴之（新江ノ島水族館）〕
 カスリイシモチほか 5件 〔塩崎 漣〕
 ニジアマダイほか 2件 〔岡部 久〕
 テングギンザメほか 27件 〔下光利明〕
 クレナイフサカサゴほか 95件 〔加藤 晃〕
 タテジマヤッコほか 22件 〔加藤 晃・棟方航平〕
 ベニスズキ 1件 〔河本篤哉〕
 タネハゼほか 25件 〔株式会社日水コン（加藤授人）〕
 ミナミウツボ 1件 〔釜井涼太〕
 ヒラスズキ 1件 〔宮崎祐介〕
 チョウチョウウオ属未同定種ほか 10件 〔橋本 浩（東京都島しょ農林水産総合センター 八丈事業所）〕
 キシュウダルマガレイほか 10件 〔饗場空離〕
 オオガタスジシマドジョウ 1件 〔向井貴彦〕
 カンテントカゲギス属未同定種 1件 〔江森正典〕
 ミノアンコウ 1件 〔荒川 稔〕
 オイカワほか 69件 〔荒尾一樹〕
 ミナミメダカ（飼育品種） 1件 〔高橋由季〕
 ナミダフグ 1件 〔佐々木麻衣〕
 ソトイワシ 1件 〔佐々木廣海〕
 イトヒラアジ 1件 〔佐藤 俊〕
 ブラウントラウト×カワマスほか 5件 〔佐藤正人〕
 ツマグロ 1件 〔崎山直人・加登岡大希〕
 ナミダカサゴ 1件 〔崎山直夫（新・江ノ島水族館）〕
 タカサゴほか 133件 〔桜井 雄〕
 テリエビスほか 26件 〔三井翔太〕
 トサヒメコダイほか 10件 〔三井翔太・前田達郎〕
 タカハダカほか 3件 〔三浦寛子〕
 フサンコウ科未同定属未同定種 1件 〔三木誠也（ダイビングサービスサンマリン）〕
 ヒメクロコバンハゼほか 15件 〔山下龍之丞〕
 チゴダラほか 12件 〔山崎哲也〕
 タナゴモドキほか 31件 〔山川宇宙〕
 コイ×フナほか 2件 〔市川 満〕
 ミナミヒメミズハゼほか 2件 〔鹿谷法一〕
 ウグイほか 99件 〔手良村知功〕
 タウナギほか 150件 〔緒方悠輝也〕
 アベゲンゲほか 26件 〔小田原市郷土文化館〕
 ロウニンアジほか 4件 〔小林健二〕

フタスジコバンハゼほか 24 件 [小路川卓征]
 ホウライヒメジほか 2 件 [小路川卓征・門田高太]
 ツチフキほか 4 件 [小和田侑希]
 ニザダイ科未同定属未同定種ほか 12 件 [松山侑樹]
 カサゴ 1 件 [松山侑樹・西川志朗]
 ニゴロブナほか 5 件 [松田好樹・松田悠樹]
 ホソミアゴアマダイ 1 件 [松本有記雄・成田謙介]
 ホウボウ 1 件 [上林明人]
 ダイナンギンボほか 211 件 [新江ノ島水族館]
 オシヤレコショウダイ 1 件 [新江ノ島水族館 (崎山直夫)]
 ホムラトラギスほか 2 件 [深谷真央]
 ダイナンウミヘビほか 204 件 [神奈川県水産技術センター]
 ハワイマトイシモチ 1 件 [杉山 凜]
 ヒルギメナダほか 7 件 [瀬能 宏・鈴木寿之]
 クロマスク近似種ほか 5 件 [生物学研究所]
 タカクラタツほか 136 件 [西川志朗]
 カツオほか 47 件 [西川志朗・松山侑樹]
 タマハダカほか 5 件 [西村明日翔]
 ハゲイワシほか 16 件 [西野勇馬]
 ナンセンハゼほか 40 件 [斉藤洪成]
 ツバクロエイ 1 件 [赤池貴大]
 ナガブナほか 3 件 [浅野亮嗣]
 タカクラタツほか 290 件 [前田達郎]
 エゾホトケドジョウほか 857 件 [相澤裕幸]
 ツマリツノザメほか 9 件 [草野洋佑 (小田原市漁業協同組合)]
 アカグツほか 1,469 件 [村瀬敦宣]
 キンギョ 1 件 [村崎謙太]
 ナンセンハゼほか 12 件 [大森春樹]
 モンツキベラ 1 件 [大西 遼 (via. 三井翔太)]
 タビラ 1 件 [中央水産研究所上田支所]
 テンジクガレイほか 6 件 [中島田正希]
 ガマアンコウ科未同定属未同定種 1 件 [椎名雅人]
 ポエシロプセッタ・コロラータほか 5 件 [田川隼大 (蒲郡漁協形原支所)]
 カンパチ×ブリほか 67 件 [棟方航平]
 ツキヒハナダイほか 11 件 [棟方航平・加藤 晃]
 アカメモドキ 1 件 [湯野川 恭]
 ドクウロコイボダイほか 11 件 [藤原昌高]
 グッピーほか 103 件 [藤本治彦]
 キビレハタンボ 1 件 [徳吉美国・松山侑樹]
 ムサシトミヨほか 5 件 [徳島県立博物館 (井藤大樹)]
 アザハタ 1 件 [内藤淳一郎 (クイーンズマートヤオマサ・仲買)]
 クロヨシノボリほか 26 件 [日本魚類学会自然保護委員会]
 タチウオほか 34 件 [如月 迅]
 タヌキベラほか 88 件 [八木拓郎]
 オニダルマオコゼ 1 件 [飯田大成]
 ウチワハゼほか 966 件 [尾山大知]
 クロコバンほか 2 件 [尾川泰将]
 ツマリドングリハダカほか 3 件 [武井優之介]
 タイワンメナダほか 16 件 [福地伊芙映]
 イワツキクロダイ 1 件 [福地伊芙映・高嶺太一]
 アカヒレタビラほか 2 件 [北村淳一]
 タマガンゾウビラメほか 37 件 [本田康介]
 ウグイスヘビギンボほか 422 件 [末松知宙]
 アサバホラアナゴ亜科未同定属未同定種ほか 4 件 [木村伸吾]
 アオミシマほか 2 件 [野村智之]
 ドウクツミミズハゼ 1 件 [柳 丈陽]
 ナメラヤッコほか 6 件 [友野政秀]
 ミツユビホウネンエソ 1 件 [藍澤正宏]
 シモフリカエルアマダイ 1 件 [鈴木寿之]
 コケギンボほか 52 件 [高瀬 歩]

[哺乳類] 合計 3 件

ハンドウイルカほか 2 件
 ミミセンザンコウ 1 件

[鳥類] 合計 87 件

ヒメシロハラミズナギドリ 1 件
 クイナ 1 件
 アオゲラほか 2 件
 ダイサギほか 5 件
 メジロ 1 件
 トラツグミほか 2 件
 オオバン 1 件
 ツグミほか 41 件
 カワウほか 21 件
 ルリコンゴウインコ 1 件
 ミサゴ 1 件
 ハシブトウミガラスほか 4 件
 スズメほか 3 件
 コサメビタキ 1 件
 コジュケイ 1 件
 マメルリハシインコ 1 件

[両生類] 合計 87 件

モリアオガエルほか 3 件
 トウキョウダルマガエルほか 56 件
 オオヒキガエルほか 9 件
 アフリカツメガエル 1 件
 バジレット・フロッグほか 3 件
 チョウセンズグガエルほか 12 件
 アカハライモリほか 3 件

[爬虫類] 合計 147 件

クサガメ 1 件
 ヒロオウミヘビほか 2 件
 ツシマスベトカゲほか 2 件
 シロマダラ 1 件
 アカウミガメほか 4 件
 ミシシippia アカミミガメ 1 件
 オキナワキノボリトカゲ 1 件
 インドホンガメ 1 件
 カミツキガメ 1 件
 エラブウミヘビ 1 件
 スウィンホーキノボリトカゲほか 4 件
 アカミミガメほか 59 件
 セマルハコガメほか 69 件

[軟体動物] 合計 482 件

Solariella 属の一種ほか 2 件
 ハズレシタダミほか 7 件
Rhinocoryne humboldti (Valenciennes, 1832) ほか 2 件
 トウガタシタダミほか 4 件
Lirularia succincta (Carpenter, 1864) ほか 11 件
 コオニノツノガイほか 12 件
 コオニノツノガイほか 9 件
 タケノコカニモリほか 2 件
Cerithium vulgatum Bruguiere, 1792 ほか 13 件
 スジマキエビスほか 6 件
Cerithium litteratum (Born, 1778) ほか 25 件
 トウガタカニモリほか 5 件
Batillaria australis (Quoy & Gaimard, 1834) ほか 2 件
 クロヘナタリほか 14 件
 キバウミニナほか 5 件
Cerithium 属の一種ほか 3 件
Cerithium radix Dufo, 1840 ほか 3 件
Cerithium vulgatum Bruguiere, 1792 ほか 17 件
 ヨコワカニモリほか 2 件
 ナガタケノコカニモリほか 2 件
Solariella lacunella (Dall, 1881) 1 件
 ナガタケノコカニモリほか 2 件
 コベルトカニモリほか 3 件
 オニノツノガイほか 11 件
 ヒオウギガイほか 6 件
 スダレガイほか 2 件
 フネアマガイほか 3 件

フネアマガイほか 3件
 フネアマガイほか 3件
 フネアマガイほか 2件
 ホソウミニナ〔要検討種〕ほか 7件
 コオニノツノガイほか 11件
 ナガタケノコカニモリ 1件
 カザリカニモリほか 3件
 マクガイ 1件
 フネアマガイほか 4件
 マクガイ 1件
 ホウシュエビスほか 2件
 イゼキトゲニナほか 5件
 オニノツノガイ 1件
 カトウシタダミほか 4件
 ゴマフカニモリほか 4件
 コビトカタベ 1件
Euchelus 属の一種ほか 2件
 コベルトカニモリほか 3件
 エゾシタダミ 1件
 ウミキセルほか 2件
 ヘビカワカニモリほか 11件
 イボウミニナ 1件
Stomatella 属の一種ほか 16件
Cerithidea obtusa (Lamarck, 1822) 1件
Margarites koreanicus (Dall, 1919) ほか 2件
 シマヘナタリほか 4件
Cerithideopsis pliculosa (Menke, 1829) ほか 18件
 ヒメカニモリほか 8件
Cerithium adustum Kiener, 1841 ほか 4件
 コオニノツノガイほか 3件
 サンショウガイモドキほか 6件
 カワアイほか 8件
 メオニノツノガイほか 3件
 ナガタケノコカニモリほか 4件
 カニモリガイほか 7件
 ホソコオロギほか 8件
 クロサンショウガイモドキほか 9件
 ナガタケノコカニモリほか 13件
Tibatrochus husaensis Nomura, 1940 ほか 2件
 カバサンショウガイモドキほか 119件

[甲殻類] 合計 428 件

マダライシガニ 1件
 ナンヨウスナガニほか 18件
 サガミツノクリガニほか 2件
 マメアカイソガニ 1件
 マメアカイソガニほか 4件
 マガタマテナガエビほか 2件
 ヒメヒラツメガニほか 8件
 ハリツノガニほか 4件
 ミミズクガニほか 2件
 ツノダシヒシガニ 1件
 ナナトゲコブシ 1件
 オガサワラヌマエビほか 3件
 マメアカイソガニ 1件
 イソクズガニ 1件
 コツノキンセンモドキ 1件
 ムツアシガニほか 3件
 マメアカイソガニほか 2件
 ウシエビ (ブラックタイガー) 1件
 マメアカイソガニほか 2件
 カワテッポウエビ〔野村 (1996) による仮称〕ほか 2件
 ミミズクガニ 1件
 ヒメツバサコブシほか 8件
 ナガジュウイチトゲコブシほか 21件
 サツマイシガニ 1件
 ハリツノガニほか 3件
 トガリマダライシガニ 1件
 ハリツノガニほか 61件
 トウヨウイシガニ 1件
 ムロトホモラ 1件

ヘキガントゲアシガニ 1件
 ゼブラガニ 1件
 ヒメアカイソガニほか 3件
 ツノダシヒシガニ 1件
 ナナトゲコブシ 1件
 インドカルイシガニほか 5件
 ヒメアカイソガニ 1件
 コモンガニほか 2件
 メンコヒシガニほか 3件
 インドカルイシガニ 1件
 ホンコンクロオビヌマエビ (“レッドビーシュリンプ”) ほか 2件
 シナヌマエビほか 3件
 マダライシガニほか 4件
 ノウイチョウガニほか 31件
 コツノキンセンモドキ 1件
 ミミズクガニ 1件
 ホシハダヒシガニ 1件
 アンボイナイシガニ 1件
 アミメキンセンガニほか 4件
 サワガニほか 203件

[動物その他] 合計 4 件

スクナビルほか 3件
 アカサング・シロサング 1件

[昆虫] 合計 1,620 件

アオイトトンボほか 1,552件
 ナツアカネほか 3件
 マルタンヤンマ 1件
 アオモンイトトンボ 1件
 ベニイトトンボほか 2件
 タカネトンボほか 2件
 ダビドサナエほか 7件
 クロイトトンボほか 39件
 ハネビロエゾトンボ 1件
 タカネトンボほか 4件
 コノシメトンボ 1件
 タカネトンボ 1件
 オオハラビロトンボほか 2件
 アカスジベッコウトンボ 1件
 コフキヒメイトトンボ 1件
 カオジロトンボほか 2件

[化石] 合計 345 件

パラサウロロフス下顎 1件
 アデヤカヒメカノコアサリほか 340件
 トラ 1件
 チュウシンシデ (カバノキ科) 果萼 1件
 モロッコ産オルソセラス類の一種ほか 2件

[岩石・火山灰・隕石・砂] 合計 2,127 件

神奈川県小田原市本町三丁目の砂 1件
 大分県別府市内竈の砂ほか 2件
 高知県香南市夜須町手結の砂ほか 665件
 山梨県南都留郡道志村の砂ほか 2件
 兵庫県洲本市五色町広石下の砂 1件
 神奈川県平塚市高浜台の砂 1件
 石英岩ほか 1,428件
 山口県光市光井一丁目の砂 1件
 高知県安芸郡芸西町の砂ほか 7件
 静岡県沼津市戸田の砂ほか 5件
 山形県飽海郡遊佐町菅里の砂ほか 2件
 山形県鶴岡市湯野浜一丁目の砂ほか 11件
 千葉県船橋市潮見町の砂 1件

[地図類画像] 合計 39 件

真鶴町都市計画基本図 No. 7 ほか 27件
 日本列島鳥瞰図ほか 8件
 北アルプス南部ほか 3件
 350 万分 1 環日本海諸国図 1件

〔維管束植物画像〕 合計 32 件

イワボタンほか 5 件
エンシュウムヨウランほか 4 件
シモバシラほか 4 件
ニッコウキスゲ 1 件
マイサギソウほか 2 件
ハマアザミ 1 件
トウテイランほか 5 件
ウエマツソウほか 2 件
ウエマツソウほか 2 件
キスミレほか 2 件
ミヤマウズラ 1 件
トウテイランほか 3 件

〔魚類写真〕 合計 5,580 件

アズマハナダイ 1 件 [阿久津駿斗]
ホオジロザメほか 2 件 [伊藤和弘]
オオクチケカツオ 1 件 [井上 純]
ソコエソ 1 件 [井本征良]
サザナミダイ 1 件 [磯田一成]
ダイナンウミヘビ 1 件 [一井雄太]
ハナイシモチ 1 件 [稲生 聡]
ホオジロザメ 1 件 [荻本啓介]
トゲボウズギス属未同定種ほか 2 件 [加山藍子]
シマアオダイ 1 件 [加藤 晃]
ソウシハギほか 182 件 [河野光久]
タニヨウジ 1 件 [花井元哉]
ギンメダイ属未同定種 1 件 [館澤采良]
タニヨウジ 1 件 [岸田岳大・国松翔太]
マダラハゼ 1 件 [岩本俊紀]
チゴベニハゼほか 49 件 [吉田 栄]
ナグユメタチモドキ 1 件 [久志本鉄平]
オオウナギ 1 件 [久保田暁文]
クチサケハゼほか 201 件 [熊澤伸宏]
オオクチシナギ 1 件 [古橋 大]
ジンベエザメ 1 件 [江崎定置網乗組員]
ミノアンコウ 1 件 [荒川 稔]
アンピンボラ B 型 1 件 [佐伯智史]
キツネフエフキほか 167 件 [坂本幸博]
アラメソトイワシ 1 件 [三井翔太]
イエロークラウンド・バタフライフィッシュ 1 件 [三浦 陽]
オオモンカエルアンコウ 1 件 [三浦寛子]
ガンゾウビラメ属未同定種 1 件 [三宮重徳]
イチモンジミミズハゼほか 7 件 [山下龍之丞]
ネズミゴチほか 4 件 [山口明男]
オオウナギほか 2 件 [山崎哲也]
コイ 1 件 [志戸岡利充]
ツバメウオほか 6 件 [寺田雄祐]
カマストガリザメ 1 件 [柴坂 綾]
タウナギほか 56 件 [緒方悠輝也]
ボウズハゼほか 8 件 [小原直人]
ヒノマルテンスほか 2 件 [小谷明日香]
ヒメニラミベニハゼほか 4 件 [小野 均]
メアジ 1 件 [松山侑樹]
シノノメサカタザメ 1 件 [松田勇成]
キツネメネジリンボウほか 4 件 [森山 敦]
シギウナギ 1 件 [進藤太一]
タビラほか 8 件 [瀬能 宏]
チワラスボ属未同定種 1 件 [勢登章司]
ナンヨウハギほか 11 件 [成田謙介]
ナンヨウハギ 1 件 [成田早弥]
ベニカワムキ 1 件 [西村明日翔]
ニホンウナギ 1 件 [石田健太]
ワキグロアカフエダイ 1 件 [赤松佳樹]
ヒョウモンオトメエイ 1 件 [川崎義成]
ナンヨウハギほか 3 件 [川端幸雄]
ホシミゾイサキ 1 件 [川島一樹]
ソウシハギほか 238 件 [前田達郎]
オキメダイほか 2 件 [草野洋佑 (小田原市漁業協同組合)]
ドジョウほか 25 件 [村瀬敦宣]

キンギョ 1 件 [村崎謙太]
アカメほか 2 件 [大衛亮正]
オキヒメカジカほか 4 件 [大田寿行]
マダイ 1 件 [大林和也]
バブルフィン・ラス 1 件 [池田亜子]
アマミホシゾラフグ 1 件 [中村秀一郎]
タイリクバラタナゴほか 13 件 [中谷憲保]
フトツノザメほか 3 件 [辻奈々子 (高瀬 歩氏経由)]
ソラスズメダイ 1 件 [鶴巻隆佳]
サザナミフグ 1 件 [天野千絵]
ナンエツオヤニラミ 1 件 [田口智也]
トラギスほか 3 件 [渡邊太郎]
オガサワラカサゴほか 2 件 [土屋 誠]
ナンヨウハギほか 5 件 [棟方航平]
アイナメ属未同定種ほか 3,191 件 [内野啓道]
カンムリベラほか 1,028 件 [内野美穂]
オオモンハタ 1 件 [南部智秀]
クロイシモチ 1 件 [南野正博]
タチウオほか 31 件 [如月 迅]
キシマハナダイほか 2 件 [任 賢治]
チカメダルマガレイほか 11 件 [八木拓郎]
ニライカサゴ 1 件 [尾浦信勝 (高瀬 歩氏経由)]
キシマイシヨウジほか 164 件 [尾山大知]
ミゾレフグ 1 件 [武井優之介]
テングカワハギほか 3 件 [福井瑠瑅]
アンピンボラ B 型 1 件 [福地伊芙映]
オオメアゴアマダイほか 2 件 [福本寛人]
サクラダイ 1 件 [平山蒼惟]
トゲボウズギス属未同定種 1 件 [峯水 亮]
シマヒメヤマノカミほか 3 件 [望月 淳]
リュウキュウイタチウオ 1 件 [北島千恵 (via. 白川直樹)]
クロマスキ近似種 1 件 [末松知宙]
アベゲンゲほか 24 件 [野村智之]
マダラホシハゼほか 4 件 [有馬啓人]
クロキンチャクダイ 1 件 [藍澤正宏]
アズマハナダイ 1 件 [鈴木 響]
ベラギンボ属の 1 種 1 1 件 [鈴木美智代]
ツキノワメイチダイほか 19 件 [和田英敏]
ササノハゴチほか 4 件 [濱口崇寛]
キアンコウ 1 件 [眞田樹也]
ソウシカエルアンコウほか 2 件 [船戸勝典]
コマハゼほか 23 件 [高瀬 歩]

〔両生類写真〕 合計 7 件

アカハライモリほか 4 件
ヌマガエル 1 件
アズマヒキガエル 1 件
モリアオガエル 1 件

〔爬虫類写真〕 合計 9 件

アオウミガメ 1 件
アカウミガメほか 5 件
シロマダラ 1 件
シロマダラ 1 件
フロリダスッポン 1 件

〔昆虫写真〕 合計 35 件

マルタンヤンマ 1 件
コフキトンボ 1 件
マユタテアカネほか 32 件
ヨツボシトンボ 1 件

4.1.4. 職員採集その他による資料（新たに登録されたもの）

標本収蔵資料の登録実績

分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数
維管束植物	46	魚類	35	甲殻類	1	鉱物	1
植物群落	0	哺乳類	6	動物その他	0	地質・ボーリング	1
コケ	0	鳥類	9	昆虫	125	はぎ取り	0
菌類・変形菌類	159	両生類	12	クモ	0	地学その他	11
藻類	0	爬虫類	3	化石	102	衛星画像	0
植物その他	0	軟体動物	0	岩石・火山灰・隕石・砂	70	地図類画像	480
合計							1,061

アーカイブズ収蔵資料の登録実績

分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数	分 野	登録件数
維管束植物画像	18	両生類写真	2	衛星処理画像	0	甲殻類細密画	0
魚類写真	1,605	爬虫類写真	0	景観画像	2,301		
哺乳類写真	1	昆虫写真	0	博物館活動	2,072		
鳥類写真	0	クモ写真	0	菌類細密画	0		
合計							5,999

4.2. 図書資料収集状況

今年度受け入れした和書の冊数は、購入が83冊、寄贈が1,073冊、編入が2冊、管理換が0冊であった。洋書については、購入が0冊、寄贈が95冊であった。受入図書の合計は1,253冊である。

2024年度受入図書（冊数）

	購入	寄贈	編入	管理換	合計
和書	83	1,073	2	0	1,158
洋書	0	95	0	0	95
合計	83	1,168	2	0	1,253

2025年3月31日現在の所蔵資料総数

分 野	登録数	分 野	登録数
国内刊行図書	35,839 (冊)	寄贈国外雑誌	715 (タイトル)
国外刊行図書	5,086 (冊)	ビデオソフト	332 (巻)
購入国内雑誌	14 (タイトル)	CD-ROM	77 (タイトル)
購入国外雑誌	2 (タイトル)	マイクロフィルム	34 (リール)
寄贈国内雑誌	3,444 (タイトル)		
合計		45,543	(点)

4.3. 資料利用状況

4.3.1. 研究目的の利用

博物館資料について、特に学術上の研究のため利用する場合、「資料の特別利用」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、

承認を受けることで、博物館資料を閲覧、計測、撮影、掲載などに利用することが可能である。2024年度について、特別利用の利用数は次のとおりである。

分野別の利用件数

利用			閲覧			撮影			解析			その他			合計		
			人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数
動物	哺乳類	標本				10	185	208							10	185	208
		画像															
		属性															
		小計				10	185	208							10	185	208
	鳥類	標本															
		画像															
		属性															
		小計															
	両生類 爬虫類	標本							8	64	73				8	64	73
		画像															
		属性															
		小計							8	64	73				8	64	73
	魚類	標本							136	10,322	12,992				136	10,322	12,992
		画像															
		属性							1	11,160	22,263				1	11,160	22,263
		小計							137	21,482	35,255				137	21,482	35,255
	昆虫	標本							19	3,194	3,194				19	3,194	3,194
		画像															
		属性															
		小計							19	3,194	3,194				19	3,194	3,194
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本				1	8	8	11	31	104				12	39	112
		画像							1	703	703				1	703	703
		属性															
		小計				1	8	8	12	734	807				13	742	815
植物	標本	71	71	71										71	71	71	
	画像				1	1	1							1	1	1	
	属性																
	小計	71	71	71	1	1	1							72	72	72	
菌類	標本							1	1	4	1	3	3	2	4	7	
	画像																
	属性																
	小計							1	1	4	1	3	3	2	4	7	
古生物	標本				1	1	4	1	3	3	1	8	8	3	12	15	
	画像																
	属性																
	小計				1	1	4	1	3	3	1	8	8	3	12	15	
地球環境	標本										1	8	8				
	画像				1	1	1							1	1	1	
	属性																
	小計				1	1	1							1	1	1	
景観画像	画像																
	属性																
	小計																
博物館	画像																
	属性																
	小計																
合計			71	71	71	14	196	222	178	25,478	39,336	2	11	11	265	25,756	39,640

利用について通常の閲覧利用は「閲覧」とし、特に撮影を伴うものを「撮影」、データ解析を目的とするものを「解析」、「その他」には、学術発表利用（学会等発表、論文発表での画像掲載等）を含めた。

標本：実物標本、レプリカ等；画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像；属性：標本情報

4.3.2. 研究目的以外の利用

博物館資料について、資料を借用し普及・教育などに利用する場合、「資料の館外貸出し」の制度にて資料利用を可能にしている。館外貸出承認申請書を提出し、承認を受けることで、博物館資料を借用

し、展示、教材利用、掲載・放映などに利用することができる。2024年度について、研究目的以外の利用数は次のとおりである。

分野別の利用件数

種別	利用	展示			教材			掲載・放映			その他			合計		
		人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数	人数	件数	点数
動物	哺乳類	標本	4	15	16	8	52	82	3	9	9			15	76	107
		画像														
		属性														
		小計	4	15	16	8	52	82	3	9	9			15	76	107
	鳥類	標本	1	3	3									1	3	3
		画像														
		属性														
		小計	1	3	3									1	3	3
	両生類 爬虫類	標本														
		画像														
		属性														
		小計														
	魚類	標本	1	2	2				1	10	10			2	12	12
		画像	37	610	972	2	23	58	2	270	362	1	239,421	316,872	42	240,324
		属性							2	542,135	619,586	2	542,135	619,586	2	542,135
		小計	38	612	974	2	23	58	3	280	372	3	781,556	936,458	46	782,471
	昆虫	標本							1	1	132			1	1	132
		画像														
		属性														
		小計							1	1	132			1	1	132
	軟体動物 甲殻類 その他動物	標本														
		画像														
		属性														
		小計														
植物	標本	1	2	2										1	2	2
	画像															
	属性															
	小計	1	2	2										1	2	2
菌類	標本															
	画像	1	7	7				1	7	7				2	14	14
	属性															
	小計	1	7	7				1	7	7				2	14	14
古生物	標本	6	67	131	1	6	6	3	38	38	1	1	1	11	112	176
	画像	2	2	2				2	2	2				4	4	4
	属性															
	小計	8	69	133	1	6	6	5	40	40	1	1	1	15	116	180
地球環境	標本	11	63	111	2	7	8							13	70	119
	画像	3	4	4	6	12	12	8	9	9				17	25	25
	属性															
	小計	14	67	115	8	19	20	8	9	9				30	95	144
景観画像	画像															
	属性															
	小計															
博物館	画像															
	属性															
	小計															
合計		67	775	1,250	19	100	166	21	346	569	4	781,557	936,459	111	782,778	938,444

標本：実物標本等；画像：フィルム・プリントなどの画像、デジタルカメラやスキャン等によるデジタル画像；属性：標本情報

4.4. 資料燻蒸

博物館資料を良好な状態で保存するために燻蒸を行った。

大収蔵庫の燻蒸

2024年6月10日から14日まで、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガス（混合比、酸化エチレン15%、テトラフルオロエタン85%）による殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。なお、例年燻蒸期間中は休館の措置が取られる。

燻蒸装置を使った燻蒸

標本製作室に設置されている燻蒸装置を使用し、酸化エチレン・テトラフルオロエタンの混合ガスによる殺虫、殺卵、殺カビを目的とした燻蒸を行った。鳥獣はく製や昆虫標本などを対象に8回実施した。

5. 学習支援機能

県民の生涯学習活動を様々な場面で支援することは、博物館の社会的使命の一つである。当館ではこれに応えるために企画情報部を組織し、事務職員と研究職員（学芸員）とが協力態勢をとっている。この中で、県民の生涯学習支援を多種多様な場面で数多く進めるとともに、学校教育支援にも取り組んでいる。

近年、県民の学ぼうとする意欲が高まる中で、生涯学習ニーズに応えるため、自然史博物館である当館の特質をいかした自然科学講演会、各種の講座などの学習支援事業を展開している。

また、学校教育における支援要請、理科等の教科学習、総合的な学習の時間、インターンシップの受け入れ、教員の各種研修の受け入れ、教材開発の支援などに応えた。

さらに、一般の方々や児童・生徒の自学自習の場として、ミュージアムライブラリーを設けている。ここには博物館学習指導員が配置され、種々の学習相談に応じている。特に学校を中心とする団体での利用者には、要請に応じて学習指導員によるガイダンスの便宜もはかっている。

県民のボランティア活動等を受け入れ支援することは、広く生涯学習の機会を確保することであるとともに、博物館の社会的使命として重要な柱である。そのためボランティア活動の受け入れや養成講座の実施、博物館実習等の受け入れ、博物館友の会の運営支援などの活動を通じて、県民・地域とともにある博物館を目指している。

5.1. 生涯学習への対応

5.1.1. 自然科学講演会等

本年度開催された、自然科学に関する館主催・共催の講演会・シンポジウム、学会の開催に関連して一般公開のかたちで実施された講演会等の行事について、次表に記した。

自然科学講演会（博物館主催行事に関連した一般の方々向け講演会）

2024 年度は実施しなかった。

他の団体・機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講演会・シンポジウム・研究会等）

行事名	実施日	実施場所	対象者	講師	講師所属	人数
令和 6 年度第 1 回魚の会講演会 「熱帯魚のうそ、ほんと！」	5/19(日)	西側講義室	会員 一般	浦野貴士	ブラゼール水生生物研究所・代表	43
令和 6 年度第 2 回魚の会講演会 「魚類の生活史を調べるーリュウキュウアユの生活史研究を例にー」	8/11(日祝)	西側講義室	会員 一般	立原一憲	元琉球大学理学部・教授	34
第 26 回日本進化学会神奈川大会 進化学夏の学校 「次世代シーケンサーを用いたゲノム多様性解析入門」	8/24(土)	東西講義室	学会員	神澤秀明 長田直樹 木村亮介 河合洋介 松波雅俊 藤原一道	国立科学博物館 北海道大学 琉球大学 国立国際医療研究センター 琉球大学 国立遺伝学研究所	105
第 26 回日本進化学会神奈川大会 市民公開講座 「形・DNA・行動から動物の進化をさぐるー恐竜からニワトリ・クジラへー」	8/24(土)	SEISA ミュージアムシアター	学会員 一般	平沢達矢 米澤隆弘 田島木綿子	東京大学 広島大学 国立科学博物館	138
令和 6 年度第 3 回魚の会講演会 「神奈川県淡水魚類チェックリストの作成」	11/17(日)	西側講義室	会員 一般	木村喜芳	相模湾海洋生物研究会・会長	30
小田原市郷土文化館・自然科学フォーラム 「松浦正徳先生の研究を基にした相模湾の海藻相」	11/23(土祝)	西側講義室	一般	高橋昭善	相模湾海藻調査会・主宰	32
小田原市郷土文化館・自然科学フォーラム 「熊田頭四郎と小田原における魚類研究～郷土文化館所蔵魚類標本から見えてきたこと」	2/1(土)	西側講義室	一般	瀬能 宏	当館・名誉館員	45
箱根ジオパーク推進協議会教育部会一般講座 「小田原城と石垣」	2/2(日)	SEISA ミュージアムシアター	一般	西澤文勝 佐々木健策 山下浩之	当館・学芸員 小田原市文化財部文化財課 当館・学芸員	123
令和 6 年度第 4 回魚の会講演会 「魚と歩んだ 50 年」	2/23(日祝)	西側講義室	会員 一般	萩原清司	横須賀市自然・人文博物館 学芸員	31
合計						581

他の団体・機関との連携行事（博物館をとりまく諸機関との連携による講座等）

行事名	実施日	実施場所	対象者	人数
神奈川県水源環境保全課主催イベント 「シュロバッタ作り」の体験教室	7/13(土)	西側講義室	一般	206
神奈川県水源環境保全課主催イベント 「葉巻笛」の体験教室	7/14(日) 7/15(月祝)			345
箱根ジオパーク夏休み子どもジオ講座 「箱根細工」を生んだ「火山」と「豊かな木材」実験&体験学習教室	8/12(月振)	東側講義室	主に未就学児（4 歳以上）や小学生とその保護者	187
合計				738

5.1.2. 講座等

博物館が実施した講座を当日受付の講座と事前申し込みが必要な講座に分けて記載した。同名講座でも、募集・受付の異なるものは別講座とした。

当日受付の講座

2講座延べ2日間実施、参加者延べ数 283 名。

当日受付の講座

No.	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	参加者数
1	砂とあそぼう	8/3(土)	講義室	どなたでも	石浜佐栄子	178
2	夏休み昆虫ひろば	8/17(土)	講義室	どなたでも	渡辺恭平	105
合計						283

事前申込が必要な講座

募集 51 講座のうち、実施は 49 講座、参加者延べ数 641 名。

事前申込が必要な講座

No.	講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	受講数
1	植物図鑑の使い方～春の花編～	4/13(土)	実習実験室および館周辺	小学 4 年生～成人・教員	大西 亘	25	29	17
2	春の里山の植物	4/20(土)	瀬上市民の森 (横浜市)	小学生～成人	大西 亘	25	50	25
3	おやこで貝がらをしよう (1)	5/5(日祝)	実習実験室	小学生とその保護者	佐藤武宏	18	21	10
4	おやこで貝がらをしよう (2)					18	16	11
5	磯の生きものウォッチング (1)	5/11(土)	三ツ石海岸 (真鶴町)	小学生とその保護者	佐藤武宏	30	116	21
6	地形地質と鳥瞰図の観察会	5/12(日)	湯河原町	中学生～成人	新井田秀一	20	56	20
7	オタマジャクシを顕微鏡で観察してみよう	5/18(土)	実習実験室	小学生～中学生	松本涼子	10	90	4
8	博物館学入門～展示論・経営論とおすすめの博物館紹介～	5/18(土)	講義室	成人	大島光春	30	53	27
9	磯の生きものウォッチング (2)	5/26(日)	三ツ石海岸 (真鶴町)	小学生とその保護者	佐藤武宏	30	133	25
10	これ何の骨？ ハ虫類の骨格を調べてみよう	7/13(土)	実習実験室	小学 4 年生～成人	松本涼子	10	53	13
11	きのこさがし	7/21(日)	実習実験室および館周辺	小学生～中学生	折原貴道	30	91	30
12	鳥類の翼標本作製講座～鳥類標本作りに挑戦！剥製を作り残すための様々な工夫を学ぼう～	7/27(土)	実習実験室および館周辺	中学 2 年生～高校生	加藤ゆき	12	12	10
13		7/28(日)						9
14	自分の博物館体験を可視化してみよう	8/3(土)	講義室	小学 5 年生～中学 2 年生	田口公則	7	8	4
15		8/4(日)		中学 2 年生～高校生		7	7	4
16		8/5(月)		小学 5 年生～中学生		7	12	3
17	クジラの「ヒゲ」を知ろう (1)	8/4(日)	実習実験室	小学 1 年生～3 年生とその保護者	西村双葉	20	105	17
18	クジラの「ヒゲ」を知ろう (2)	8/4(日)	実習実験室	小学 4 年生～6 年生とその保護者	西村双葉	20	44	16
19	あなたのパソコンで地形を見る (教員向け)	8/6(火)	実習実験室	教員	新井田秀一	12	8	8
20	博物館のバックヤードを見てみよう！ (1)	8/11(日祝)	講義室・收藏庫	小学 4 年生～成人	佐藤武宏	24	184	28
21	古生物学入門 哺乳類の四肢骨	8/24(土)	実習実験室	成人	大島光春	12	23	12
22	博物館のバックヤードを見てみよう！ (2)	9/22(日祝)	講義室・收藏庫	小学 4 年生～成人	佐藤武宏	24	251	21
23	秋の里山の植物	9/28(土)	瀬上市民の森 (横浜市)	小学生～成人	大西 亘	25	25	中止
24	ゾウの化石 頭骨を見てみよう	9/29(日)	実習実験室	高校生～成人	樽 創	15	22	12
25		10/27(日)						10
26		11/24(日)						3
27	川と用水路の生き物を調べよう	10/6(日)	南足柄市	小学生～成人	苅部治紀	20	86	13
28	きのこの観察と同定	10/6(日)	実習実験室および館周辺	小学 4 年生～成人	折原貴道	25	81	23
29	先生のための地層と化石入門 諸磯・三崎の地層と石材	10/12(土)	実習実験室および三浦市	教員・成人	田口公則	18	16	10
30		10/20(日)						10
31	あなたのパソコンで地形を見る (一般向け)	10/13(日)	実習実験室	成人	新井田秀一	6	12	7
32	本当は怖いアメリカザリガニ～最悪の水辺の外来種について勉強しよう～	10/19(土)	はるひ野 (川崎市)	小学生～成人	苅部治紀	20	18	11
33	植物図鑑の使い方～樹木編～	10/19(土)	実習実験室および館周辺	小学 4 年生～成人・教員	大西 亘	20	26	17
34	博物学者のノート拝見～アーカイブズを楽しむ～	10/26(土)	実習実験室	高校生～成人	大坪 奏	10	11	9
35	海岸の石ころ探検隊	11/2(土)	酒匂川河口周辺 (小田原市)	小・中学生とその保護者	石浜佐栄子	25	29	中止
36	はっぱであそぼう	11/10(日)	講義室	5～6 歳の子どもとその保護者	石田祐子	24	15	8
37	貝殻のふしぎを調べよう (ホタテ)	11/10(日)	小田原駅周辺	小学 4 年生～成人	田口公則	18	10	6
38	貝殻のふしぎを調べよう (アサリ)	11/17(日)	横浜駅周辺	小学 4 年生～成人	佐藤武宏	18	8	3
39	秋の地形地質観察会	11/23(土祝)	秦野市	中学生～成人	西澤文勝	25	74	25
40	貝殻のふしぎを調べよう (巻貝)	11/24(日)	横浜駅周辺	小学 4 年生～成人	佐藤武宏	18	15	9
41	30 周年地球博・イン・ザ・ダーク (1) ―くらやみの博物館を探検しよう	12/10(火)	常設展示室	小学生～成人	西村双葉	16	12	12
42	バードウォッチング入門	12/14(土)	実習実験室・館内	小学 4 年生～大学生	加藤ゆき	10	7	4
43	自分の博物館体験を可視化してみよう	12/21(土)	講義室	小学 6 年生～高校 2 年生	田口公則	7	12	5
44	初めてのシダ シダ植物の観察ポイント	12/22(日)	実習実験室	中学生～成人	石田祐子	6	29	5
45	30 周年地球博・イン・ザ・ダーク (2) ―くらやみの博物館を探検しよう	1/18(土)	常設展示室	小学生～成人	和田英敏	16	113	11
46	ボランティア入門講座	1/19(日)	講義室	中学生～成人	企画普及課	26	30	23
47	30 周年地球博・イン・ザ・ダーク (3) ―くらやみの博物館を探検しよう	1/21(火)	常設展示室	小学生～成人	石田祐子	16	15	7
48	30 周年地球博・イン・ザ・ダーク (4) ―くらやみの博物館を探検しよう	2/1(土)	常設展示室	小学生～成人	夏目 樹	16	110	18
49	ほねほねバズルで学ぶ動物の骨とかたちとくらし	2/11(火祝)	実習実験室	小学生～中学生	鈴木 聡	20	108	10
50	親子でノジュール割りに挑戦 ～ボリビア産の古生代の生物を調べよう～	2/23(日祝)	実習実験室	小学 4 年生～6 年生とその保護者	田口公則	20	68	15
51	早春の地形地質観察会	3/1(土)	真鶴町	小学 4 年生～成人	山下浩之	25	93	20
合計						856	2,407	641

※ No. 14, 15, 16, 43 の講座はひらめき☆ときめきサイエンス－KAKENHI プログラムにより実施された。

5.1.3. よろずスタジオ・折り紙プレゼント

学習指導員による博物館主催の「よろずスタジオ」は、日曜日の午後、昨年度に引き続き8講座で行った。友の会との共催による「よろずスタジオ」も開催した。

コロナ禍により中止または縮小していた折り紙プ

レゼントを、今年は子どもの日の当日とクリスマス前の12月の日曜日に行った。また、ミューズ・フェスタ2025の折り紙プレゼントも行った。今回は開館30周年記念のミニサイズの折り紙も数量限定でプレゼントした。

博物館主催 よろずスタジオ

イベント名	実施回数	実施場所	対象者	担当者	定員	参加者数	子どもの数
恐竜の折り紙ひろば	3	東側講義室 実習実験室ほか	子どもと その保護者 その他一般	学習指導員 企画普及課 ボランティア 博物館教育プログラ ムボランティア 小田原短期大学学生	制限なし (各イベントに より異なる)	305	145
博物館のぬり絵ひろば	4					338	172
そらとぶたね	2					171	82
けんぴきょうで大発見！	2					562	234
博物館検定	2					189	87
博物館バスル	4					325	155
ハコフグ帽子のぬり絵	4					357	180
生きものスケッチ	2					92	41
合計	23	(8講座のべ23回実施)				2,339	1,096

友の会との共催 よろずスタジオ

講座名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	参加者数
ほねほねクイズ、この骨だーあれ	4/14(日)	東側講義室	子どもと その保護者 その他一般	鈴木 聡	制限なし	40
身近な菌類	6/23(日)			折原貴道		58
貝の中をみてみよう	9/15(日)			佐藤武宏		73
葉っぱで遊ぼう	11/17(日)			友の会スタッフ		68
アンモナイトをなぞろう	2/16(日)			田口公則		57
合計						296

折り紙プレゼント

イベント名	実施日	実施場所	対象者	担当者	定員	参加人数
こどもの日 折り紙プレゼント	5/5(日祝)	エントランスホール	希望者	学習指導員	600	595
クリスマス 折り紙プレゼント (恐竜の折り紙にトナカイとツリーを加えた)	12/1(日)	エントランスホール	希望者	学習指導員	600	386
ミューズ・フェスタ2025 折り紙プレゼント	3/15(土)	エントランスホール	希望者	学習指導員	740	667
	3/16(日)		希望者	学習指導員	664	652
計 3イベント				合計		2,300

5.1.4. 夏休みの自由研究を支援する催し物

学習指導員が対応する、夏休みの小・中学生理科自由研究の相談を集計した。

自由研究を支援する催し物

催し物名	実施期間	相談場所	対象者	担当者	相談件数
夏休み自由研究なんでも相談 「テーマの決め方・調べ方・まとめ方」	7/20(土) ～8/18(日)	ミュージアム・ライブラリー	小・中学生	学習指導員	33

[相談者の地域]

県内		県外	
市町村	件数	都道府県	件数
小田原市	4	静岡県	2
湯河原町	1	東京都	4
大井町	1	宮城県	1
秦野市	1	千葉県	1
茅ヶ崎市	1	小計	8
藤沢市	6		
鎌倉市	1		
横浜市	7		
川崎市	3		
小計	25		

[学年別]

学年	件数
小学1年生	0
小学2年生	7
小学3年生	5
小学4年生	3
小学5年生	4
小学6年生	4
中学1年生	7
中学2年生	2
中学3年生	1
合計	33

[分野別]

相談分野		件数
生物 分野	古生物	7
	魚類	4
	昆虫	3
	植物	4
	哺乳類	2
	その他	1
	小計	21
地学 分野	岩石鉱物	2
	宇宙	1
	地層地質	2
	環境	2
	小計	7
その他	物理・化学	2
	その他	3
	小計	5
合計		33

5.1.5. 特別展・企画展に関する講座・イベント

講座等名	実施日	実施場所	対象者	講師	定員	応募数	参加数
特別展開連 学芸員によるギャラリートーク	7/14(日)	特別展示室	どなたでも	佐藤武宏	—	—	
	7/28(日)			田口公則	—	—	
	8/25(日)			大島光春	—	—	
	9/8(日)			佐藤武宏	—	—	
	10/6(日)			大島光春	—	—	
	10/20(日)			佐藤武宏	—	—	
	11/3(日祝)			田口公則	—	—	
特別展開連イベント 博物館のバックヤードを見てみよう！①	8/11(日祝)	東側講義室 収蔵庫	小学4年生～成人	佐藤武宏 大島光春 田口公則	24	184	28
ミュージアム・リレー第341 走 特別展「生命の星・地球博物館の30年」を学芸員が解説します！	8/30(金)	特別展示室	中学生以上	佐藤武宏	20	34	6
第141回サロン・ド・小田原 特別展「生命の星・地球博物館の30年と、その未来像」	9/7(土)	西側講義室	どなたでも	佐藤武宏	45	—	27
特別展開連イベント 博物館のバックヤードを見てみよう！②	9/22(日祝)	西側講義室 収蔵庫	小学4年生～成人	佐藤武宏 大島光春 田口公則	24	251	21
ミュージアム・リレー第352 走 企画展「すなふしぎをみつこう」を学芸員が解説します！	2/28(金)	特別展示室	高校生以上	石浜佐栄子	20	25	23
企画展開連ワークショップ すなをさわってみよう	3/2(日)	特別展示室	どなたでも	石浜佐栄子 田口公則 夏目 樹	—	—	
ミュージアム・フェスタ2025開催イベント 砂から宝石をさがそう！パンニング体験	3/15(土)	前庭	どなたでも	石浜佐栄子 新井田秀一 山下浩之 夏目 樹 松本涼子 大坪 奏	—	—	327
	3/16(日)				—	—	中止
企画展開連ワークショップ すなやまのふしぎなまよう	4/13(日)	西側講義室	どなたでも	石浜佐栄子 田口公則 夏目 樹	2025年度事業で実施		
企画展開連講座 すなとあそぼう	4/20(日)	東側講義室	どなたでも	石浜佐栄子 田口公則 大島光春 西澤文勝 夏目 樹 大坪 奏			

5.2. 学校教育への対応

5.2.1. 理科等の教科学習・講義および総合的な学習の時間への対応

博物館内で対応したもの

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	人数
5/28(火)	大学	森林微生物学実習	日本大学生物資源科学部森林学科	折原貴道	11
6/18(火)	その他	標本と解剖に関する講義・自然史博物館の概要と役割	日本さかな専門学校	和田英敏	25
6/21(金)					50
6/29(土)	大学	「地球科学実験」	創価大学理工学部共生創造理工学科	田口公則	29
7/7(日)	大学	菌類研究者による講演会と菌類観察会	関東学院大学理工学部生命学系	折原貴道	12
7/19(金)	高校	化石に関する体験実習ならびに博物館の見学	星槎高等学校	田口公則	29
7/23(火)	高校	博物館の社会的意義と役割について	千葉県立長生高等学校	田口公則	31
7/24(水)					33
8/9(金)	大学	「植物系統分類学」	横浜国立大学教育学部	大西 亘	5
9/27(金)	大学	「生態学実習Ⅰ」	横浜国立大学大学院環境情報研究院	大西 亘	19
10/22(火)	小学校	「流れる水のはたらき」	小田原市立早川小学校	石浜佐栄子	26
10/29(火)	小学校	「大地のつくりと変化」	小田原市立早川小学校	石浜佐栄子	28
10/30(水)	小学校	神奈川県立の絶滅危惧種について	小田原市立三の丸小学校	加藤ゆき	41
11/4(月振)	大学	博物館見学	日本大学生物資源科学研究科	西村双葉	19
11/6(水)	小学校	「流れる水のはたらき」	箱根町立湯本小学校	石浜佐栄子	8
12/13(金)	中学校	博物館見学・箱根巡検	武蔵中学校	山下浩之 西澤文勝 夏目 樹	186
1/12(日)	小学校	「多摩川の石を知る」	カリタス小学校	西澤文勝	12
2/11(火祝)	大学	「博物館の機能と役割」	常葉大学社会環境学部	田中徳久	30
3/4(火)	小学校	地層についての解説	小田原市立前羽小学校	石浜佐栄子	22
3/7(金)	小学校	「地球に生きる」	小田原市立早川小学校	新井田秀一	28
合計					644

依頼元に出向いての対応・オンライン対応したもの

実施日	区分	内容・演題 等	依頼元	対応者	実施場所
5/24(金)	中学校	生物多様性について	横浜女学院中学校	鈴木 聡	横浜女学院中学校
6/10(月)	大学	さく葉標本の作り方	東京都立大学都市環境学部地理環境学科	石田祐子	オンライン
6/15(土)	大学	生物多様性総合調査 BioBlitz2024	弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター	渡辺恭平	弘前大学白神自然観察園
10/21(月)	小学校	箱根巡検	自由学園初等部	西澤文勝	箱根巡検
12/3(火)	小学校	たねはかせになろう	大田区立清水窪小学校	大西 亘	オンライン
1/27(月)	中学校	火山の成り立ちについて	箱根町立箱根中学校	西澤文勝	箱根町立箱根中学校
2/26(水)	中学校	地学教室	厚木市立森の里中学校	田口公則	厚木市立森の里中学校

5.2.2. 職場体験およびインターンシップ受け入れ

2024 年度は中学生を対象とした職場体験、および高校生を対象としたインターンシップをおこなった。活動内容として、博物館の社会的役割や組織体

制に関する講義のほか、学芸員や行政職員、学習指導員の業務体験プログラム等を実施した。

職場体験およびインターンシップ

実施日	区分	内容	依頼元	対応者	人数
8/7(水)	高校	高校生インターンシップ（就業体験活動）	県立横浜清陵高等学校 県立小田原高等学校 県立小田原城北工業高等学校	渡辺恭平 学習指導員 中村友美子	4
8/8(木)	高校	高校生インターンシップ（就業体験活動）	県立小田原高等学校 県立茅ヶ崎西浜高等学校 星槎高等学校		4
8/9(金)	高校	高校生インターンシップ（就業体験活動）	鎌倉女子大学高等部 鶴見大付属高等学校 県立小田原城北工業高等学校	渡辺恭平 学習指導員 山下浩之	3
11/6(水)	中学校	職場体験プログラム	小田原市立城北中学校	渡辺恭平 学習指導員 佐藤武宏 大島光春 田口公則	3
11/8(金)	中学校	職場体験プログラム	二宮町立二宮中学校		2
合計					16

5.2.3. 教員の各種研修受入

博物館内で対応したもの

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
8/26(月)	6 年「大地のつくりと変化」に関する内容の実験・観察	小田原・足柄下地区小学校教育研究会	石浜佐栄子	36

依頼元に出向いての対応

実施日	内容	依頼元	対応者	実施場所
7/26(金)	【基礎講座】理科（地学分野）の授業づくり研修講座（中学校）講義・実習「地学分野の基本的な実習」	総合教育センター	山下浩之	総合教育センター
7/31(水)	中堅教諭等資質向上研修講座高等学校（理科）講義・演習「資質・能力の育成を目指す組織的な授業改善Ⅰ」	総合教育センター	山下浩之	総合教育センター
8/5(月)	中堅教諭等資質向上研修講座中学校（理科）講義・演習「今日的な教育課題Ⅱ」	総合教育センター	西澤文勝	総合教育センター
8/8(木)	【基礎講座】理科（地学分野）の授業づくり研修講座（高等学校）講義・実習「地学分野の基本的な実習」	総合教育センター	西澤文勝	総合教育センター
8/25(日)	「無料で使える『フォトグラメトリ（写真から 3D モデルを作成する）ソフト “3DF Zephyr”』で標本や地層の 3D モデルを構築し、その活用を考える」	神奈川県高等学校教科研究会	田口公則	神奈川県立相模原弥栄高等学校
11/9(土)	関東地区私立小学校教員研修会・講演・ワークショップ「植物図鑑の活用講座 学校図書館で植物調べ『先生、この植物なあに？』」	関東地区私立小学校連合会	大西 亘	湘南学園小学校

5.3. 博物館実習

5.3.1. 博物館館園実習

当館では自然誌系分野を専攻し、学芸員資格の取得をしようとする学生を、博物館実習生として受け入れている。2024 年度は、12 大学・大学院から 32 名の実習生を受け入れた。

本年度も昨年度と同様、実習生全員を集めて実施する前期日程を 1 日、各専門分野に分かれて実施す

る後期日程を 7 日の計 8 日間開催した。担当者と日程は下記のとおりであった（ただし、日程は当初予定されたものであり、個々の実習生、博物館側のやむを得ぬ事情により、実際の実施日程は下記と異なる場合がある）。

実習日と主な実習内容

全員共通日程（1日間）
[期日] 8月2日（金）
[内容] 副館長挨拶、オリエンテーション、展示に関する課題演習、館長講話、学芸部長・管理課長・企画普及課長・情報資料課長・ライブラリー司書による館の概要・各種業務について講義。

分野別実習（7日間）

◎植物分野（4名）
[担当] 田中徳久・大西 亘・石田祐子
[期間] 8月3、4、6～10日

◎菌類分野（6名）
[担当] 折原貴道・大西 亘・大坪 奏
[期間] 9月3～6、10～12日

◎動物グループ（8名）
[担当] 佐藤武宏・加藤ゆき・松本涼子・鈴木 聡・西村双葉
[期間] 8月3～6、8～10日

◎魚類グループ（2名）
[担当] 和田英敏
[期間] 8月16～18、20～23日

◎昆虫グループ（3名）
[担当] 荻部治紀・渡辺恭平
[期間] 8月14、16～21日

◎古生物グループ（4名）
[担当] 田口公則・大島光春
[期間] 8月6～13日

◎地学グループ（5名）
[担当] 山下浩之・新井田秀一・石浜佐栄子・西澤文勝・夏目 樹
[期間] 8月3、5、6、9、10、12、13日

博物館館園実習受け入れ状況

大学・学部等		人数
神奈川大学	理学部生物科学科	1
学習院大学	理学部生物科学科	2
北里大学	海洋生命科学部海洋生命科学科	2
静岡大学	理学部地球科学科	1
筑波大学	生命環境学群 生物学類	1
	人文・文化学群人文学類	1
東京都市大学	理工学部自然科学科	2
東京都立大学	都市環境学部地域環境学科	1
	都市環境科学研究科・地理環境学域	1
	理学部生命科学科	2
	理学研究科生命科学専攻	1
東京農業大学	農学部動物科学科	2
	農学部生物資源開発学科	3
	農学部デザイン農学科	1
	応用生物科学部醸造科学科	2
	地域環境科学部森林総合科学科	1
日本大学	生物資源科学部	3
	文理学部地球科学科	1
北海道大学	理学部生物科学科	1
八州学園大学	生涯学習学部生涯学習学科	1
琉球大学	理学部海洋自然科学科生物系	1
	農学部亜熱帯農林環境学科	1
合計		32

5.3.2. 博物館見学実習

当館では大学における学芸員養成課程のうち、博物館学の見学実習の一環として、専攻・専門分野を問わず実習を受け入れている。一般向けの展示のみならず、館施設全体の見学を通して、大学生に博物

館の機能や社会的意義を深く理解させることが目的である。今年度は7大学8件195名の見学実習を受け入れた。

博物館見学実習受け入れ状況

実施日	内容	依頼元	対応者	人数
6/1(土)	博物館見学実習	桜美林大学	佐藤武宏	12
6/20(木)～7/20(土)	博物館実習Ⅱ(招待券対応)	神奈川大学理学部	—	7
6/28(金)	博物館見学	明治大学	田口公則	20
7/27(土)	博物館情報・メディア論	北里大学海洋生命科学部	和田英敏・大坪 奏	51
8/28(水)	博物館実習	日本女子大学	田口公則	16
11/2(土)	博物館実習Ⅰ	日本大学生物資源科学部	佐藤武宏	59
12/8(日)	博物館実習	東海大学海洋学部	新井田秀一	22
2/21(金)	博物館学教育のため	桜美林大学リベラルアーツ学群	田口公則	8
合計				195

5.4. ミュージアムライブラリーにおける学習支援活動

ミュージアムライブラリーでは、来館者の学習意欲に応えられるよう、自然誌関係の図書、雑誌等を揃え、自由に閲覧できる開架式環境と、閉架式図書資料等の閲覧が行える環境を整備している。また、博物館情報システムによる情報検索ができるほか、学芸員による学習相談や学校現場での豊かな経験を活かした学習指導員による学習相談、学校をはじめ各種諸団体利用者の見学に関する支援を行っている。2024年度のライブラリー利用者は88,846人で、1日平均利用者数は310人であった。また、有料コピーサービスを来館者には直接、来館できない利用者には郵送で、それぞれ実施している。これらのコピーサービスには、延べ86件の申込があった。

ミュージアムライブラリー月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	25	26	20	27	30	24	26	25	19	20	21	24	287
利用者数	6,420	6,371	5,990	9,763	14,367	9,822	7,093	6,399	3,852	4,514	6,558	7,697	88,846
平均利用者数	257	245	300	362	479	409	273	256	203	226	312	321	310

5.5. 学習指導員による学習支援活動

当博物館は、より身近で開かれた博物館、学校との連携を図る博物館、生涯学習を支援する博物館を目指しており、これらの実現のために館全体で様々な事業に取り組んでいる。そのためのサポートとして5名の学習指導員を配置している。

当館の学習指導員は、学校現場および博物館での豊かな経験を生かし、児童・生徒をはじめ一般の方々からのレファレンスに関する業務や自由研究のアドバイスなどの学習支援、また学校をはじめ各種諸団体利用者に対する展示物のガイダンスなど、来館者へのサービスに関する業務を行っている。

5.5.1. 学習支援・レファレンス業務

学習指導員は学習指導員室に常駐し、様々な相談に応じている。児童・生徒の質問を受け付けたり、自由研究等へのアドバイスを行ったり、設定された課題解決のためにその筋道を示したりする学習支援を行っている。このほか、来館者のレファレンス受

付や、博物館に持ち込まれた動植物や鉱物、化石の同定や質問に対して、学芸員との連携を図っている。学芸員のレファレンス対応状況については、「3.4 レファレンス対応人数」（32 ページ）参照。

5.5.2. 団体利用者へのサービス

[団体利用の申込受付]

学習指導員は団体利用者の来館等に対応し予約の申し込みを受け付けている。2019 年以前は電話・FAX・直接の予約申し込みを受けていたが、コロナ禍以降、FAX だけの予約申込みとし、すべての団体の予約を受け付けている。団体の予約地域や年齢など来館される方々は多岐にわたっている。

[下見見学への対応]

事前に下見のために来館した団体に対しては、施設の利用方法や館内の見どころ等を説明するほか、希望者には博物館の展示を紹介した DVD の貸し出しも行っている。この下見見学の多くは学校関係者や障がいのある方々の施設・団体、子ども会、ボーイスカウトである。

[ガイダンスサービス]

ガイダンスを希望した団体には所要時間 15 ～ 20 分程度で、展示室の構成や主な展示物の説明、館内の見どころ等についてわかりやすく紹介し、また利用にあたっての注意事項について説明をしている。また、ゴールデンウィーク期間の 4 日間及び夏季期間の 6 日間、一般来館者に「みどころガイド～博物館のここがイチオシ！～」を実施した。

学習指導員によるガイダンスの月別対応状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件数	8	17	24	24	16	27	39	33	17	6	23	19	253
人数	403	781	855	908	374	1,347	1,711	1,536	843	111	759	717	10,345

学習指導員によるみどころガイド～博物館のここがイチオシ！～の実施状況

参加者数	午前		午後		計			参加者数	午前		午後		計		
	大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	計		大人	子ども	大人	子ども	大人	子ども	計
4/29 (月祝)	21	10	19	6	40	16	56	7/20 (土)	10	3	15	11	25	14	39
5/3 (金祝)	14	9	13	6	27	15	42	7/27 (土)	8	3	9	5	17	8	25
5/4 (土祝)	18	9	14	8	32	17	49	7/28 (日)	7	3	20	9	27	12	39
5/6 (月)	10	7	8	5	18	12	30	8/10 (土)	13	4	10	6	23	10	33
GW 計	63	35	54	25	117	60	177	8/12 (月)	13	10	10	6	23	16	39
								8/19 (月)	20	14	12	7	32	21	53
								夏計	71	37	76	44	147	81	228
								全計	134	72	130	69	264	141	405

5.5.3. 団体利用状況

2024年度の団体利用人数は、967団体、40,613人で、入館者数全体271,143人に対する割合は15.0%であった。団体利用件数の内訳は、学校教育関係（保育所を含む）と学校以外で分類した。

団体の種別内訳

	神奈川県内から			県外・海外から			合計		
	件数	件割合	人数	件数	件割合	人数	件数	件割合	人数
学校教育	353	36.5%	19,215	207	21.4%	11,012	560	57.9%	30,227
幼稚園・保育所	81	8.4%	2,968	18	1.9%	847	99	10.2%	3,815
小学校	180	18.6%	12,639	131	13.5%	7,274	311	32.2%	19,913
小中一貫校	1	0.1%	16	2	0.2%	91	3	0.3%	107
中学校	27	2.8%	1,207	7	0.7%	607	34	3.5%	1,814
中高一貫校	6	0.6%	304	10	1.0%	869	16	1.7%	1,173
高等学校	14	1.4%	743	9	0.9%	418	23	2.4%	1,161
特別支援学校・学級	27	2.8%	605	11	1.1%	363	38	3.9%	968
大学・短大	17	1.8%	733	19	2.0%	543	36	3.7%	1,276
学校以外	259	26.8%	5,955	148	15.3%	4,431	407	42.1%	10,386
合計	612	63.3%	25,170	355	36.7%	15,443	967	100.0%	40,613

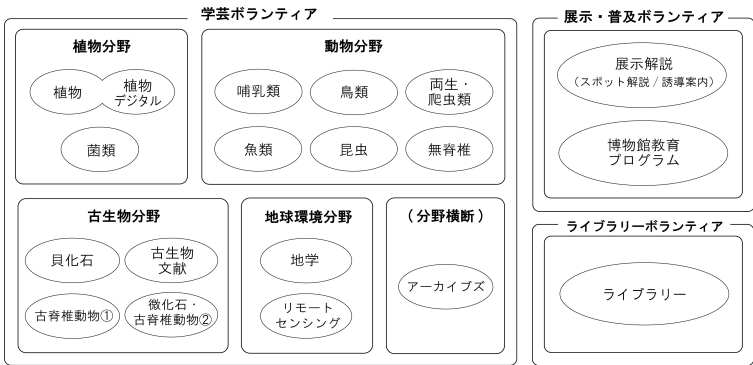
団体の地区別利用状況（上段：件数、下段：人数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	%
小田原	件数	2	1	3	9	5	5	11	8	3	4	7	3	61	6.3%
	人数	340	39	87	148	96	158	371	281	139	190	217	61	2,127	5.2%
足柄下	件数	0	1	1	2	0	0	0	2	0	0	1	2	9	0.9%
	人数	0	12	16	38	0	0	0	40	0	0	24	39	169	0.4%
足柄上	件数	2	0	0	0	3	4	2	5	3	2	3	0	24	2.5%
	人数	43	0	0	0	35	90	26	333	163	98	120	0	908	2.2%
二宮・大磯・平塚	件数	3	7	12	9	6	5	10	5	4	3	11	4	79	8.2%
	人数	235	243	243	89	239	66	137	200	167	64	281	70	2,034	5.0%
秦野・伊勢原・厚木	件数	4	10	7	6	7	2	10	11	0	2	8	8	75	7.8%
	人数	410	628	113	86	156	220	441	332	0	44	211	141	2,782	6.9%
県央・相模原	件数	9	11	9	6	7	12	20	25	0	3	8	9	119	12.3%
	人数	454	693	563	232	187	856	1,399	1,347	0	54	208	244	6,237	15.4%
茅ヶ崎・藤沢・鎌倉	件数	3	4	6	9	8	7	7	7	3	2	8	10	74	7.7%
	人数	41	217	322	168	203	312	227	587	161	31	369	517	3,155	7.8%
横須賀・三浦・逗子	件数	1	1	6	0	3	2	1	9	3	0	1	2	29	3.0%
	人数	23	30	357	0	77	184	12	386	188	0	25	51	1,333	3.3%
横浜	件数	0	3	11	11	15	12	15	10	9	2	13	6	107	11.1%
	人数	0	299	976	558	291	555	564	377	346	71	731	232	5,000	12.3%
川崎	件数	0	0	1	4	2	2	1	3	5	9	2	3	32	3.3%
	人数	0	0	18	100	38	139	28	71	263	398	234	98	1,387	3.4%
県内全域・地区不明	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東京都	件数	5	20	11	16	6	21	22	17	7	3	7	8	143	14.8%
	人数	213	1,176	476	691	206	1,011	800	853	339	80	197	313	6,355	15.6%
千葉県	件数	0	0	1	2	1	16	27	23	0	1	0	0	71	7.3%
	人数	0	0	20	64	44	631	1,032	1,377	0	55	0	0	3,223	7.9%
静岡県	件数	1	4	3	7	11	5	8	6	6	3	5	5	64	6.6%
	人数	13	166	115	281	174	127	265	460	157	51	229	78	2,116	5.2%
山梨県	件数	0	4	2	2	0	3	3	3	0	1	1	1	20	2.1%
	人数	0	109	30	56	0	177	83	83	0	15	32	15	600	1.5%
埼玉県	件数	0	6	5	4	2	7	12	10	1	0	2	1	50	5.2%
	人数	0	351	186	236	104	430	661	400	26	0	61	23	2,478	6.1%
茨城県	件数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1%
	人数	332	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	332	0.8%
その他の道府県・外国	件数	0	2	1	0	0	2	1	0	0	2	1	0	9	0.9%
	人数	0	64	20	0	0	52	82	0	0	134	25	0	377	0.9%
神奈川県計	件数	24	38	56	56	56	51	77	85	30	27	62	47	609	63.0%
	人数	1,546	2,161	2,695	1,419	1,322	2,580	3,205	3,954	1,427	950	2,420	1,453	25,132	61.9%
他都道府県・外国計	件数	7	36	23	31	20	54	73	59	14	10	16	15	358	37.0%
	人数	558	1,866	847	1,328	528	2,428	2,923	3,173	522	335	544	429	15,481	38.1%
全体合計	件数	31	74	79	87	76	105	150	144	44	37	78	62	967	100.0%
	人数	2,104	4,027	3,542	2,747	1,850	5,008	6,128	7,127	1,949	1,285	2,964	1,882	40,613	100.0%

5.6. 博物館のボランティア活動

当館では、ボランティア活動を生涯学習の一環と位置づけ、登録制の博物館ボランティア制度を設けている。活動内容は、資料整理や展示準備、調査研究、展示解説等さまざまである。登録には職員推薦（随時）あるいは入門講座の受講（年一回開催）の二つの方法がある。活動分野は大きく「学芸ボランティア」「展示・普及ボランティア」「ライブラリーボランティア」に分かれており、希望する分野に登録し活動する。年度単位の登録で、希望により更新できる。

博物館ボランティアの活動分野



5.6.1. 学芸ボランティア

各分野で、担当学芸員の指導・指示により、博物館資料の収集、整理や調査研究への協力、標本作製、標本等の資料のデータ入力などを主な活動内容としている。分野により標本作製の手法や手順は異なり、

専門的な技術や知識を習得する場ともなっている。この他にも、特別展などの展示制作補助、講座や観察会の補助などを通じて博物館を支えている。担当学芸員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.2. 展示・普及ボランティア

展示室で来館者に対して案内や展示の解説をする「展示解説」と、子ども向けワークショップイベントの補助をする「博物館教育プログラム」がある。「展示解説」は、各自の都合の良い日に来館し、各ボランティアの得意な分野について「スポット解説」として案内や解説を行なっている。制服としてスタッフジャンパーを貸与している。

2015年度からは、子ども向け当日参加型ワークショップ（よろずスタジオ）の運営を補助する「博物館教育プログラム」の分野を新設している。この分野については、当館の登録ボランティアの他に、小田原短期大学と連携し、同保育学科の学生にも参加をいただいている。（2024年度：延べ29名）

5.6.3. ライブラリーボランティア

さまざまな専門書や一般向け図書を収蔵するミュージアムライブラリーで、図書の整理・装備（ラベル・透明カバー貼り等）や補修等の活動を行って

いる。担当職員と活動内容や日程を調整しながら活動する。

5.6.4. 分野別登録人数と活動状況

分野別の登録人数は右表、活動状況は次ページの表のとおりである。

2024年度「博物館ボランティア」登録人数

	登録人数		
	合計	男	女
実人数 ※	398	215	183
1) 学芸ボランティア	400	207	193
2) 展示・普及ボランティア	30	21	9
3) ライブラリーボランティア	3	0	3

※ 1)～3)の分野間で重複登録している人を除いた実人数を示した。
実人数のうち、保険加入は289名。

2024 年度「博物館ボランティア」登録者の内訳および月別の活動状況

			登録数(延べ)			活動人数(延べ)																
			合計	男	女	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
学芸	植物	植物	30	8	22	396	38	44	15	42	19	41	40	34	34	33	33	23				
		菌類	55	30	25	375	36	32	30	51	21	29	31	31	23	32	31	28				
	動物	哺乳類	74	31	43	145	11	15	4	19	9	15	13	10	6	16	11	16				
		鳥類	28	11	17	232	23	29	12	27	15	5	15	18	35	26	15	12				
		両生・爬虫類	11	6	5	64	0	4	6	9	1	7	10	6	2	5	8	6				
		魚類	57	41	16	287	20	32	24	24	26	28	13	26	23	28	16	27				
		昆虫	62	44	18	125	18	6	8	5	9	8	7	9	16	10	11	6				
		軟体・甲殻類	6	3	3	54	4	6	6	5	3	5	5	5	2	6	3	4				
		古生物	52	25	27	473	57	29	25	33	24	27	47	41	46	30	47	67				
	地球環境	地学	20	8	12	179	13	22	9	17	7	15	14	15	15	20	11	21				
		リモートセンシング	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
		アーカイブズ	5	0	5	95	7	3	7	14	8	8	13	6	6	5	10	8				
		延べ人数	400	207	193	2,425	227	222	146	246	142	188	208	201	208	211	196	230				
展示・普及		展示解説	22	18	4	84	8	5	6	5	8	6	5	7	4	10	11	9				
		誘導案内	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
		博物館教育プログラム	5	1	4	19	2	1	1	2	1	0	1	3	2	3	2	1				
		延べ人数	30	21	9	103	10	6	7	7	9	6	6	10	6	13	13	10				
		ライブラリー	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
全体延べ人数			433	228	205	2,528	237	228	153	253	151	194	214	211	214	224	209	240				

※植物は植物デジタルを含む。古生物は古生物文献を含む。

5.6.5. ボランティア入門講座

当館でのボランティア活動を理解していただき、円滑に参加していただくための入門講座を開催している。全体講義のほかに分野別の実習があり、受講後、希望者は翌年度からのボランティアに登録し活動していただく。2024 年度の実施内容は表のとおりである。

[日時] 2025 年 1 月 19 日（日）～ 2 月 9 日（日）
までの間の 2～3 日間（分野別の講座が 1～2 日間）

[講座定員] 学芸 6 分野 26 名
[受講人数] 学芸 6 分野 23 名

講座日程

共通講義（初日：2025 年 1 月 19 日（日））

時間	内容
10:00～10:05	開会あいさつ
10:10～10:40	講義「博物館活動とボランティア」
10:45～12:00	展示室見学
13:05～14:20	バックヤード見学
14:30～14:50	ボランティアに関する説明と諸注意
15:00～	各分野の紹介と顔合わせ
15:30	終了（分野別に随時解散）

分野別実習（1 月 21 日～ 2 月 9 日の 1～2 日間）

分野	実施日	内容	定員	受入	受講	登録
哺乳類	1/25(土)	標本作製（小型哺乳類の仮剥製）	5	6	6	6
鳥類	1/24(金)	鳥類標本の作製等	3	4	4	3
無脊椎動物(貝・カニ)	1/25(土)	標本整理・登録・配架	3	2	2	1
古生物(貝化石・古脊椎動物)	1/21(火)	活動内容紹介・活動体験(資料ラベル・箱の整理等)	5	2	2	2
古生物(脊椎動物化石・植物化石・微化石)	2/2(日)	標本作製・整理、写真撮影、講座の補助等	5	4	4	4
アーカイブズ	1/24(金) (2/9(日))	概要説明、資料の整理・データ整理体験	5	5	5	4
合計			26	23	23	20

5.6.6. ボランティア研修

2024 年度は実施しなかった。

5.7. 広報

博物館広報活動は、広く当館の認知度を向上させること及び常設展示をはじめ特別展・企画展といった資料展示や、各種の観察会・講演会といった学習支援活動などを周知し、来館・参加を呼びかけることを目的としている。

2024 年度の広報活動は、催物案内など広報印刷物の作成・配布と、マスメディア等への情報提供及び公式 X アカウントによる広報を行った。

5.7.1. 広報印刷物の作成・配布

広報として、特別展や講座、観察会などの各種催し物を周知する「催物案内」、イベントの開催に合わせたポスターやチラシなどを次の表のとおり作成・配布した。

作成印刷物一覧

作成年月	印刷物名	仕様（規格、印刷、色数）	印刷部数	主な配布先	配布件数
2024 年 6 月	特別展「生命の星・地球博物館の 30 年」ポスター	B2 判 オフセット印刷 4 色刷り	970	A, B, C, D, F, G, H	700
	特別展「生命の星・地球博物館の 30 年」チラシ	A4 判 オフセット印刷 表面 4 色・裏面 1 色刷り	15, 000	A, B, C, D, E, F, G, H	
	特別展「生命の星・地球博物館の 30 年」招待券	70mm×148mm オフセット印刷 表面 4 色・裏面 1 色刷り	9, 500	B, C, D, E, F, H	
2025 年 1 月	企画展「すな」ポスター	B2 判 オフセット印刷 4 色刷り	140	A, B, C, D, E, F, G, H	900
	企画展「すな」チラシ	A4 判 オフセット印刷 表面 4 色・裏面 1 色刷り	20, 000	A, B, C, D, E, F, H	
2025 年 2 月	2025 年度催物案内	A3 判 オフセット印刷 両面 1 色刷り	23, 000	B, C, D, E, F, H	700
2025 年 3 月	ミュージ・フェスタ 2025 当日イベントタイムスケジュール（2 日間）	A4 判 館内簡易印刷（片面 1 色刷り）	1, 000	館内配布	—
	ミュージ・フェスタ 2025 告知カード	91mm×55mm オフセット印刷 表面 4 色・裏面 1 色刷り	8, 200	A（中学校は除く）	25

主な配布先の凡例：A: 小田原市立小中学校 ;B: 県内図書館 ;C: 博物館園 ;D: 県政情報窓口 ;E: マスメディア ;F: 小田急電鉄・箱根登山鉄道 ;G: 大雄山線 ;H: その他

5.7.2. マスメディア等への情報提供

特別展・企画展においては、前日に記者内覧会を実施した。

この 1 年間の紹介記事件数は、掲載が確認できたものだけでも 124 件あった。内訳は、新聞 22 件、

広報誌・情報誌・雑誌等 12 件、テレビ 8 件、ラジオ 9 件、ウェブサイト等インターネット 54 件、その他 19 件であった。

5.7.3. SNS を利用した広報

県内外へ広く活発な広報活動を行うため、次のとおり公式 X による情報発信を行った。

公式 X アカウントによる情報発信

広報アカウント「@seimeinohoshiPR」では、特別展や常設展、博物館の活動状況、開館状況、ウェブコンテンツ等の情報発信を行うとともに、緊急時や

災害時等に情報発信媒体として活用した。また、混雑情報発信アカウント「@seimeinohoshiCI」では、当館の混雑状況の情報発信を行った。

X による情報発信

アカウント	実施期間	合計ポスト数
広報アカウント：@seimeinohoshiPR	2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	193
混雑情報発信アカウント：@seimeinohoshiCI	2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日	220

5.8. 来館者アンケート

来館者の来館回数、満足度等のアンケートを行った。また、イベント開催中にアンケートを実施することで広報物（チラシ等）の効果を調べる基礎資料とした。

5.8.1. 館内での満足度調査

[調査方法]

入館券の投函と電子申請システムを併用して行った。1 階エントランスホールに投票箱と電子申請システムの二次元コードを印刷したポスターを設置し、来館者に回答を求めた。

[調査期間]

2024 年 7 月 19 日～8 月 31 日（44 日間）

[回答数]

4,524 件（うち投函 4,453 件、電子申請システム 71 件）

[調査期間]

2025 年 3 月 15 日・3 月 16 日の開館中（2 日間）

[回答数]

197 件（うち投函 194 件、電子申請システム 3 件）

[調査項目]

4 項目（満足・どちらかといえば満足・どちらかといえば不満・不満）

[調査項目]

4 項目（満足・どちらかといえば満足・どちらかといえば不満・不満）

[調査結果]

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
回答数	3,429	910	117	68
%	75.8%	20.1%	2.6%	1.5%

[調査結果]

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
回答数	171	22	1	3
%	84.7%	12.5%	0.01%	2.8%

5.8.2. 講座参加者へのアンケート（記入式）

〔調査方法〕

講座参加者にアンケートを実施し、世代、講座への参加回数、感想等を調査した。

〔調査対象〕

博物館講座のうち、ボランティア入門講座、雨天中止講座を除く 40 講座について、講座終了後にアンケートを行った。なお、講座が 2 日間以上にまたがっている場合は、その講座の最終日の終了後に調査した。

〔有効回答数〕

516 件

〔調査項目〕

回答者の世代 / 過去の講座への参加 / 講座を知ったきっかけ / 講座に対する感想 / また参加したいか

〔アンケート結果〕

講座参加者の世代等の内訳

未就学児	小学校低学年生	小学校高学年生	中学生	高校生	学生	一般成人	65 才以上	教員	合計
3	55	56	17	7	19	255	87	17	516
0.6%	10.7%	10.9%	3.3%	1.4%	3.7%	49.4%	16.9%	3.3%	100.0%

過去の講座への参加について

今回が初めて	過去 1 年以内に参加有	それ以前に参加有	未回答	合計
341	126	49	0	516
66.1%	24.4%	9.5%	0.0%	100.0%

どこで（何で）講座を知りましたか（複数回答あり）

県のたより	学校で配られた情報	その他の情報誌	博物館 HP	家族・友人	友の会	博物館催物案内	当館公式 X	そのほか	合計
42	6	7	260	109	12	78	13	14	541
7.8%	1.1%	1.3%	48.1%	20.1%	2.2%	14.4%	2.4%	2.6%	100.0%

講座に参加しての感想（複数回答可）

内容が おもしろかった	内容が つまらなかった	内容が わかりにくい	教え方が良かった	もっとはやくてよかった	もっとゆっくりがいい	説明がわかりにくい	講座の内容が違った	合計
469	3	2	336	16	50	14	16	906
51.8%	0.3%	0.2%	37.1%	1.8%	5.5%	1.5%	1.8%	100.0%

また参加したいですか（複数回答あり）

もっと上のレベルに参加したい	同じ内容なら参加したい	もっと下のレベルへ参加したい	もう参加したくない	合計
226	308	31	6	571
39.6%	53.9%	5.4%	1.1%	100.0%

6. 刊行物

6.1. 定期刊行物

博物館の調査研究の成果として、「神奈川県立博物館研究報告（自然科学）」第54号を刊行した。本号には7編の論文が掲載された。本誌は49号から完全電子ジャーナルに移行し、当館ウェブサイト及びJ-STAGEで公開している。

神奈川県内の自然誌に関する研究成果の公表、記録を目的とした、「神奈川自然誌資料」第46号を刊行した。本号には11編の論文が投稿され、査読等を経て9編が掲載された。本誌は第41号から完全電子ジャーナルに移行し、当館ウェブサイト及びJ-STAGEで公開している。

博物館の広報誌として、「自然科学のとびら」を年4回発行した。一般利用者向けに博物館からの情報をわかりやすく提供することを目的としている。また、同じ内容を当館ウェブサイトで紹介している。

前年度の博物館活動に関して、その概要を紹介する「神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報」第29号(2023年度)を刊行した。本誌は、国内の主な博物館、県内の研究機関、行政機関等に配布している。

6.1.1. 神奈川県立博物館研究報告（自然科学）

[号数] 第54号（電子出版）

[発行日] 2025年3月27日

[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト
(<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1599723857751/index.html>) ならびに J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/bkpmnh/-char/ja>)

[編集担当] 西村双葉・夏目 樹

[編集委員会] 田中徳久(編集委員長)・佐藤武宏(編集副委員長)・新井田秀一・大島光春・石浜佐栄子・西村双葉・夏目 樹

[内容]

田中徳久・村上雄秀・鈴木伸一・中村幸人：キハギクラスに所属する植物社会学的な植生単位のタイプ指定

田中徳久・アリサ グラボスカヤ・ボロディナ・勝山輝男・福田知子・大西 亘：コマロフ植物研究所の神奈川県産被子植物（双子葉類）の基準標本と関連標本（英文）

渡辺恭平：日本産トガリヒメバチ亜科（ハチ目、ヒメバチ科）の32新種の記載を伴う分類学的研究（英文）

和田英敏・鈴木寿之・小林大純・瀬能 宏：原著論文：琉球列島から得られたアゴアマダイ科カエルアマダイ属の2新種シモフリカエルアマダイ(新称) *Stalix albonotata* およびサラシカエルアマダイ(新称) *S. yanoi* (英文)

伴 和幸・峯水 亮・加山藍子・佐藤洋一：沖縄県久米島沖で撮影された特異的な形態をもつクロボウズギス科魚類トゲボウズギス属の仔魚の記載

尾山大知・瀬能 宏：伊豆・小笠原諸島におけるカエルハゼの出現記録

松本涼子：神奈川県国府津海岸に漂着したアオウミガメ *Chelonia mydas* の消化管内容物とフジツボの付着痕について

6.1.2. 神奈川自然誌資料

[号数] 第46号（電子出版）

[発行日] 2025年3月20日

[アーカイブ場所] 当館ウェブサイト
(<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1599725880823/index.html>) および J-STAGE (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/nkpmnh/list/-char/ja>)

[編集担当] 鈴木 聡・和田英敏

[編集委員会] 佐藤武宏・秋山幸也・萩原清司

[内容]

渡辺恭平：神奈川県から発見されたシロアシクサレダマバチ *Macropis (Macropis) tibialis* Yasumatsu & Hirashima, 1956 (膜翅目ケアシハナバチ科)

加登岡大希・瀬能 宏・和田英敏・藤原義弘：稀種イチハラビロウドザメ（ツノザメ目：オンデンザメ科）の相模湾からの記録、および日本における分布と生息状況

大和田正人：横浜市新横浜公園で観察された嘴が変形したオオジュリン *Emberiza schoeniclus*

小和田侑希・坂下 魁・今村優輝・北村 亘：カニ籠を用いたミシシippアカミミガメの捕獲における餌の嗜好性および気候条件の差異

有馬 一・船藤 史・太田真琴・宮本知佳・鈴木義明・尾形 優・古郡翔也・天野亜希・七里浩志・梅田 孝：よこはま動物園および周辺におけるトンボ相 2022-2023

小嶋紀行：大磯丘陵におけるモクレイシの繁殖特性
如月 迅・成田謙介・和田英敏：ナンヨウハギの相模湾における分布記録（スズキ目：ニザダイ科）

元村優介・佐藤宏樹・柚村七々実：神奈川県城ヶ島で採集されたトゲウミエラカクレケンミジンコ(新称) (ケンミジンコ目：カクレケンミジンコ科)

井村勇貴・近藤正博・岩倉翔吾・久保田 信・向井有理：相模湾葉山港にて採集されたニホンベニクラゲ *Turritopsis* sp. の出現傾向とその分子系統学的考察

6.1.3. 自然科学のとびら

自然科学のとびら 30 巻 2 号 通巻 115 号
[発行日] 2024 年 6 月 25 日
[発行部数] 250 部
[編集担当] 本杉弥生
[内容]
山下浩之：表紙「硫黄島の新島の噴火」
佐藤武宏：「生命の星・地球博物館の 30 年間を振り返る」
渡辺恭平：「名前調べが難しい昆虫をどうやって調べるか？」
石田祐子：「後立山連峰のお花畑（広葉草原）ー地形と地質と植生とー」
土屋定夫：ライブラリー通信「「夜話」って何？」

自然科学のとびら 30 巻 3 号 通巻 116 号
[発行日] 2024 年 9 月 15 日
[発行部数] 250 部
[編集担当] 本杉弥生
[内容]
松本涼子：表紙「ロンドン自然史博物館来館者を出迎えるシロナガスクジラ *Balaenoptera musculus* (Linnaeus, 1958)」
石浜佐栄子：「さまざまな扉を開く砂 ～誰にも開かれた「すな」展示を目指して」
西村双葉、白形知佳（新江ノ島水族館 獣医師）：「クジラと海洋プラスチック」
加藤ゆき：「鷹渡る」
小林瑞穂：ライブラリー通信「特別展示図録 30 年の歴史」

自然科学のとびら 30 巻 4 号 通巻 117 号
[発行日] 2024 年 12 月 15 日
[発行部数] 250 部
[編集担当] 本杉弥生
[内容]
大西 亘：表紙「祝・指定 100 年！ 早川のビランジュ」
鈴木 聡：「小さくても大切な骨格の構成員たち」
大島光春：「展示のあれこれー博物館展示における挑戦と未来ー」
松本涼子：「ロンドン研究日記 2」
望月千奈：ライブラリー通信「保育社の図鑑がすごい！」

自然科学のとびら 31 巻 1 号 通巻 118 号
[発行日] 2025 年 3 月 15 日
[発行部数] 250 部
[編集担当] 本杉弥生
[内容]
田中徳久：表紙「博物館は 10 年、50 年、100 年先へ」
和田英敏：「“古標本”で遡る 100 年前の相模湾産魚類相」
新井田秀一：「吉田初三郎・作、大雄山最乗寺を描いた 2 種類の鳥瞰図」
夏目 樹：「断層岩の研究」
土屋定夫：ライブラリー通信「ほぼほぼ同名異本③ あなたは「あつ派」、それとも「わっ派」？」

6.1.4. 神奈川県立生命の星・地球博物館年報

[号数] 第 29 号
[発行日] 2024 年 9 月 15 日
[発行部数] 400 部
[編集担当] 田村 哲・石持みずき・夏目 樹

[内容]
沿革・事業報告（運営管理機能・情報発信機能・シンクタンク機能・データバンク機能・学習支援機能・刊行物・情報システム・連携機能）・資料

6.2. 不定期刊行物

博物館の学術活動の成果のうち、総合研究の成果をまとめた成果として「神奈川県立生命の星・地球博物館調査研究報告（自然科学）」を、論文形式でない成果として「神奈川県立生命の星・地球博物館特別出版物」を不定期刊行している。2024 年度はいずれの刊行もなかった。

6.3. 刊行物販売状況

刊行物名	単価	販売部数	刊行物名	単価	販売部数
【改訂第 2 版】生命の星・地球博物館 展示解説書	1,800	410	よみもの ナウマンゾウがいた！	800	25
地球環境を考える 地球 SOS	500	22	木の洞をのぞいてみたらー樹洞の生きものたちー	1,000	23
パレオパラドキシアとデスモスチルス 絶滅した生物	500	31	水生昆虫大百科 およげ！ゲンゴロウくんー水辺に生きる虫たちー	1,000	26
貝殻に残された情報から貝殻の進化・環境の変化を探る 貝からの伝言	500	29	益田ーと日本の魚類学ー魚類図鑑に生涯を捧げた DANDYー	1,400	12
偉大なアマチュア自然科学者の軌跡 櫻井コレクションの魅力	400	24	どうする？どうなる！外来生物 とりもどそう私たちの原風景	1,000	26
日本の魚学・水産学事始め フランツ・ヒルゲンドルフ展	1,000	12	植物誌をつくろう！ー『神奈川県植物誌 2018』のできるまでとこれからー	700	34
オオカミとその仲間たちーイヌ科動物の世界ー	1,100	43	アオバトのふしぎー森のハト、海へ行くー	900	71
カニの姿ー酒井コレクションからー	1,200	26	絶海の自然ー硫黄列島をゆくー	1,100	22
サルがいて、ヒトがいてー野生動物との共存を考えるーフットのひとりごと	400	5	みどころ沢山！かながわの大地	800	104
神奈川県植物誌 2001	9,800	1	かながわご当地菌類ガイドブック	1,000	48
化石どうぶつ園ー北アメリカ漸新世の哺乳類ー	1,100	16	生命の星・地球博物館の 30 年	1,000	321
神奈川県レッドデータ 生物調査報告書 2006	2,000	10	合計		1,341

7. 情報システム

7.1. システムの概要

博物館情報システムは、博物館の活性化、生涯学習時代における学習支援、研究活動の高度化等を推進するため、収蔵資料（標本・画像ほか）に関する情報を基本として、博物館に蓄積されている膨大な量の知的情報を総合的に管理する博物館活動のプラットフォームとして構築されたものである。

このシステムには、1995年3月より稼動している「収蔵資料管理システム」、「展示情報システム」というサブシステムがあり、これらを有機的に機能させることにより博物館業務の柱である資料の収集・管理、研究、展示活動を支援している。また、研究成果の公開や広報・普及活動に関するお知らせは、2012年9月より「ウェブサイト公開システム」で運用している。

このシステムは、当博物館と県立歴史博物館が共同で開発し、2000年度および2005年度には、機器の更新および新OSに対応したシステムへの移行作業を行った。さらに、2006年度にはUpdateサーバを追加導入し、クライアントPCのWindows Updateを効率よく行うことができるようになり、管理もしやすくなった。

2020年度の機器更新では、「収蔵資料管理システム」のバージョンアップにより、「収蔵資料データベース」として収蔵資料のデータがウェブサイトにて公開された。「ウェブサイト公開システム」はソフトウェアを変更し、マルチデバイスに対応したウェブサイトが提供可能となった。セキュリティソフトは教育局から各パソコンに配信される方法に変更された。

2021年度は、経年劣化に伴う教育委員会ネットワークのLAN工事を行った。基幹配線は光ケーブルでOM2、支線はUTPケーブルでCat6に変更した。2022年度の機器更新ではクライアントPCのOSが最新となった。

2025年3月31日現在の、当博物館の博物館情報システムの機器構成は下表の通りである。なお、各機器は10BASE-T/100BASE-TX/100BASE-T/1000BASE-SXによりTCP/IPプロトコルで接続されている。

機器構成表

場所	機器名	機種名	メモリ	数量	備考
		使用OS・ソフト等	ハードディスク容量		
CPU ルーム	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	収蔵資料管理システム (アプリサーバ)
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	2TB×4 (RAID5)		
	収蔵管理サーバ	富士通 PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	収蔵資料管理システム (サーチサーバ)
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	1TB×2 (RAID1)		
	展示情報サーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M4	8GB	1	展示情報システムの管理
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	1TB×2 (RAID1)		
	WEB サーバ	富士通 PRIMERGY RX1330 M4	8GB	1	ホームページの管理
		Red Hat Enterprise Linux 7.7	2TB×2 (RAID1)		
	Update サーバ	富士通 PRIMERGY RX2530 M5	16GB	1	Windows Update の管理・ アクティブディレクトリーの管理
		Windows Server 2019 Standard	2TB×3 (RAID5)		
ミュージアム ライブラリー	来館者用端末	富士通 ESPRIMO D588/C	4GB	2	展示情報システムの閲覧など
		Windows 10 Professional	500GB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D588/C 他	8GB	3	
		Windows 10 Professional	500GB		
研究室・ バックヤード	研究用 WS	富士通 CELSIUS W5010 他	16GB	1	衛星画像処理や分布図の作成など
		Windows 10 Professional	500GB		
	職員用端末	富士通 ESPRIMO D588/C 他	8GB	41	
		Windows 10 Professional	500GB		
	画像入力用	富士通 CELSIUS W580	32GB	1	
		Windows 10 Professional	500GB		

2022年度リースを反映させて作成。備品、消耗品はカウントせずリースのみの数。

機種名・使用OS・ソフトウェアは機器更新時の納入明細より作成。

7.2. サブシステムの紹介

7.2.1. 収蔵資料管理システム

博物館情報システムの中核となる「収蔵資料管理システム」は、収蔵資料に関する情報（資料番号、資料名、採集地、採集年月日、採集者など）を、サーバで一元的に管理し、資料の画像、さらには画像そのものも資料として管理している。また、資料に添付するラベルの印刷など、資料整理業務の効率化も図られている。

このサブシステムは、『神奈川県植物誌 1988』、『神奈川県植物誌 2001』および『神奈川県植物誌 2018』の証拠標本を含む『維管束植物』や、ダイバーや釣り人などが撮影した魚の写真をデータベース化した『魚類写真』など、36 のデータベースから構成される。なお、2003 年度より、書籍（図書・雑誌）についても収蔵資料管理システムで取り扱われている。標本・アーカイブズ登録状況は 43 ページに記載した。また、書籍の情報については右表に示した。

これらの情報は、2020 年 10 月よりウェブページの収蔵資料データベースにて公開を行った。なお、アクセス実績等は、当館ウェブサイト年報第 30 号資料Ⅲ 3. 統計資料に掲載した。また、本システムにより維持・管理されているデータの一部は、独立行政法人国立科学博物館などとの協働により、インターネットを利用して外部に公開されている。

資料登録状況

分野	2023 年度までの登録件数	2024 年度の登録件数	合計
図書	36,754	1,606	38,360
雑誌（タイトル数）	4,080	59	4,139
別刷り	340		340
合計	41,174	1,665	42,839

7.2.2. 展示情報システム

ミュージアムライブラリーにおいて、展示室で見られる資料や解説文からさらに深く踏み込んだ学習への意欲を持つ利用者に対して、研修に基づく博物館独自の新鮮な情報を、検索システムにより分かりやすく提供している。

展示情報システムの一部は、2004 年 7 月より当館ならではのコンテンツとして、ウェブページで公開している。

2023 年度は、衛星画像のタイトルを『衛星画像と地図』に変更し、「地図」の検索を追加した。「地図」メニューでは、「地形図」といった一般的な地図だけでなく、「海図」や「地質図」のように特別な目的を持って作られた地図や豊かな色彩で作られた鳥瞰図（絵図）が検索できるようになった。

なお、2020 年度から 2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ライブラリーでの端末の使用を中止したが、2022 年 12 月に再開した。

展示情報システムのメニュー

タイトル	メニュー	概要
神奈川の自然	鳥類	神奈川に生息する鳥、218 種の画像や解説文、分布図や鳴き声を提供する。
	植物	神奈川に自生している植物、2,969 種の画像や解説文を提供する。
	昆虫	神奈川に生息する昆虫、639 種の画像や解説文を提供する。
	相模湾の魚	相模湾の代表的な魚、329 種の画像や解説文を提供する。
	コケ	神奈川県でよく見かけるコケ、82 種の画像や解説文を提供する。
	鉱物	神奈川県に産する主な鉱物、126 種の画像や解説文を提供する。
	関東ローム層	神奈川の主要な火山灰層、1,170 点の画像や解説文を紹介する。
	菌類	神奈川県で見られるさまざまな菌類、164 種の画像や解説文を提供する。
	空撮	神奈川の空から見た景観写真を 770 枚、うち学芸員のおすすめ写真を 63 枚解説と共に提供する。
酒井コレクション細密画	哺乳類	神奈川に生息する哺乳類 49 種の画像や解説文、骨格画像を 426 枚、10 種の 3D データを提供する。
		酒井恒博士夫妻が描かれたカニ原色細密画、660 種の画像を提供する。
菌類細密画		菌類学者今関六也氏のコレクション菌類細密画、129 点の画像を提供する。
衛星画像と地図	衛星画像	衛星画像や宙瞰図など 650 枚、うち学芸員のおすすめ 31 枚解説と共に提供する。
	地図	衛星画像や一般図や絵図など、758 点の画像や解説文を提供する。
図書・雑誌検索		当館のライブラリーで所蔵している図書、雑誌が検索できるように提供している。

7.3. インターネットの利用

7.3.1. ウェブサイト

小田原市と共同で 1995 年 10 月から開設していたウェブサイト（ウェブページ）は、当館へのサーバの設置に伴い、2006 年 2 月より博物館独自の運用に切り替えた。2012 年 9 月には利用者が使いやすく、また博物館の魅力が伝わるようウェブページのデザインを大幅に改良した。2020 年 9 月にはそれまで使用していたアプリケーションを入れ替えて、マルチデバイスに対応したウェブページが作成可能となった。

ウェブページでは博物館に関する様々な情報を提供しているが、そのトップページへのアクセス数とサイト内のページビュー数を示したのが下の表である。2020 年 9 月のソフトウェアの入れ替えに伴い、アクセス数が集計可能となり、2021 年 1 月から集計結果として使用している。2021 年 3 月末にはセキュリティ強化のため、http から https へ変更した。また、2024 年度のウェブサイトの更新件数は、739 件であった。

月別ウェブサイトアクセス数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	月平均	合計
TOP ページ アクセス数	55,397	54,236	48,785	79,320	83,293	60,313	48,502	44,380	38,834	45,314	49,619	56,452	55,370	664,445
サイト内 ページビュー数	124,387	121,327	103,117	152,981	166,733	113,549	97,801	90,839	81,017	94,948	97,289	110,268	112,855	1,354,256

7.3.2. 連携サイト

独立行政法人国立科学博物館と連携し、当館所蔵の魚類画像資料の検索サイト「魚類写真資料データベース」とその英語版である「FishPix」をそれぞれ 2001 年と 2003 年から運用している。

連携して情報を公開しているウェブサイト

タイトル（アドレス）	概 要	アクセス数
魚類写真資料データベース https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/photoDB/	魚類 124,198 件(150,120 点) の画像を提供している。 研究分野で公的機関が提供する画像データベースでは世界最大級。	5,742,760
FishPix https://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage-e/index.html	魚類写真資料データベースの英語版として、魚類 111,785 件の画像を提供している。	9,986,699

アクセス数：2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までのサイトアクセス数（件数）；国立科学博物館のデータ提供による。

7.4. 情報提供

7.4.1. GBIF への情報提供

GBIF（Global Biodiversity Information Facility：地球規模生物多様性情報機構）とは、生物多様性に関するデータを各国・各機関で収集し、ネットワークを通じて全世界的に利用することを目的とする国際協力による科学プロジェクトである。プロバイダごとにデータが蓄積され、その数は GBIF 全体では 2025 年 4 月 21 日現在 30 億 9778 万件以上となっている。また、独立行政法人国立科学博物館が中心となり推進している自然史標本データ整備事業では、S-Net（サイエンスミュージアムネット）として国立科学博物館経由で GBIF に提供されたデータが国内向けに公開されている。2006 年度から、当館を含む神奈川県内の博物館及び関連施設が連携を図り、自然史標本情報の整備や公開などを目的に、「自然史標本データベース神奈川委員会」が設置されている。2024 年度について、自然史標本データベース神奈川委員会への参加館は全 2 館、全体で 15,000 件の自然史標本情報の提供を行った。

2024 年度自然史標本データベース神奈川委員会参加館
相模原市立博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館

当館からの 2024 年度標本情報提供数

コレクション名	提供件数
植 物	7,600 件
魚 類	5,000 件
鳥 類	200 件
両生類・爬虫類	200 件
甲殻類・軟体動物	1,000 件
合 計	14,000 件

8. 連携機能

当館では、連携機能を活かした事業として、継続的なネットワーク事業、共催事業を実施するとともに、館内施設による利用者サービスを行っている。

8.1. 友の会

「神奈川県立生命の星・地球博物館 友の会」は、博物館を広く活用し、博物館活動を支援するとともに、会員相互の交流を図ることを目的に 1997（平成 9）年に発足した。

8.1.1. 事務局・広報部・企画部の活動

事務局は、会員の互選によって選出された役員によって運営され、博物館と会員相互の親睦を深める事業や友の会の普及と発展のために必要な事業を積極的に展開した。また、ミューズ・フェスタ 2025 に出展したり、博物館との共催でサロン・ド・小田原（3 回）や、よろずスタジオ（5 回）を開催した。また、博物館のミニ企画展示コーナーで 3 月 24 日（日）～5 月 19 日（日）まで「友の会の皆さまと共に」を開催した。

事務局

1. 第 28 回 総会・総会イベントを開催した。
2. 役員会を 7 回開催し、以下の事項を検討・実施した。
役員会開催日／4 月 20 日（土）※リモート開催、5 月 11 日（土）、6 月 22 日（土）、9 月 21 日（土）、12 月 21 日（土）、2025 年 2 月 8 日（土）、2025 年 3 月 22 日（土）
 - 1) 友の会の運営について
 - 2) 会員への発送作業などについて
 - 3) 総会、および総会イベントについて
 - 4) 講座の企画・実施などについて

5) 友の会通信の構成などについて

広報部

1. 博物館ウェブサイト内の友の会ページ、ブログの管理・運営
2. X（旧 Twitter）@kpmtomo による情報提供
3. 友の会 年間行事一覧表の作成・配付
4. 会報「友の会通信」を 4 回（通巻 第 124 ～ 127 号）発行
5. 「自然科学のとびら 友の会版」を 4 回（通巻 第 115 ～ 118 号）発行

企画部

1. 講座担当者会議を 2 回開催し、以下の事項を企画・実施した。
講座担当者会議開催日／11 月 2 日（土）、2025 年 3 月 1 日（土）※ 2 回共にリモート開催
友の会が主催する講座や観察会を企画、博物館側との調整を行い、以下の講座を実施し、延べ 28 講座（そのうち中止 3 件）1,203 人が参加した（別表のとおり）。

8.1.2. 観察会・講座等

行事名		開催日	開催場所	参加数
1	よろずスタジオ「ほねほねクイズ、この骨だーあれ」（動物分野）	4/14（日）	東側講義室	40
2	植物観察会「里山・北八朔公園に春の植物を訪ねよう」	4/15（月）	横浜市緑区	17
3	植物観察会「身近な植物観察入門」	4/27（土）	博物館周辺	8
4	総会	4/28（日）	東西講義室	28
5	総会イベント 田中館長講演「神奈川県立生命の星・地球博物館の植物相調査から捉える博物館活動」	4/28（日）	東西講義室	36
6	植物観察会「大雄山最乗寺の初夏の植物」	5/7（火）	南足柄市 大雄山最乗寺	雨天中止
7	植物観察会「身近な植物観察入門」	5/25（土）	博物館周辺	10
8	地質観察会「箱根火山前期中央火口丘溶岩と地形の観察」	6/1（土）	箱根町	雨天中止
9	植物観察会「身近な植物観察入門」	6/22（土）	博物館周辺	11
10	よろずスタジオ「身近な菌類」（菌類分野）	6/23（日）	東側講義室	58
11	植物観察会「ケイワタバコに会いに行こう」	6/26（水）	箱根町宮ノ下	15
12	地話懇話会「世界の地形と地質～こんなところに行って、見てきた！～」	6/26（水）	西側講義室	20
13	地話懇話会「岩石に残された変形の履歴」	8/21（水）	西側講義室	23
14	よろずスタジオ「貝の中をみてみよう」（貝類）	9/15（日）	東側講義室	73
15	植物観察会「身近な植物観察入門」	9/28（土）	博物館周辺	11
16	植物観察会「森戸川でタニジャコウソウを見よう」	10/11（金）	三浦郡葉山町	14
17	植物観察会「身近な植物観察入門」	10/26（土）	博物館周辺	13
18	植物観察会「幕山周辺の秋の花」	11/2（土）	湯河原町幕山公園	雨天中止
19	よろずスタジオ「葉っぱで遊ぼう」（植物）	11/17（日）	東側講義室	68
20	植物観察会「身近な植物観察入門」	11/23（土祝）	博物館周辺	8
21	第 12 回生物間共生講演会 「菌類による枯木の分解と森林の生物多様性・炭素貯留」	11/24（日）	東西講義室	38
22	地質観察会「三浦半島南部で使われている石材観察」	12/7（土）	三浦半島	18

（次ページへ続く）

(前ページから続く)

行事名		開催日	開催場所	参加数
23	地話懇話会 ①マウンテンバイク・考古学・地質学のはざまー私のジオパーク巡り ②行った、見た、拾った…私のふりかえり	1/18(土)	西側講義室	13
24	地図を楽しもう	1/19(日)	実習実験室と 小田原市内	3
25	植物観察会「冬の雑木林を歩く」	2/15(土)	秦野市頭高山	20
26	よろずスタジオ「アンモナイトをなぞろう」(古生物)	2/16(日)	東側講義室	57
27	ミュージュフェスタ 2025	3/15(土) 3/16(日)	ライブラリ前 友の会ブース	584
28	地話懇話会「友の会発足時から今までの講座を振り返る」	3/26(水)	東西講義室	17
合計				1,203

8.2. サロン・ド・小田原

サロン・ド・小田原は、友の会との共催による講演・交流会からなる集いの1つ。従来の講演会や茶話会とは異なり、第1部の話題提供(講演)、第2部の交流会(ワークショップなど)を併せて「サロン」と位置づけ、いわゆるサイエンスカフェのように参加者と話題提供者の交流が深まることを期待して開催してきた。2020年度より新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止してきたが、2023年度からは、第1部の話題提供のみを再開させた。

第140回サロン・ド・小田原「クジラー海に棲む哺乳類とその調査」

[開催日] 2024年5月25日(土)

[会場] 博物館西側講義室

[話題提供] 西村双葉(当館学芸員)

[参加者数] 14名

第142回サロン・ド・小田原「“古標本”による蘇る100年前の相模湾の魚類相」

[開催日] 2025年1月11日(土)

[会場] 博物館西側講義室

[話題提供] 和田英敏(当館学芸員)

[参加者数] 19名

第141回サロン・ド・小田原「生命の星・地球博物

館の30年と、その未来像」

[開催日] 2024年9月7日(土)

[会場] 博物館西側講義室

[話題提供] 佐藤武宏(当館学芸員)

[参加者数] 27名

8.3. 神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会(WESKAMS)

神奈川県西部地域ミュージアムズ連絡会は、「神奈川県西部地域にあるミュージアムがネットワーク化をはかり、これからの新しいミュージアムのありかたを考えていこう」と当館のよびかけのもとに1996年7月に発足し、現在の加盟館園は53施設になる。会の愛称をWEST KANAGAWA MUSEUMSを略して「WESKAMS(ウエスカムズ)」と名付け、その事務局を当館においている。

WESKAMSの目的を達成するための事業について協議・検討する場として、2024年度は「館園長・協力会員会議」を1回、情報交換会を1回開催した。

また、WESKAMSに加盟するミュージアム施設が連携し、情報交換・相互理解のために互いの施設を訪問・見学する企画を、学習支援と地域文化発展に寄与するため、1997年10月から「ミュージアム・リレー」として一般に開放している。毎月1回、持ち回りで各施設の協力を得て特色を活かした特別な企画や、学芸員、専門スタッフによる分かりやすい解説が一般参加者に好評を博している。

今年度開催された会議

開催日	会議の名称	開催場所	出席者数
8/30(金)	情報交換会	県立生命の星・地球博物館	5館園6名、協力会員1名
2/28(金)	館園長・協力会員会議	県立生命の星・地球博物館	6館園6名、協力会員2名

今年度開催されたミュージアム・リレー

回数	開催日	開催場所	内 容	参加者		
				一般	高校生	関係者
第 336 走	4/19(金)	①箱根ビジターセンター	①館内のジオラマによりセンター周囲の箱根の地形等の概要説明後、館外で双眼鏡の便利な使い方の説明を受けた。その後、園内の自然学習歩道に出て、見ごろを迎えたマメザクラやミツバツツジなど様々な植物の種類や特徴、それを食べる鳥や動物などの説明と合わせて実や葉などのおい・手触りを体感するなど、五感を動員した観察会となった。動物たちの生息のフィールドサインを体感した。	8	0	3
第 337 走	5/8(水)	①箱根美術館	①美術館の概要や庭園（神仙郷）のガイドランスを受けた後に、苔庭や溶岩流を活用した石楽園などの自然環境を基調にした庭園を見学した。その後、本館内日本間の来賓室（通常非公開）で創立者の理想郷建設の想いについて説明を受けた。さらに本館展示室で鎌倉・室町時代から江戸時代の陶磁器等の所蔵品を鑑賞した。	9	0	5
		②箱根写真美術館	②写真家の館長は富士山の写真をライフワークとして取り組んでいる。本年 3 月に開館 22 年を経てリニューアルオープンしギャラリースペース等を拡張。1 階展示室で沼田博美作品展「おかえり」の作品を鑑賞後、2 階展示室で富士山の神秘的な造形美や時空間を捉えた数々の写真を鑑賞し解説を受けた。	9	0	4
		③箱根強羅公園	③公園と周辺開発の歴史の説明を受けた後、熱帯植物館・ブーゲンビレア館等を見学し、植物の解説を受けた。その後、「白雲洞茶苑」から大文字焼が行われる明星ヶ岳の景観を眺望しながら歴史の説明を受けた。さらに、フランス式庭園内のプロムナードを散策し、バラ園やシンボルのヒマラヤ杉の説明を受けた。	9	0	4
第 338 走	6/5(水)	①箱根ジオミュージアム	①屋外観察として、2022 年 3 月から監視員誘導による入場が可能となった大涌谷自然研究路のシェルターや噴気等を見学後、周囲の箱根外輪山や富士山等の地形の説明を受けた。その後、館内展示で「蒸気井」温泉の説明や GE0 ホールで箱根火山誕生の歴史について地形模型等で解説を受けた。また、近年の噴火活動のパネル解説、災害対策としての火山震動や火山ガスの常時監視の説明を受けた。	6	0	3
		②箱根駅伝ミュージアム	②今年で 100 回目を迎えた箱根駅伝の歴史について、館内のテーマごとの展示等を通じ、時代や社会の変化と重ね合わせた駅伝の内容や展開、優勝校の変遷や放送媒体の変化に合わせた PR 戦略としての近年のユニフォームの移り変わりなどを、長年集積されたデータに基づき、さまざまなエピソードを交え解説を受けた。	4	0	3
第 339 走	7/10(水)	①箱根ドルハウス美術館	①「ドル」とは「小さい」を意味し、16 世紀の南ドイツのニュルンベルクで、城を建てる際の模型として製作されたのが始まり。館長が 20 年の歳月をかけて収集したコレクションを堪能した。また、開催中の企画展を見学した。なお、同館は昨年 4 月にリニューアルオープンしたが、屋外でミニ機関車やレンタル用のクラシックスポーツカー等のアミューズメント施設を新設している。	9	0	4
第 340 走	8/2(金)	①箱根湿生花園	①園の概要や経緯の説明の後、企画展として開催中の「世界の食虫植物展」を見学し食虫植物の定義や種類別の虫の捕まえ方の説明を受けた。その後、園内に整備された 8 つの地区ごとの植物について、特徴や生育させるための工夫等の詳細な解説を受けながら園内を周遊・散策した。最後に仙石原湿原植生復元区のエリアを散策し復元の取り組みの説明を受けた。	10	0	3
第 341 走	8/30(金)	①県立生命の星・地球博物館	①最初に今年度開館 30 周年を記念して開催中の特別展について展示概要の解説後、展示室内の各エリアを観覧し、これまで集めてきた資料、学術活動の根拠資料、特別展等で使用した資料等について解説を受けた。その後バックヤード見学に移り、庫内の収蔵設備や収蔵資料の状況、標本類の分類方法や資料にまつわるエピソードなどの解説を受けた。	6	0	4
第 342 走	9/11(水)	①箱根ガラスの森美術館	①ヴェネチアン・グラス美術館の中で開催中の特別企画展「香りの装い〜香水瓶をめぐる軌跡〜」の展示作品の解説を受けながら鑑賞した。時代の移り変わりとともに宝石や白磁、ガラスなど厳選した約 80 点の様々な香水瓶が紹介され、3000 年以上の時を超えて人と香りが歩んだ軌跡を巡る内容となっている。その後、庭園内で秋の風物詩である「ススキ」のクリスタル・ガラスや噴水等、様々なオブジェを見学した。	11	0	4
第 343 走	10/2(水)	①箱根関所	①幕末期の箱根関所の姿を平成 19 年に完全復元。京口御門で関所の役割の説明後、出入口の木柵沿いに遠見番所まで階段を登り、関所の施設を一望した。また、現在の場所に箱根関所が設置された地政学的な経緯等について説明があった。その後、江戸口御門で、江戸方向からの出女等の厳しい検査の説明を受け、最後に通常は入れない大番所の上番休息所で関所の役割や実情の説明を受けた。	5	0	3
		②恩賜箱根公園	②公園入口の中央門で、箱根離宮の歴史と県立公園になるまでの経過の説明後、正面園路を歩きながら、元はハコネザサの群生地の一部を生垣に使用、湿度が高く馬酔木やコケ類が多い植生などの説明を受けた。その後、湖畔展望館で箱根離宮時代の西洋館と日本館の役割や神奈川県に下賜された歴史等の説明を受けた。	4	0	3
第 344 走	10/18(金)	①真鶴町立中川一政美術館	①現在開催中の展示「中川一政美術館の玉手箱」として、近年、館に寄贈・寄託された作品を中心に、初公開となる作品や 800 点以上を描いたバラの絵や向日葵、駒ヶ岳などの作品、直筆の書等の所蔵作品や芸術世界について解説を受けた。その後、隣接する「お林展望公園」内に復元公開した画伯のアトリエを見学した。	9	0	2
		②真鶴町立遠藤貝類博物館	②開館の経緯の説明後、開館 14 年目となった館内の 3 つの展示室「真鶴や相模湾」「日本」「外国」の多種多様な貝コレクションを通して、生物の多様性と自然のふしぎな魅力について説明を受けた。その後、海の生物を楽しく学ぶ「海のミュージアム」として実施している、海の生態系を支えるプランクトンを顕微鏡で観察しながら解説を受け、真鶴半島の豊かな自然の世界を体感した。	3	0	2
第 345 走	10/25(金)	①MOA 美術館	①開催中の「GOLD 明治の蒔絵」の展示作品の概要や見どころの解説を受けた。作品内部の煌びやかな蒔絵が映像化して紹介され、細部に至るまで美を追求した蒔絵の魅力が楽しめた。その後、館内の各展示室で展示作品を観覧した後、蒔絵を題材に制作された井上涼氏のムービー「忍者とゴールド・マキエ」を鑑賞した。	13	0	4
		②町立湯河原美術館	②館の概要説明の後、平松礼二館で開催中の企画展「お月見気分」の作品を鑑賞しながら解説を受けた。その後、真鶴を拠点とした画家・高良真木の作品を紹介する特別展を観覧した。さらに平松礼二アトリエで制作途中作品や実際に使用している日本画画材を見学し、岩絵具や膠(にかわ)等の画材の説明を受けた。	14	0	4
第 346 走	11/15(金)	①二宮町ふたみ記念館	①ふたみ記念館設立の経緯と二見利節の画業を解説とビデオで紹介。その後、講師（平塚市元学芸員）の説明で、利節の人生における画業の経緯や影響を与えた画家、さらにさまざまな技法や画材に展開された作品の変遷や、個々の作品の作画意図、絵画構成や印象等の解説を受けた。	19	0	4
		②箱根町立郷土資料館	②特別展示室で開催中の企画展「生誕 200 年 福住正兄」について展示資料を観覧しながら解説を受けた。箱根における近代開発の小田原〜湯本間の新道開削や馬車鉄道の敷設を主導し、国指定重要文化財「福住旅館金泉楼・萬翠楼」を設置した他、二宮尊徳の高弟として報徳仕法に基づき湯本の立て直しに尽力した。また、国学や和歌に造詣が深く、当時の箱根を代表する文化人との説明を受けた。	7	0	3

(次ページへ続く)

(前ページから続く)

回数	開催日	開催場所	内 容	参加者		
				一般	高校生	関係者
第 347 走	11/29(金)	①小田原城天守閣	①常設展示室で小田原城の歴史的な位置づけや城下の特徴、戦国大名の北条氏が収めた施政の事績等について解説を受けた。その後、特別展「小田原城とその城下を掘る！発掘調査から解き明かされる歴史」について昭和 57 年の発掘開始からこれまでに出土した豊富な遺物、堀や石垣の遺構写真等の展示等、発掘成果の解説を受けながら観覧した。	11	0	2
		②小田原文学館	②敷地・建物は、明治の政治家 田中光顕の別邸として建てられたものを市が取得し、本館を小田原文学館として、別館を白秋童謡館として開設。本館で開催中の開館 30 周年記念特別展「小田原出身・ゆかりの文学者たちーその手蹟と事績」について解説を受けた後、別館で北原白秋の小田原時代の活動等の解説を受けた。	5	0	2
第 348 走	12/5(木)	①箱根ラリック美術館	①アール・ヌーボーからアール・デコの時代に活躍したフランスを代表するジュエリーとガラスの工芸家ルネ・ラリックの生涯にわたる作品や業績について、当時の時代背景や作品の特徴の移り変わりを含めた常設展示の解説を受けた。	11	0	2
		②松永記念館	②本館展示室で松永耳庵の事績を紹介する常設展で自筆の書やゆかりの品々の解説を受けた後、箱根板橋周辺エリアに邸宅を構えた実業家の状況や近代の三茶人の交流のエピソードの紹介があった。その後、記念館敷地内の老櫨荘(国登録有形文化財)で近代数寄屋風建築の意匠の特徴の説明を受けた。	7	0	2
第 349 走	12/13(金)	①県立おだわら諏訪の原公園	①ミカン栽培の果樹園にて、柑橘類全般の解説と園内に植生する柑橘類の分類方法(実の色・大きさ、皮の触感、葉の匂い等)の解説を受け検証した。その後、色・形・茎の太さなどによる美味しいミカンの見分け方の説明を受けた後、参加者がミカンの味見をしながら収穫体験を行った。	3	0	4
第 350 走	1/24(金)	①箱根町立森のふれあい館	①開催中の特別展「フィールドサイン展」を見学し、動物たちが残したフンや足跡、食べ痕などの生活の痕を読み解き、いつもとは違う目線で散策する楽しさについて解説を受けた。その後、木の実や草の実を使ったクラフト体験を行った。	4	0	4
第 351 走	2/14(金)	①小田原フラワーガーデン	①園の特徴は花梅が多く 300 品種が植えられ、花のすぐ近くまで寄って観察できる。今年の梅まつりのテーマ「紅梅〜あでやかな花梅」について説明を受けた後、紅梅と白梅の違いや、花や産地が特徴的な珍しい品種などを鑑賞した。また、恒温のトロピカルドーム温室で熱帯・亜熱帯植物を観察した。	16	0	4
		②小田原市尊徳記念館	②館の都合により中止	-	-	-
第 352 走	2/28(金)	①県立生命の星・地球博物館	①開催中の企画展「すな-ふしぎをみつけよう-」について展示のねらいや博物館で砂を集める意味などの説明があった。その後特別展示室内で①砂とはどのようなものかの紹介②実験展示や標本を見ながら不思議な砂の性質を発見③砂を集める意味や集めてきた砂を一挙紹介④子どもも大人も砂のいろいろな性質を体験できる、4 つのコーナーを通じて砂の特徴についてわかりやすい説明があった。	23	0	5

8. 4. 館内施設等の状況

当館では利用者へのサービス充実のため、売店「ミュージアムショップ」、レストラン「フォーレ」、ともしびショップ・喫茶「あーす」の各施設を外部からのテナントにより設置している。

売店「ミュージアムショップ」(1 階)

生涯学習施設としての博物館におけるミュージアムショップであることから、展示内容と関連した物をできるだけ世界中から取り寄せている。例えば、モロッコからモササウルスの歯・アンモナイト・三葉虫・サメの歯、マダガスカルからアンモナイト、アメリカ・ユタ州から三葉虫、アメジスト・ローズクォーツ・水晶・メノウはブラジル、モルダバイトはチェコからなど展示物の秘めたメッセージの伝わるグッズを販売している。特別展に際しては、それぞれの展示コンセプトに合わせて特別コーナーを設置している。

また、博物館とショップスタッフとの定期ミーティングを通して、博物館におけるミュージアムショップのあり方や扱うグッズについて検討を行っている。それによって当館学芸員の執筆による博物館刊行物の発行や自然科学系書籍の充実、オリジナル商品の開発などの成果をあげた。

博物館の来館者が、その感動や驚きを持ち帰り、また行ってみようと思っただけのような空間づくりとしている。

レストラン「フォーレ」(3 階)

早川のせせらぎ、緑の山並みに囲まれたロケーションの博物館レストランは、見学による「博物館疲労」を癒し、感動や驚きの余韻を語り合う空間として重要であり、利用者サービスの一翼を担っている。

メニューは、サンドウィッチなどの軽食から、ハンバーグ、カレーライスなどの洋食、箱根そばをセットにした和食などを用意している。また、ケーキ・メニューなども充実しており、どなたにでも対応できる品揃えとなっている。事前の予約があれば、障がい者に配慮した調理方法での提供も可能な範囲で対応している。利用状況は、日曜日、祝日、春・夏休み等、学校の休みの日には利用者が多い。

今後も、博物館及び地域のレストランとしての特色を出すため、利用者のニーズを意識し、内容の充実と明るく雰囲気の良いレストランを目指していく。

ともしびショップ・喫茶「あーす」(1 階)

「ともしびショップ」は、障がい者の社会参加の促進、就労の場の確保の視点から、障がい者の働ける場として設置されており、当ショップは県内では 4 店目にあたる。

「あーす」は、来館者の休憩場所として喫茶を営業しているほか、市内の入所施設・作業所等での自主製品の販売も行っている。

神奈川県立 生命の星・地球博物館 年報 第 30 号 (2024 年度)

発行日	2025 年 9 月 15 日
発行者	神奈川県立生命の星・地球博物館 館長 田中徳久 〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 電話 (0465) 21-1515 / FAX (0465) 23-8846 https://nh.kanagawa-museum.jp/
印刷所	株式会社あしがら印刷

編集担当 田村 哲 (管理課)・石持みずき (企画情報部)・夏目 樹 (学芸部)

Web 版では 44 ～ 48 ページの「寄贈資料」について一部の寄贈者の方の氏名を掲載していません